

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第224集

みなみ やま ちょう い せき
南山町遺跡

しら き い せき
白木遺跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県の尾張北部は木曾川を県境として岐阜県と接し、ここには犬山城のある付近を扇頂とする扇状地地形が広がっています。南西方向に半径約13キロメートルの範囲に広がる木曾川扇状地（犬山扇状地）の扇中央部に江南市と丹羽郡大口町は立地しています。

調査が行われた江南市南山町遺跡と丹羽郡大口町白木遺跡は、扇状地を流れる五条川を挟んでそれぞれ右岸・左岸に位置します。これら遺跡周辺の江南市小折・曾本地区は、中期から後期を中心とする数多くの古墳が分布し「小折古墳群」として知られています。当時の村々の活発な活動が想像される場所でもあります。

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターでは、令和元年度から令和3年度にかけて道路改良工事（一般国道155号）に伴う事前調査として発掘調査を実施しました。その結果、南山町遺跡では奈良・平安時代を中心とした時期の建物跡や鎌倉・室町時代の区画溝や柱穴など、対岸の白木遺跡では竪穴建物や大型の掘立柱建物などが検出され、古代、中世の居住域が確認されました。この地域ではこれまで不明瞭であった時期の人々の営みを伝える貴重な資料を得ることができました。

本書はこれらの成果をまとめたものであり、学術的な資料として今後広く活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に対しての御理解、御協力を賜りました関係諸機関ならびに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げる次第であります。

令和6年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 岡本 範重

例 言

1. 本書は、江南市南山町西、南山町中、南山町東に所在する南山町遺跡（県遺跡番号060063）、丹羽郡大口町豊田一丁目に所在する白木遺跡（県遺跡番号230074）の発掘調査報告である。
2. 南山町遺跡と白木遺跡の発掘調査は、道路改良工事（一般国道155号）にかかる事前調査として、愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課より愛知県県民文化局を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間（調査面積）は、南山町遺跡が令和2年7月から10月（1,040㎡）、令和4年1月から3月（700㎡）、白木遺跡が令和2年2月から3月（370㎡）である。
4. 発掘調査は南山町遺跡を池本正明（調査課長）・堀木真美子（主任専門員）・武部真木（調査研究専門員）、白木遺跡を池本・早野浩二（調査研究専門員）が担当した。
5. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課・大口町生涯教育部歴史民俗資料館・江南市教育委員会教育部生涯学習課・江南市歴史民俗資料館
6. 南山町遺跡の令和2年度発掘調査については、橋本技術株式会社（現場代理人：橋本岩夫・調査補助員：高居芳美・測量技師：川崎雄二）より調査業務全般の支援を受けた。令和3年度発掘調査については、掘削業務及び測量業務を橋本技術株式会社（現場代理人：井上美和・測量技師：土田富司）に委託して実施した。
白木遺跡の発掘調査については、株式会社イビソク（現場代理人：水谷 誠・調査補助員：壁谷奈央・測量技師：江田大樹）より調査業務全般の支援を受けた。
7. 報告書作成にかかる整理作業において、出土遺物の実測・トレース作業の一部を株式会社地域文化財研究所、出土遺物の写真撮影を有限会社写真工房遊、金属製品の保存処理を株式会社東都文化財保存研究所にそれぞれ委託した。
8. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏からご指導、ご協力を得た。
赤塚次郎 浅田博造 小澤一弘 佐々有三 城ヶ谷和広 瀧 はる香 西松賢一郎 望月友恵
9. 本編の執筆は、第1章1-(1)、2、第2章、第5章1と全体の編集を武部真木、第1章1-(2)、第3章、第5章2を早野浩二、第4章2を鬼頭 剛（主任専門員）が担当した。なお、第4章1は株式会社パレオ・ラボ分析結果を武部がまとめて編集を行った。
10. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
SK：土坑 SI：竪穴建物 SB：掘立柱建物 NR：自然流路 SX：その他不明遺構
11. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土座標第七系に準拠した。ただし、表記は新測地系（世界測地系）による。
12. 海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。
13. 本編で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
14. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡の略記号は南山町遺跡が「ILMY」、白木遺跡が「1XSK」である。
15. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24

目次

第1章 遺跡と調査の概要	
1 遺跡の概要	1
(1) 南山町遺跡・白木遺跡の位置と環境	
(2) 周辺の遺跡	
2 調査の経緯・経過	14
第2章 南山町遺跡	
1 調査の概要	16
2 20A区・20B区の検出遺構	16
(1) 20A区の遺構	
(2) 20B区の遺構	
3 21A区・21B区の検出遺構	24
(1) 21A区の遺構	
(2) 21B区の遺構	
4 20A区・20B区の出土遺物	32
5 21A区の出土遺物	37
遺構一覧表・遺物一覧表	44
基本平面図・写真図版	58
第3章 白木遺跡	
1 既往の調査	76
2 調査の概要	77
3 調査の経過	77
4 基本層序	78
5 検出遺構	79
6 竪穴建物群	81
(1) 003SI・005SI・014SI	
(2) 007SI・010SI	
(3) 008SI・009SI	
7 掘立柱建物群	85
8 その他の遺構・遺物	85
遺物一覧表・写真図版	89
第4章 自然科学分析	
1 放射性炭素年代測定 (AMS)	100
2 南山町遺跡・白木遺跡における層序と堆積年代	106
第5章 総括	
1 南山町遺跡の調査成果	112
2 白木遺跡の調査成果	114
(1) 遺構・遺物と遺跡の変遷	
(2) 古代の遺構と時期変遷	
(3) 古代の遺構と遺跡の評価	

挿図目次

第 1 図	南山町遺跡・白木遺跡調査地点位置図	1
第 2 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺の遺跡	3
第 3 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺地籍図・空中写真	4
第 4 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 1 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	5
第 5 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 2 (江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵)	6
第 6 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 3 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	7
第 7 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 4 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	8
第 8 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 5 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	9
第 9 図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 6 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	10
第 10 図	南山町遺跡・白木遺跡調査区配置図 (S=1/5,000)・標高断面模式図	14
第 11 図	20A・B 区南壁断面図 -1 (S=1/100)	17
第 12 図	20A・B 区南壁断面図 -2 (土層注記)	18
第 13 図	20A・B 区南壁断面図 -3 (土層注記)	19
第 14 図	20A 区 054SD 平面・北壁断面図 (S=1/50)	20
第 15 図	20A 区 054SD 南壁断面図 (S=1/50)	21
第 16 図	20B 区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)	21
第 17 図	20B 区 148SD 付近 (S=1/50)	22
第 18 図	20B 区集石遺構 089～092SU (S=1/50)	23
第 19 図	20B 区 115SX 付近 (S=1/50)	24
第 20 図	21A 区南壁断面図 -1 (S=1/100)	25
第 21 図	21A 区南壁断面図 -2 (土層注記)	26
第 22 図	21A 区 147SI (竪穴建物) (S=1/50)	27
第 23 図	21A 区 036SK, 080SK 付近平面・断面図 (S=1/50)	28
第 24 図	21A 区 020, 026, 029SD・130SD 付近平面・断面図 (平面図 S=1/200, 断面図 S=1/50)	28
第 25 図	21A 区掘立柱建物 190SB 平面・断面図 (平面 S=1/80, 断面 S=1/50)	29
第 26 図	21A 区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)	30
第 27 図	21B 区平面・断面図 (S=1/80)	31
第 28 図	20A 区出土遺物実測図 -1 (S=1/4)	33
第 29 図	20A 区出土遺物実測図 -2 (S=1/4)	34
第 30 図	20B 区出土遺物実測図 -1 (S=1/4)	35
第 31 図	20B 区出土遺物実測図 -2 (S=1/4)	36
第 32 図	20B 区出土遺物実測図 -3 (S=1/4)	37
第 33 図	20B 区出土遺物実測図 -4 (S=1/4)	38
第 34 図	21A 区出土遺物実測図 -1 (S=1/4)	39
第 35 図	21A 区出土遺物実測図 -2 (S=1/4)	40
第 36 図	出土石器・石製品実測図 (S=1/4)	42
第 37 図	白木遺跡? 出土遺物 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	76
第 38 図	基本土層断面図	78
第 39 図	基本遺構平面図・概略図	80
第 40 図	003SI・005SI・014SI 遺構図 (S=1/40)	81
第 41 図	003SI・005SI 出土遺物実測図	82
第 42 図	007SI・010SI 遺構図 (S=1/80)	83
第 43 図	007SI 出土遺物実測図	83

第 44 図	008SI・009SI 遺構図	84
第 45 図	008SI 出土遺物実測図	85
第 46 図	掘立柱建物遺構図・出土遺物実測図	86
第 47 図	中世遺構 061SK 実測図・出土遺物実測図	87
第 48 図	自然流路 001NR・下位の堆積層 101NR 出土遺物実測図	87
第 49 図	その他出土遺物実測図	88
第 50 図	南山町遺跡・白木遺跡における分析試料採取地点	106
第 51 図	地点 1（南山町遺跡 21A 区）における深掘の地層断面	110
第 52 図	地点 3（南山町遺跡 20A 区）南壁中央部の地層断面	110
第 53 図	地点 5（南山町遺跡 21B 区）西壁における深掘の地層断面	110
第 54 図	地点 2（南山町遺跡 20B 区）における深掘の地層断面	111
第 55 図	地点 4（南山町遺跡 20A 区）南壁北端における深掘の地層断面	111
第 56 図	地点 6（白木遺跡 19 区）西端における深掘の地層断面	111
第 57 図	地点 7（白木遺跡 19 区）調査区中央部における深掘断面	111
第 58 図	南山町遺跡 主要遺構変遷図	113
第 59 図	白木遺跡の遺構分布	114
第 60 図	古代の遺構と時期変遷	116
第 61 図	白木遺跡と下田南遺跡の大型建物の比較	116
第 62 図	古代の白木遺跡とその周辺	117

挿表目次

表 1	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 （江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵）一覧表	8
表 2	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（大口町歴史民俗資料館所蔵）一覧表	10
表 3	調査担当者および調査支援スタッフ	15
表 4～11	南山町遺跡 遺構一覧表（1）～（8）	44～51
表 12～17	南山町遺跡 遺物一覧表（1）～（6）	52～57
表 18	白木遺跡？出土遺物（大口町歴史民俗資料館所蔵）一覧表	77
表 19	白木遺跡 検出遺構一覧表	79
表 20	白木遺跡 遺物一覧表	89
表 21	測定試料および処理（土器付着炭化物）	101
表 22	測定試料および処理（炭化材）	101
表 23	南山町遺跡 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	103
表 24	南山町遺跡 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	103
表 25	白木遺跡 測定試料および処理	105
表 26	白木遺跡 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	105
表 27	地点 1（21A 区）、地点 4（20A 区）、地点 5（21B 区）の火山灰分析結果	110
表 28	地点 2（20B 区）の火山灰分析結果	110
表 29	地点 2（20B 区）における放射性炭素年代測定結果	110
表 30	地点 3（20A 区）、地点 4（20A 区）の放射性炭素年代測定結果	110
表 31	地点 6（19 区）、地点 7（19 区）の火山灰分析結果	111
表 32	地点 6（19 区）における放射性炭素年代測定結果	111

写真図版目次

写真図版 1	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 長塚遺跡・上源寺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館蔵）
写真図版 2	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 曾本二子山遺跡・長塚遺跡・「小折富士塚周辺」・「木賀、小折富士塚周辺」 （江南市歴史民俗資料館蔵）
写真図版 3	（南山町遺跡）遺跡遠景空撮写真
写真図版 4	（南山町遺跡）20A 区全景／20B 区全景
写真図版 5	（南山町遺跡）20A 区 054SD／055SP／046SK／20B 区集石遺構
写真図版 6	（南山町遺跡）20B 区 個別遺構
写真図版 7	（南山町遺跡）20B 区 個別遺構
写真図版 8	（南山町遺跡）21Aa 区全景空撮写真／21Ab 区全景空撮写真
写真図版 9	（南山町遺跡）21Ab 区竪穴建物 147SI／21A 区全景
写真図版 10	（南山町遺跡）21Aa 区 015SK／023SK／050SK／010, 011SK／ 045, 085SK／020SD／21Ab 区 152SK
写真図版 11	（南山町遺跡）21Aa 区・21Ab 区・21B 区 個別遺構
写真図版 12	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 13	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 14	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 15	白木遺跡遠景
写真図版 16	白木遺跡調査区全景・土層断面
写真図版 17	（白木遺跡）竪穴建物 003SI
写真図版 18	（白木遺跡）竪穴建物群
写真図版 19	（白木遺跡）大型竪穴建物 008SI
写真図版 20	（白木遺跡）竪穴建物 003SI・大型竪穴建物 008SI
写真図版 21	（白木遺跡）掘立柱建物群
写真図版 22	（白木遺跡）掘立柱建物群・自然流路 001NR・101NR
写真図版 23	（白木遺跡）遺物写真
写真図版 24	（白木遺跡）遺物写真

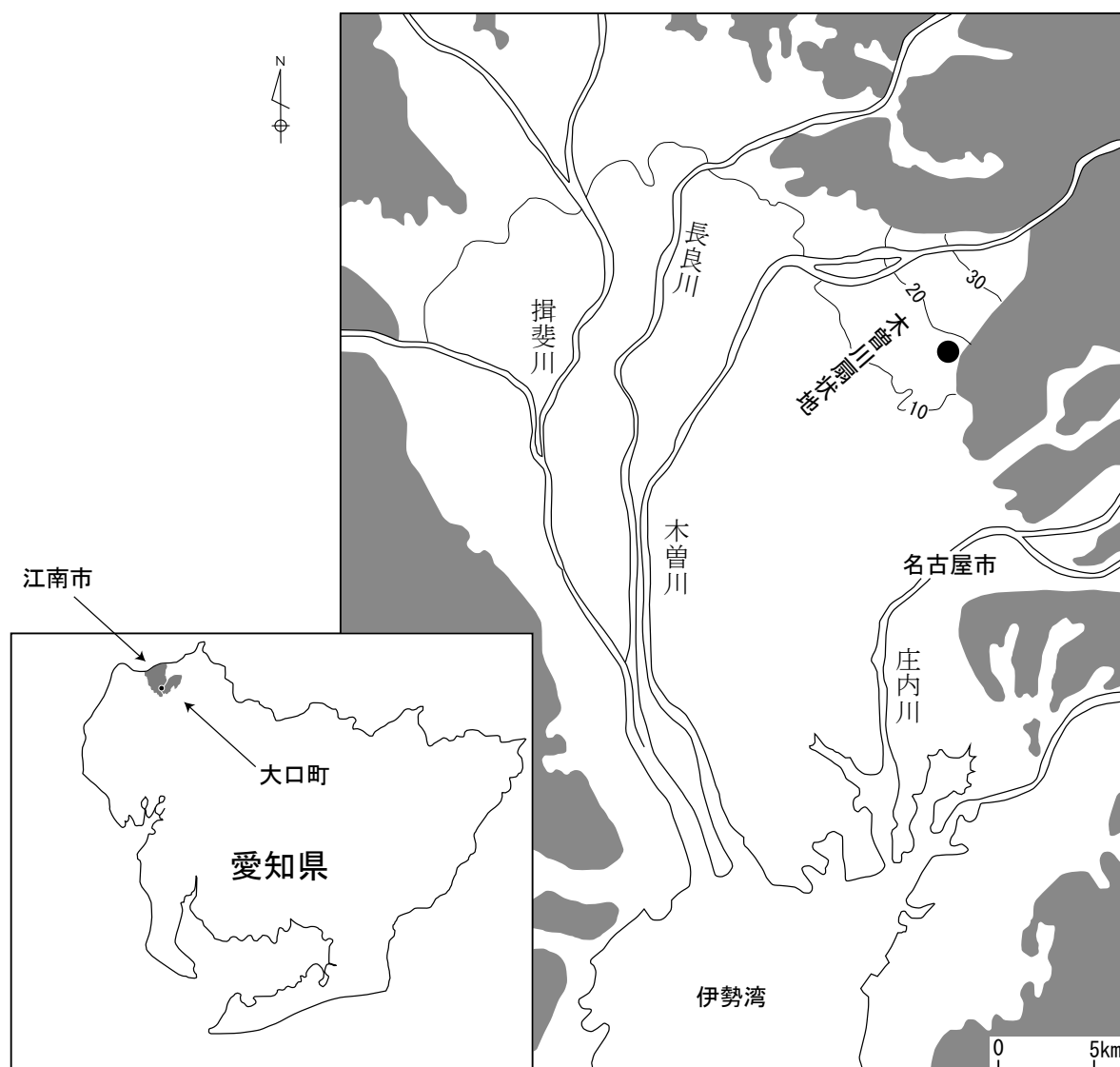
第1章 遺跡と調査の概要

1 遺跡の概要

(1) 南山町遺跡・白木遺跡の位置と環境

南山町遺跡は愛知県江南市南山町、隣接する白木遺跡は丹羽郡大口町豊田にあり、愛知県北西部に位置し、名古屋市からは北へ約18kmの距離にある。両遺跡は現在の市町村境となっている五条川を挟んでそれぞれ右岸・左岸に立地している。

調査地点は木曾川伊勢湾に注ぐ河口から約55kmの上流部に位置し、犬山市から南西方向に広がる半径約12km、標高約10mまでの木曾川扇状地（あるいは犬山扇状地とも呼ばれる）に立地している。扇状地の形は一般に谷の出口を扇状地の頂点とした同心円状のゆるい勾配の円錐形をなす。扇状地はその頂点から扇頂、中央部分を扇央、下流端の部分は扇端とよばれ、今回の調査地点は扇央部にあたる。調査地点周辺の標高は約16mである。



第1図 南山町遺跡・白木遺跡調査地点位置図

(2) 周辺の遺跡

縄文時代 縄文時代の遺跡として、草創期の有舌先頭器が採集されている中原遺跡(大口町)、早期の土器と石器が出土している北替地遺跡(大口町)等がある。弥生時代の遺跡として、昭和30年頃に中期の磨製石鍬が採集された桐野遺跡(江南市)、終末期の竪穴遺構等が確認された大御堂遺跡(大口町)等がある。曾本二子遺跡(江南市)からは後期の赤彩広口壺(第4図1)等が昭和32年に採集されている。

古墳時代 古墳時代の遺跡として、平成17年に個人住宅建設中に発見された布袋下山北遺跡(江南市)がある。黒褐色の遺物包含層中からは古墳時代前期のS字甕(第4図3)等が出土している。上古遺跡においては、古墳時代前期から中期の円筒埴輪が採集されている。

小折古墳群 江南市小折・曾本地区には古墳時代中期から後期を中心とする多数の古墳が分布し、「小折古墳群」とも称されるが、消滅した古墳も多い。南山町遺跡の北側には富士塚古墳が近接する。古墳は径30mの円墳ともされるが、造出付円墳、前方後円墳の可能性も指摘されている。古墳南西の天王山遺跡では昭和32年に中期後半から後期前半の円筒埴輪(第4図4～14)と形象埴輪(同15)が採集され、前方後円墳が存在した可能性も指摘されている。

白木遺跡の西側には白木古墳、いわき(岩木)塚古墳(滅)、白亀塚古墳(滅)が近接する(いずれも大口町)。現存する白木古墳は径12mの円墳とされる。いわき塚古墳は昭和初期、盛土を除去した際に「横穴式石室が現れ」たことから「岩き塚」と呼ばれ、地籍図(第3図)に残る地割からは径21mの円墳に復元される。乳文鏡、大刀と三角穂式鉄銚、須恵器等の遺物が大口町歴史民俗資料館に収蔵されているが(第8図・第9図1～13)、鉄銚や大刀は白亀塚古墳から発見されたともされ、帰属は明らかではないとのことである。平成13年に大口町からの依頼で愛知県埋蔵文化財センターが大刀をX線撮影したところ、刃関に花文の象嵌があることが判明した。神福神社古墳(大口町)は全長54mの前方後円墳ともされるが、それを疑問視する意見もある。社殿付近からは平成16年に須恵器(第9図14)が採集されている。

曾本二子山古墳(江南市)は全長60mの前方後円墳で、明治20年の発掘調査で金銅装馬具等が発見されている。馬具等は東京国立博物館に収蔵されている。

古代寺院 7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺(一宮市)は昭和14年、尾張地域最初に発掘調査が行われた古代寺院としても著名である。伽藍配置は不明である。付近からは金銅誕生釈迦仏立像と金銅天部立像が出土している。

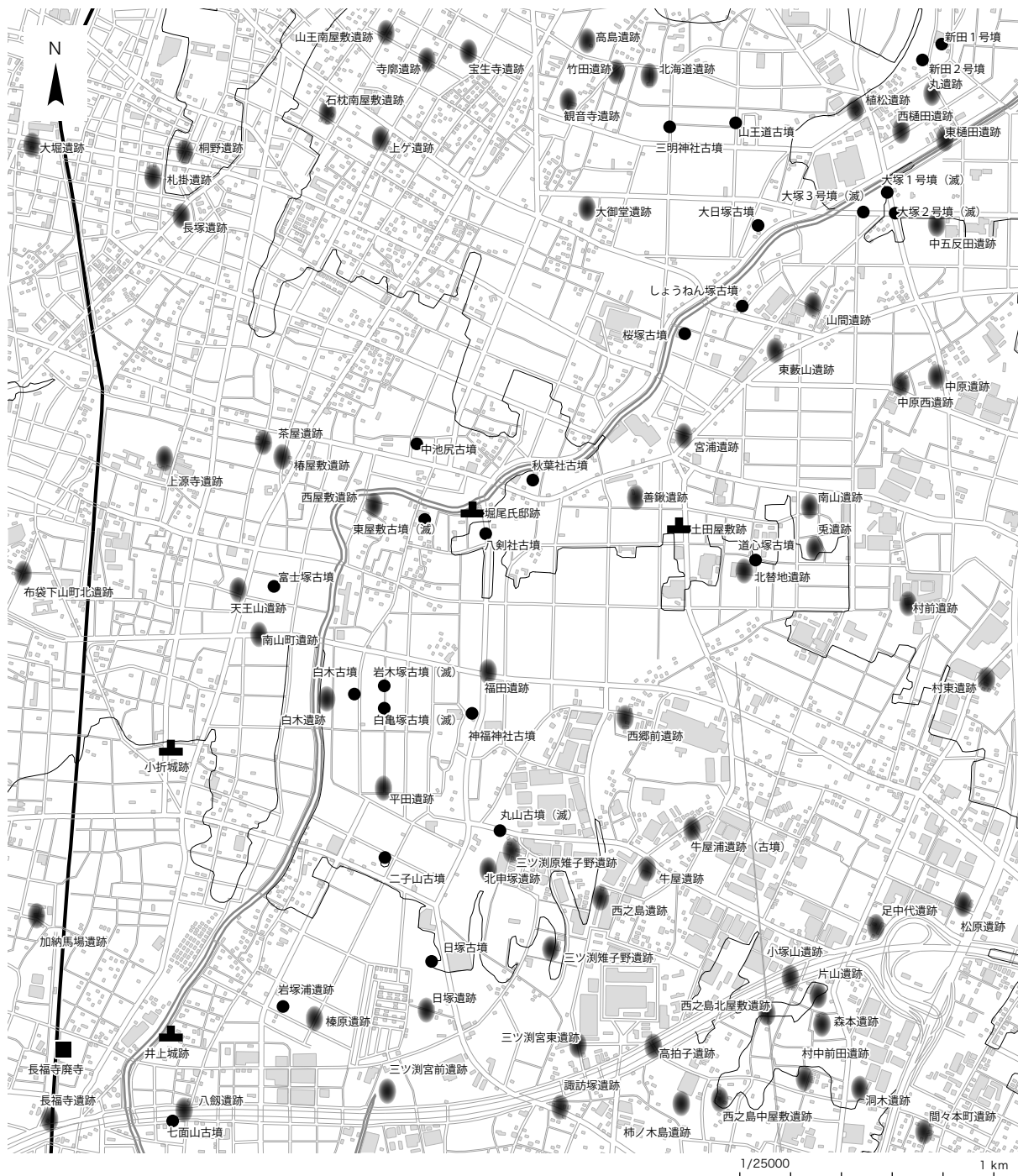
古代の遺跡 周辺の古代の遺跡については、いずれも内容、性格が不明である。江南市木賀一帯の遺物出土地は現在、長塚遺跡として登録されている。昭和32年から同45年にかけて採集された7世紀から8世紀の須恵器、土師器等(第5図1～15)が江南市歴史民俗資料館と一宮市博物館に収蔵されている。特筆される遺物として、「岡本」、「七十」の刻書須恵器(同7・8)、「美濃」施印須恵器(同10)がある。近接する桐野遺跡においても、昭和30年頃に「美濃」施印須恵器が採集されている。

天王山遺跡で昭和32年に採集された8世紀の須恵器(第5図16)、瓦塔は一宮市博物館に収蔵されている。同時に収蔵された遺物中には「美濃」施印須恵器(同18)も含まれるが、出土地や収蔵の経緯は不明である。

その他、江南市歴史民俗資料館には「小折富士塚周辺」、「木賀、小折富士塚周辺」として収蔵されている須恵器を中心とする遺物があるが、「木賀」出土として『市史』に掲載されている遺物と混在していることから、出土地には疑問も付される(第6図)。

中世の遺跡 その他、古代から中世の遺跡として、上源寺遺跡（江南市）がある。平成7年の発掘調査においては、奈良時代の建物が検出され、須恵器、土師器、灰釉陶器等（第7図）が出土した。

堀尾氏邸跡 堀尾吉晴の故地との伝承もある堀尾氏邸跡（大口町）は、平成21年の発掘調査で堀尾氏が活躍した16世紀代に営まれた屋敷地の一角が明らかとなった。生駒屋敷跡（江南市）は小折村領主としての生駒氏の屋敷で、絵図、地籍図からは屋敷地が復元され、「小折城」の存在も推定されている。



第2図 南山町遺跡・白木遺跡周辺の遺跡



明治17年地籍図(岩倉街道県道制定前)

0 100m



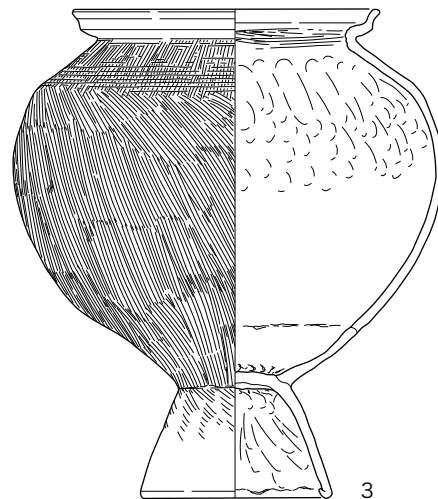
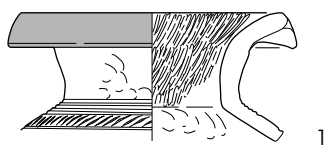
昭和21年空中写真(岩倉街道県道制定後・県道小口岩倉線制定前)

0 100m

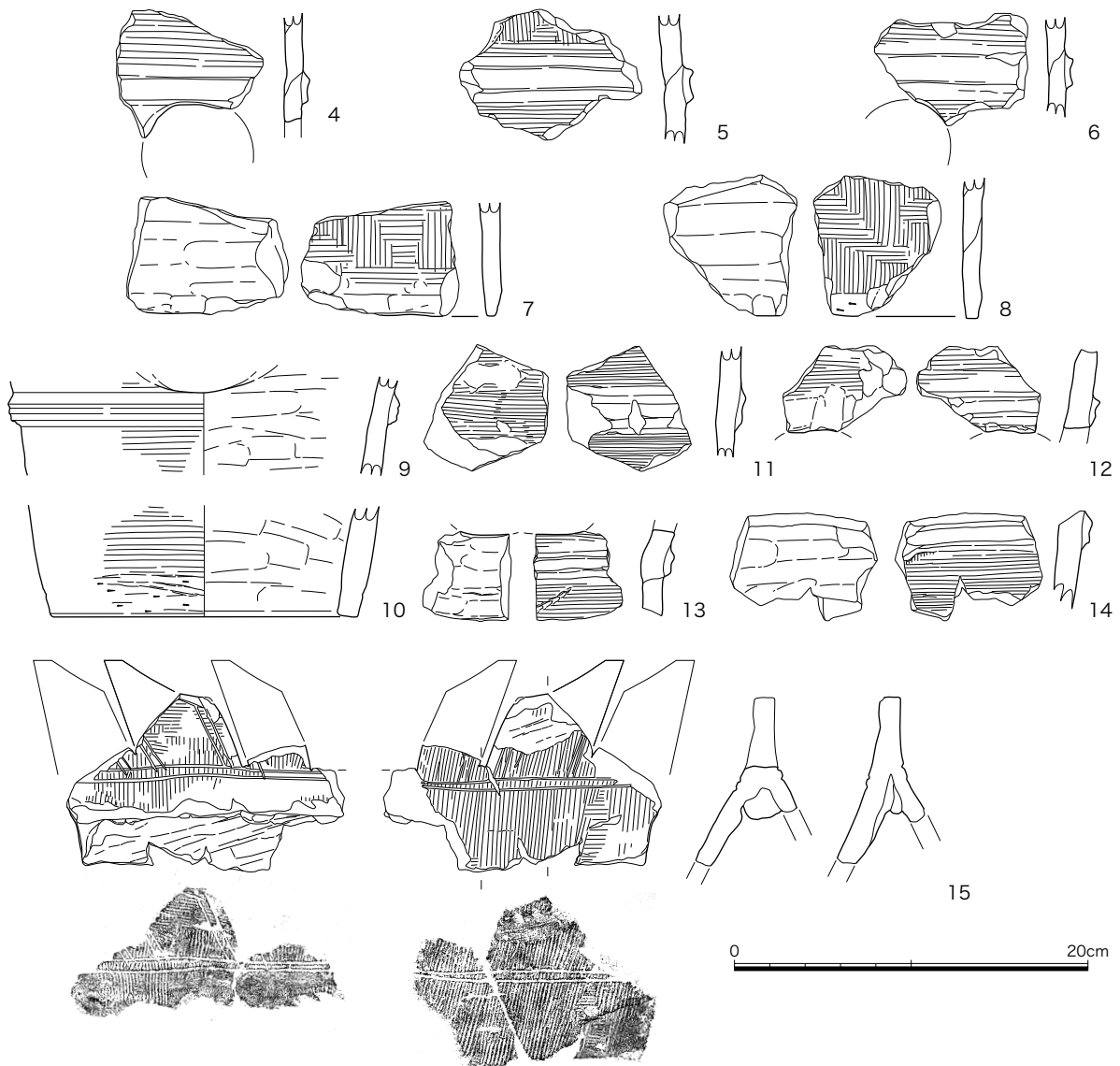
第3図 南山町遺跡・白木遺跡周辺地籍図・空中写真

曾本二子遺跡「曾本二子」

布袋下山北遺跡

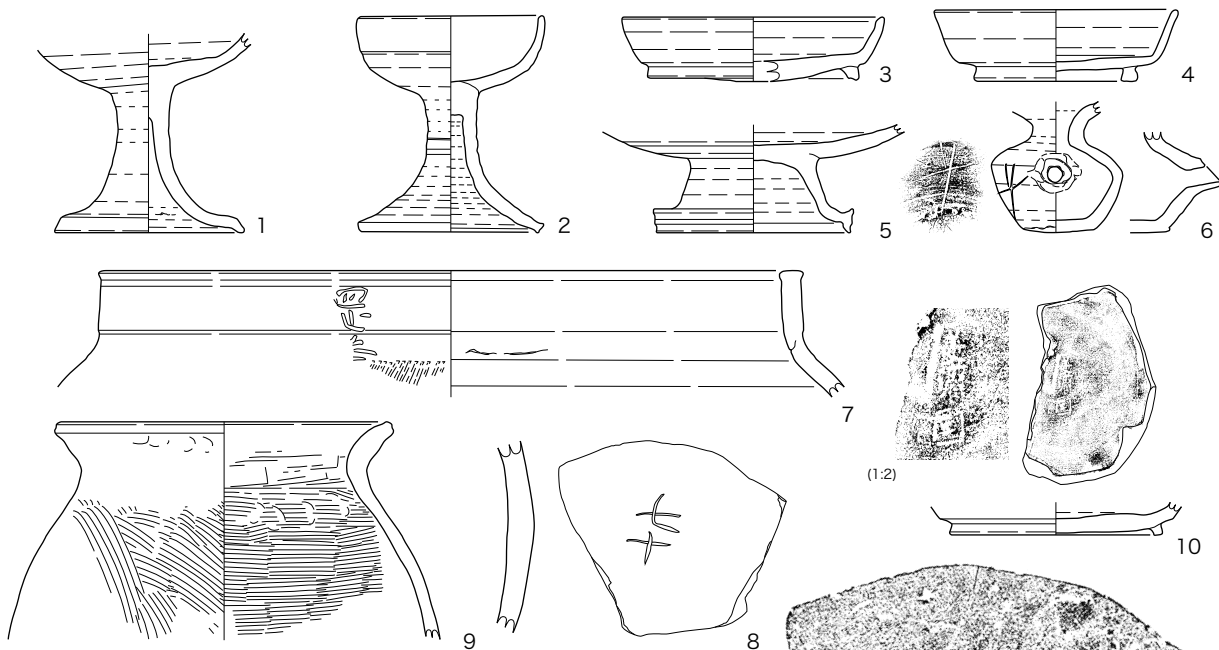


天王山遺跡

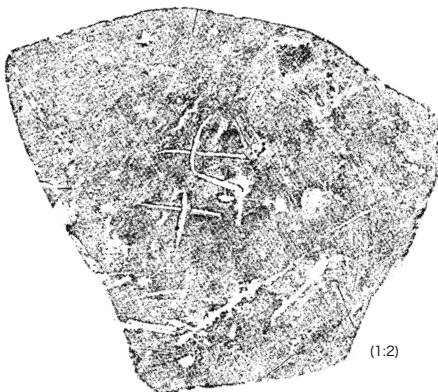
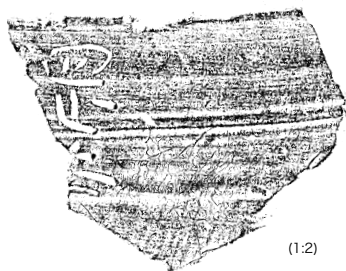
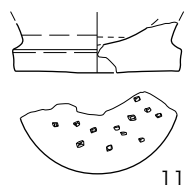


第4図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物1 (江南市歴史民俗資料館所蔵)

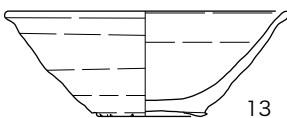
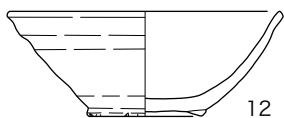
長塚遺跡（木質新町東塚）「木質字長塚（現新塚）」



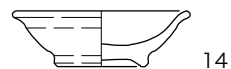
「木質B新田」



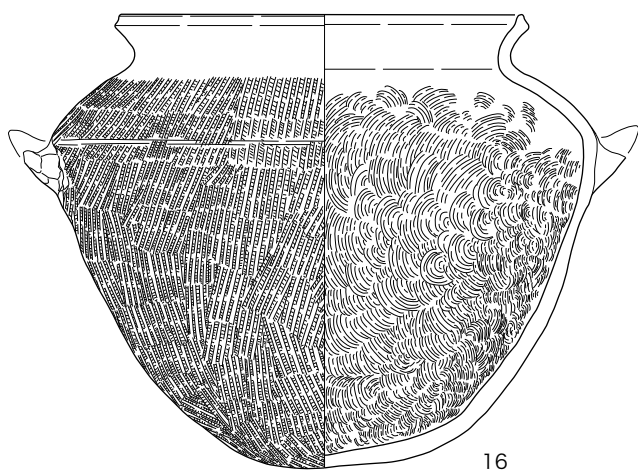
「木質」



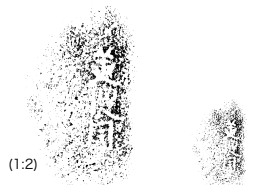
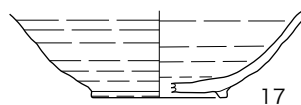
「木質B」



天王山遺跡（南山町中）「小折北」



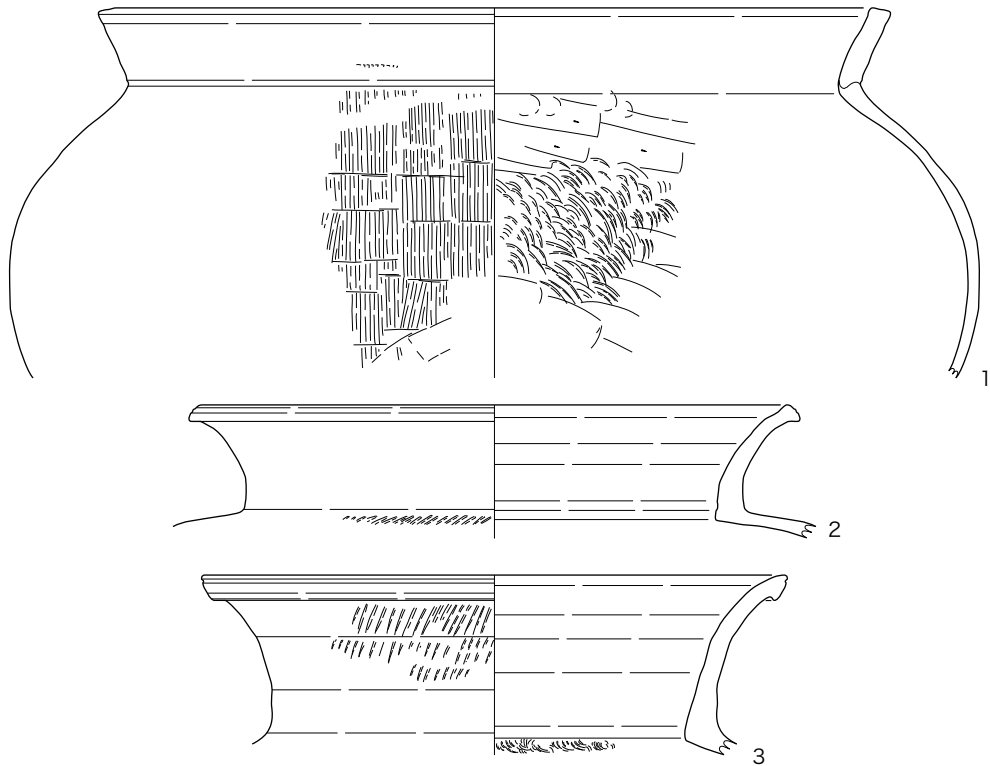
(不明)



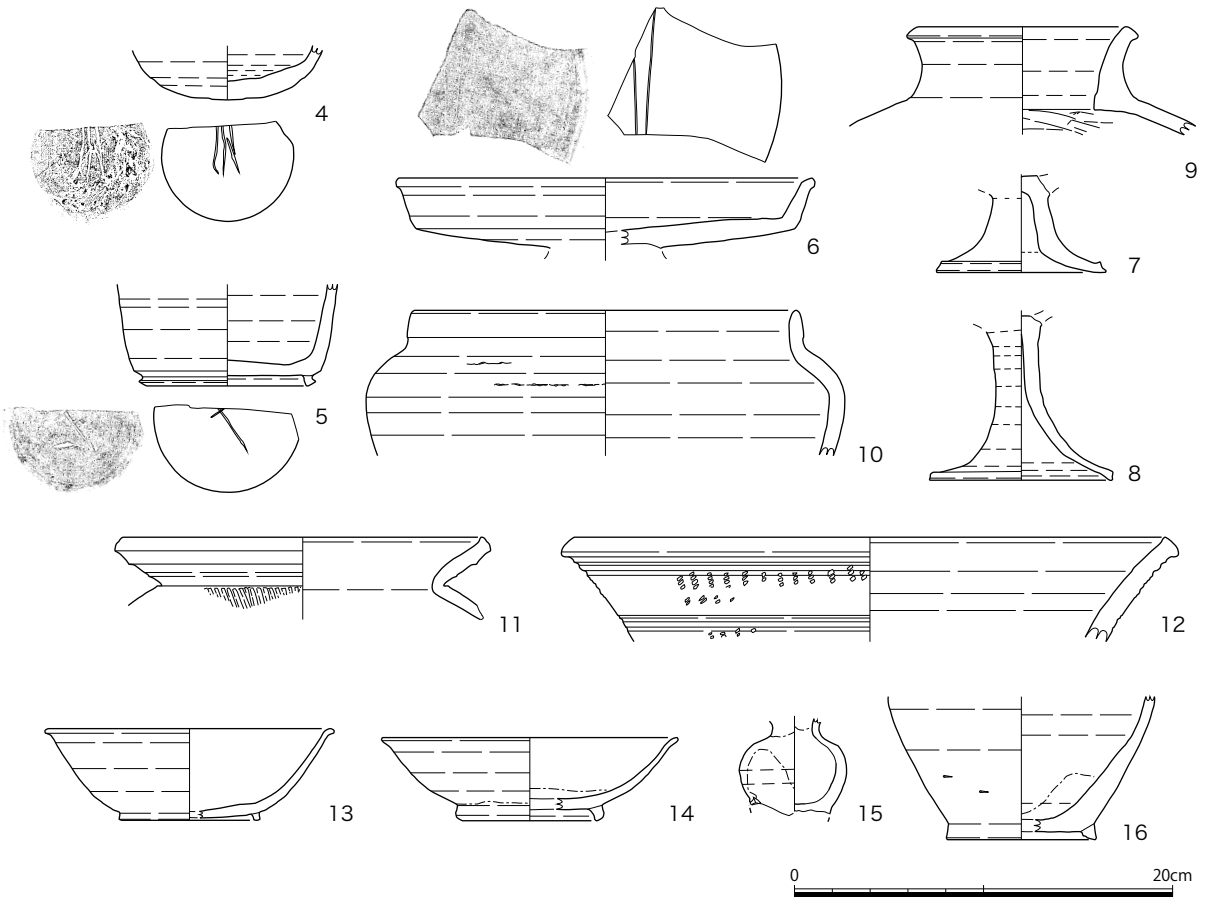
0 20cm

第5図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物2（江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵）

「小折富士塚周辺」

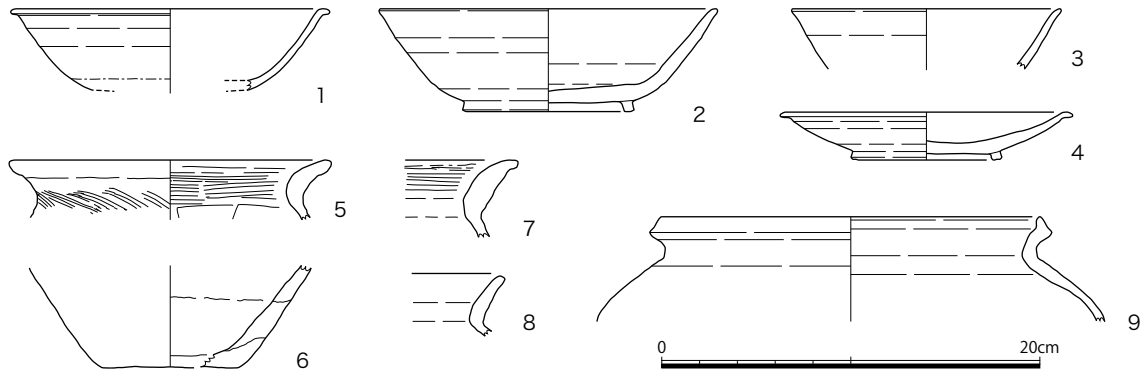


「木質、小折富士塚周辺」



第6図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物3 (江南市歴史民俗資料館所蔵)

上源寺遺跡

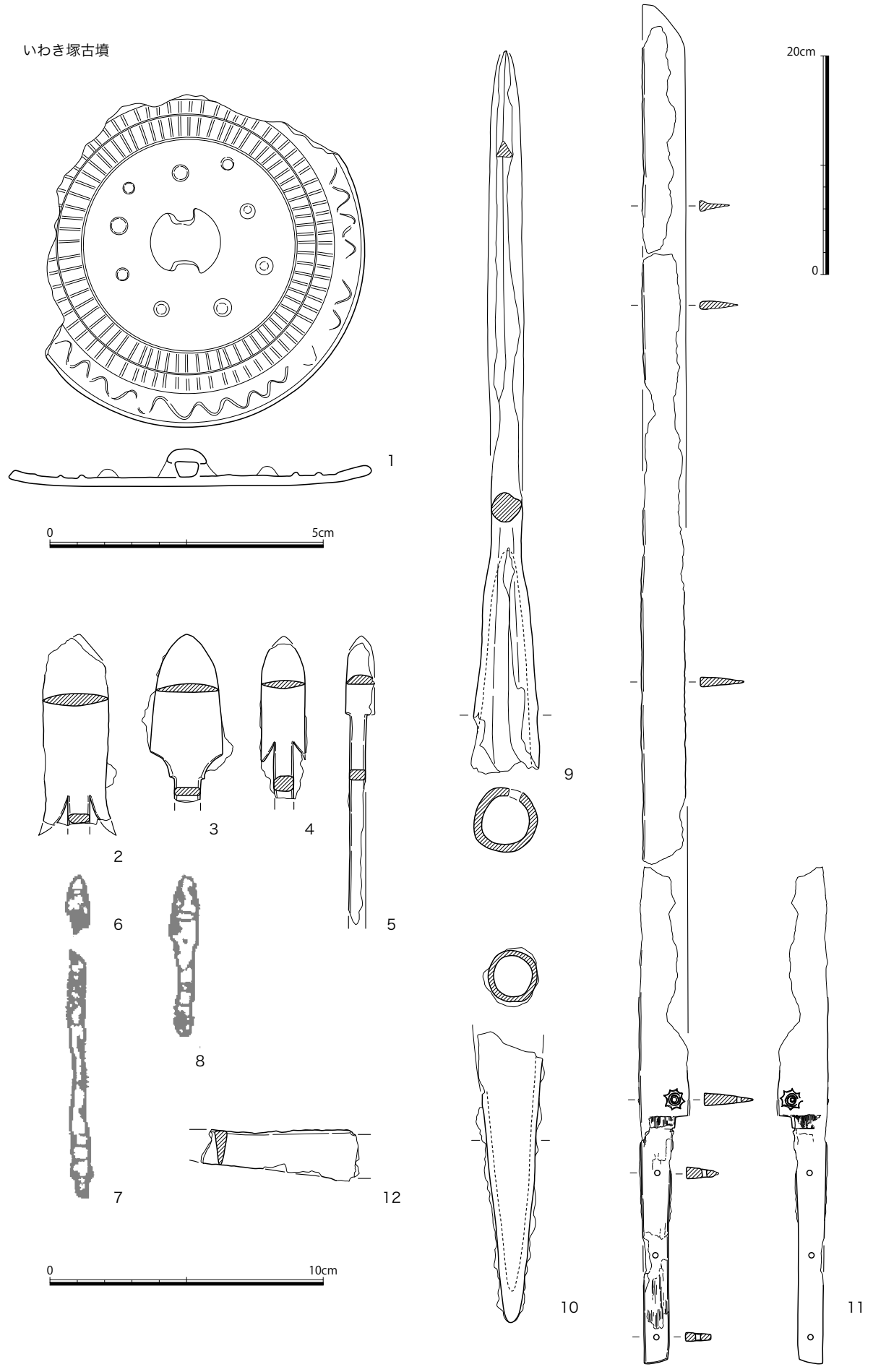


第7図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物4（江南市歴史民俗資料館所蔵）

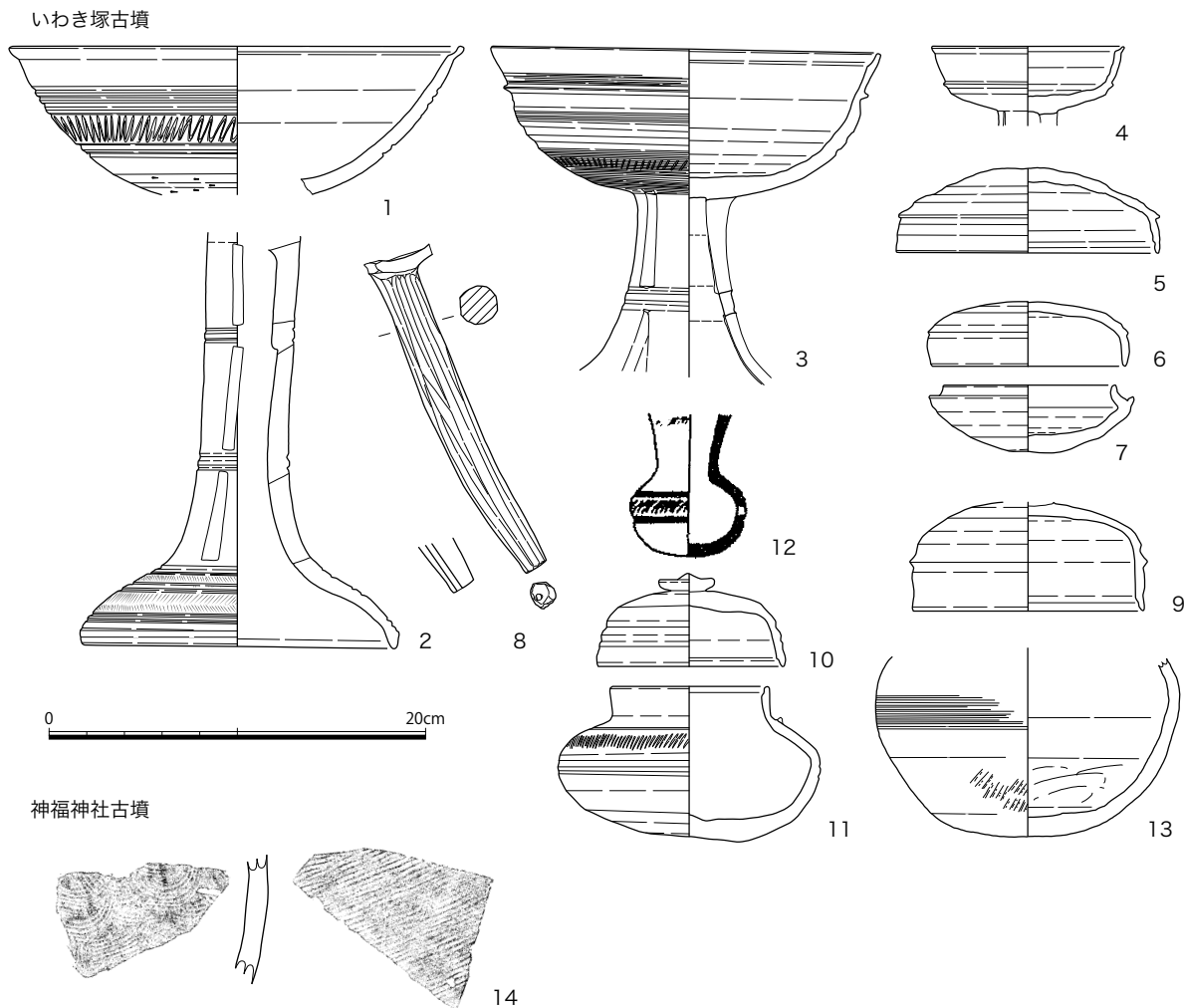
表1 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵）一覧表

図番号	保管状態	出土地	遺跡名	遺物	器種	型式等	市史1983	市史2001	出土年月日	備考（寄贈者等）
第4図 1		曾本字小洞（現二子）の五条川底	曾本二子遺跡	弥生土器 広口壺					昭和33年	山崎真臣氏
第4図 2		曾本二子	曾本二子遺跡	弥生土器 小型土器					平成5年	中山脩氏
第4図 3		布袋下山北遺跡	布袋下山北遺跡	土師器 S字甕	B類古				平成17年4月	個人住宅建設中に発見
第4図 4		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			4	4	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 5		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			3	5	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 6		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			5	3	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 7		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			8	1	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 8		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			7	2	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 9		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			写真		昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 10		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			6	写真	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 11		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			写真	写真	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 12		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪					昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 13		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			2	写真	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 14		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 円筒埴輪			写真	写真	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第4図 15		小折字天王山（富士塚の西）	天王山遺跡	埴輪 形象埴輪	家（上層根）		1	写真	昭和32年	山崎真臣氏（道路改修時採集）
第5図 1	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 高杯					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 2	小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 高杯					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 3	小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 有台杯					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 4	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 有台杯					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 5	小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 高盤					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 6	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 盥					昭和32～45年	山崎真臣氏
第5図 7	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 短頸壺	「岡本」刻書	拓本・写真			昭和34年	山崎真臣氏
第5図 8	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 甕	「七十」刻書	拓本・写真			昭和34年	山崎真臣氏
第5図 9	木賀、小折富士塚周辺	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	土師器 甕	伊勢型甕	写真			昭和33年	山崎真臣氏
第5図 10	一宮市博物館「Y1-1」	木賀字長塚（現新塚）	長塚遺跡	須恵器 有台杯	「美濃国」施印	（写真）				山崎真臣氏
第5図 11	木賀、小折富士塚周辺	「木賀B新田」	長塚遺跡	陶白						山崎真臣氏
第5図 12	山茶碗2 54号	「木賀」	長塚遺跡	山茶碗 碗	東濃型					山崎真臣氏
第5図 13	山茶碗2 54号		長塚遺跡	山茶碗 碗	東濃型					山崎真臣氏
第5図 14		「木賀B新田」	長塚遺跡	山茶碗 小碗	第4型式				昭和33年5月	山崎真臣氏
第5図 15			長塚遺跡	山茶碗 小皿	第7型式					山崎真臣氏
第5図 16	一宮市博物館「Y1-6」	「33-2 小折北」	天王山遺跡	須恵器 鉢				写真	昭和32年	山崎真臣氏
第5図 17	小折富士塚周辺	「小折北」	天王山遺跡？	灰軸陶器 碗	K-14				昭和33年2月	山崎真臣氏
第5図 18	一宮市博物館「Y1-9」		不明	須恵器 有台杯	「美濃国」施印					山崎真臣氏
第6図 1	小折富士塚周辺	小折富士塚？		須恵器 短頸壺					昭和30～50年代	山崎真臣氏
第6図 2	小折富士塚周辺	小折富士塚周辺？		須恵器 甕					昭和30～50年代	山崎真臣氏
第6図 3	小折富士塚周辺	小折富士塚周辺？		須恵器 甕					昭和30～50年代	山崎真臣氏
第6図 4	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 無台杯						
第6図 5	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 有台杯						
第6図 6	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 盤						
第6図 7	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 有蓋高杯						
第6図 8	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 高杯						
第6図 9	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 横瓶						
第6図 10	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 短頸壺						
第6図 11	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 甕						
第6図 12	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		須恵器 甕						
第6図 13	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		灰軸陶器 碗	K-14					
第6図 14	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		灰軸陶器 碗	K-90					
第6図 15	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		灰軸陶器 灰軸小瓶						
第6図 16	木賀、小折富士塚周辺	木賀、小折富士塚周辺？		灰軸陶器 瓶類						
第7図 1		上源寺97	上源寺遺跡	灰軸陶器 碗	K-14					
第7図 2		上源寺97	上源寺遺跡	灰軸陶器 碗	K-14					
第7図 3		上源寺97	上源寺遺跡	灰軸陶器 碗					970411	
第7図 4		上源寺97	上源寺遺跡	灰軸陶器 皿	K-14				970410	
第7図 5		上源寺97	上源寺遺跡	土師器 甕	濃尾型甕					
第7図 6		上源寺97	上源寺遺跡	土師器 甕	濃尾型甕					
第7図 7		上源寺97	上源寺遺跡	土師器 甕	濃尾型甕					
第7図 8		上源寺97	上源寺遺跡	土師器 甕	濃尾型甕					
第7図 9		上源寺97	上源寺遺跡	須恵器 短頸壺						

いわき塚古墳



第8図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物5（大口町歴史民俗資料館所蔵）



第9図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物6 (大口町歴史民俗資料館所蔵)

表2 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 (大口町歴史民俗資料館所蔵) 一覧表

図番号	遺跡名	種別	器種	型式等	備考	高木・宮川1968	町史1982	泉史2005 (縮尺)
第8図 1	(いわき塚古墳)	青銅製品	鏡	乳文鏡		白亀塚古墳	図版第2 19	いわき塚古墳 図5 (写真)
第8図 2	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	平根式	所在不明	白亀塚古墳	挿図第2 37 図版第2 2	いわき塚古墳 図2 6 (1/2)
第8図 3	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	平根式		白亀塚古墳	挿図第2 32 図版第2 1	いわき塚古墳 図2 8 (1/4)
第8図 4	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	平根式	所在不明	白亀塚古墳	挿図第2 33 図版第2 3	いわき塚古墳 図2 7 (1/2)
第8図 5	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	尖根式		白亀塚古墳	挿図第2 34 図版第2 4	いわき塚古墳 図2 9 (1/4)
第8図 6	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	尖根式	所在不明		挿図第3 3	いわき塚古墳
第8図 7	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	尖根式	所在不明		挿図第3 4	いわき塚古墳
第8図 8	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鎌	尖根式	所在不明		挿図第3 2	いわき塚古墳
第8図 9	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鉞	三角鉞式		白亀塚古墳	挿図第2 39 図版第2 5	いわき塚古墳 図2 1 (1/4)
第8図 10	(いわき塚古墳)	鉄製品	石突			白亀塚古墳	挿図第2 36 図版第2 6	いわき塚古墳 図2 2 (1/4)
第8図 11	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀			白亀塚古墳	挿図第2 43 図版第2 8	いわき塚古墳 図2 3 (1/4)
第8図	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀		所在不明	白亀塚古墳	挿図第2 35 図版第2 7	図2 4 (1/2)
第8図	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀	銀象嵌		白亀塚古墳	挿図第2 42 図版第2 9	図2 5 (1/2)
第8図 12	(いわき塚古墳)	鉄製品	刀子		所在不明	白亀塚古墳	挿図第2 38	いわき塚古墳 図2 10 (1/4)
第9図 1	(いわき塚古墳)	須恵器	器台			白亀塚古墳	図版第2 16	いわき塚古墳 図3 1 (1/4)
第9図 2	(いわき塚古墳)	須恵器	器台			白亀塚古墳	挿図第3 14 図版第2 18	いわき塚古墳 図3 2 (1/4)
第9図 3	(いわき塚古墳)	須恵器	無蓋高杯			白亀塚古墳	挿図第3 13 図版第2 17	いわき塚古墳 図3 3 (1/4)
第9図 4	(いわき塚古墳)	須恵器	無蓋高杯			白亀塚古墳	挿図第3 8 図版第2 14	いわき塚古墳 図3 4 (1/4)
第9図 5	(いわき塚古墳)	須恵器	蓋杯 蓋			白亀塚古墳	挿図第3 12 図版第2 13	いわき塚古墳 図3 5 (1/4)
第9図 6	(いわき塚古墳)	須恵器	蓋杯 蓋			白亀塚古墳	挿図第3 6 図版第2 11	いわき塚古墳
第9図 7	(いわき塚古墳)	須恵器	蓋杯 杯			白亀塚古墳	挿図第3 7 図版第2 11	いわき塚古墳
第9図 8	(いわき塚古墳)	須恵器	三足壺			白亀塚古墳	挿図第3 1 図版第2 12	いわき塚古墳
第9図 9	(いわき塚古墳)	須恵器	短頸壺 蓋			白亀塚古墳	挿図第3 11 図版第2 15	いわき塚古墳 (集合写真)
第9図 10	(いわき塚古墳)	須恵器	短頸壺 蓋			白亀塚古墳	挿図第3 5 図版第2 10	いわき塚古墳
第9図 11	(いわき塚古墳)	須恵器	短頸壺			岩き塚	挿図第3 10 図版第2 10	いわき塚古墳
第9図 12	(いわき塚古墳)	須恵器	壺		所在不明		挿図第3 9	
第9図 13	(いわき塚古墳)	須恵器	壺類		所在不明			図3 6 (1/4)
第9図 14	神福神社古墳	須恵器	甕		平成1610月年採集			

【参考文献】

- 愛知県 2002『愛知県史』資料篇1 考古1 旧石器・縄文
 愛知県 2003『愛知県史』資料篇2 考古2 弥生
 愛知県 2005『愛知県史』資料篇3 考古3 古墳
 愛知県 2010『愛知県史』資料篇4 考古4 飛鳥～平安
 愛知県 2017『愛知県史』資料編5 考古5 鎌倉～江戸
 愛知県教育委員会 2010『堀尾氏邸宅跡』
 一宮市・毎日新聞社 1974『尾張平野の古陶展』
 岩野見司 1998「「岡本」筥書き須恵器の新例」『檜崎彰一先生古稀記念論文集』真陽社
 大口町 1982『大口町史』
 江南市 1983『江南市史』資料四 文化編
 江南市 2001『江南市史』本文編
 高木志朗・宮川芳照 1968『愛知県丹羽郡大口町の古墳』
 早野浩二 2023「小折古墳群の研究-江南市天王山遺跡の家形埴輪-」『研究紀要』第24号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 原久仁子 2003「伝・いわき塚古墳出土の銀象嵌文様」『大口町歴史民俗資料館 研究紀要I』大口町歴史民俗資料館
 宮川芳照 1997「上源寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』12 平成7年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター

【挿図出典】

- 第4図 4・5・6・7・8：江南市 2001
 第8図 1：赤塚次郎氏原図 2・4：愛知県 2005 改 3・5：再実測 [愛知県 2005 は縮尺 1/2 (誤) → 1/4 (正)]
 6・7・8：高木・宮川 1968 9・10 愛知県 2005 改 11：愛知県 2005 改 [図 2 5 は縮尺 1/2 (誤) → 1/4 (正)]
 第9図 1・2：愛知県 2005 改 [文様を加筆] 3・4・5・13：愛知県 2005 6・7・8・9・10・11：再実測
 12：高木・宮川 1968

写真図版 1



南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物-長塚遺跡・上源寺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館所蔵）

上：長塚遺跡出土遺物

下：上源寺遺跡出土遺物

写真図版 1-2



第4図1



第6図7



第5図6



第5図1



第5図2



第6図8



第5図3



第5図4



第5図5



第5図7



第5図8



第5図9



第6図1

南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館所蔵）
曾本二子遺跡・長塚遺跡・「小折富士塚周辺」・「木賀、小折富士塚周辺」

2 調査の経緯・経過

道路改良
工事
(一般国道
155号)

南山町遺跡と白木遺跡の発掘調査は、道路改良工事(一般国道155号)にかかる事前調査として、愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課より愛知県県民文化局を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した(第10図)。

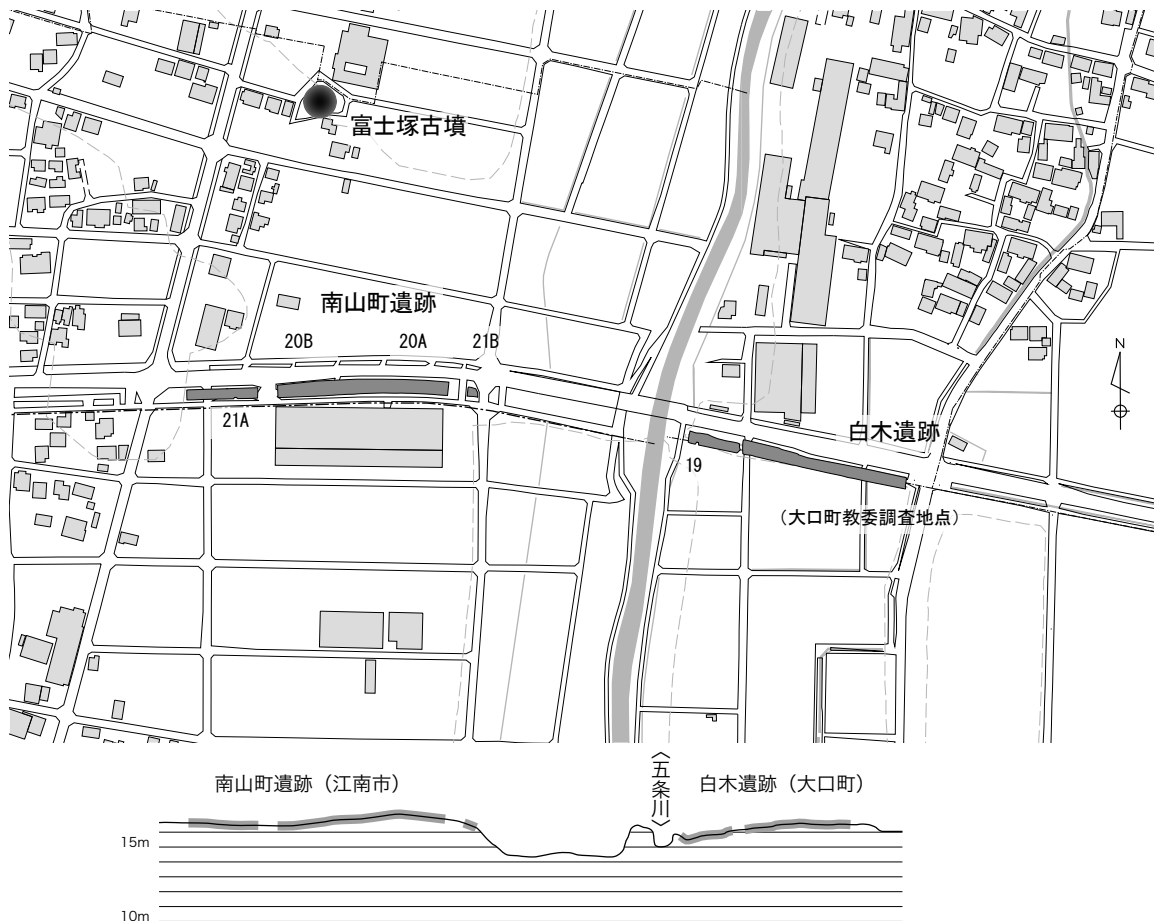
白木遺跡は令和2年2月から3月の期間で370㎡の面積について調査を行った。調査支援として株式会社イビソクの協力を得た。

南山町遺跡は令和2年7月から10月の期間で調査面積1,040㎡をA,B区に分割して実施した。また令和4年1月から3月の期間で調査面積700㎡をAa,Ab,B区に分割して実施した。前者では調査支援として、後者は業務委託という形でいずれも橋本技術株式会社の協力を得た。調査期間中の令和2年10月11日に地元説明会を開催したところ、多くの参加者があった。

整理作業は令和4年度に行い、遺物実測・トレース業務については株式会社地域文化財研究所、遺物写真の撮影を有限会社写真工房遊、金属製品の保存処理を東都文化財保存研究所にそれぞれ委託した。

なお白木遺跡のセンター調査地点東側に隣接する範囲では、大口町教育委員会の監督のもと株式会社パスコにより令和2年7月から令和3年2月の期間で1,024㎡の面積について調査が行われた。整理期間を経て、調査成果は令和4年3月に報告書として刊行されている*。

註* 愛知県一宮建設事務所・大口町教育委員会・(株)パスコ(編),2022,『白木遺跡』



第10図 南山町遺跡・白木遺跡調査区配置図(S=1/5,000)・標高断面模式図

表3 調査担当者および調査支援スタッフ

	調査年度	調査区	調査面積 (㎡)	調査課担当者	調査期間	調査体制			
						現場代理人	調査補助員	測量技師	
南山町遺跡	20	A・B	1,040	池本正明・ 武部真木	令和2年7月 ～10月	(調査支援)	橋本岩夫	高居芳美	川崎雄二
						橋本技術株式会社			
	21	A・B	700	堀木真美子・ 武部真木	令和4年1月 ～3月	(掘削業務委託)	井上美和	-	-
						橋本技術株式会社			
白木遺跡	19	-	370	池本正明・ 早野浩二	令和2年2月 ～3月	(調査支援)	水谷 誠	壁谷奈央	江田大樹
						株式会社イビソク			

白木遺跡発掘通信

第2号 上空から見た白木遺跡と近くの古墳

2月から始まった発掘調査も折り返し地点を過ぎた3月吉日、ドローンによる遺跡の撮影を行いました。白木遺跡の左手奥には神福神社古墳、右手奥には曾本二子山古墳が映っています。さらに手前には富士塚古墳もあります。これらはいずれも古墳時代後期(5世紀終わりから6世紀)の前方後円墳です。

白木遺跡発掘通信

第3号 発掘調査終わる! 奈良時代、古代渡波部の集落が見つかった!!

2月から始まった発掘調査も予定通り、五条川の桜が咲く直前に終了することができました。最終号の第3号では、今回の発掘調査の成果をお知らせします。

発掘調査した場所は、古墳時代後期(6世紀)以前は五条川に舟が通る谷の地形でした。飛鳥時代(7世紀)になると、河川が運んだ砂や粘土によって、地形は平坦になり、奈良時代(8世紀)にかけて、多数の建物(竪穴建物)が建てられました。建物は竪穴を掘り込んだ建物(竪穴建物)から柱、柱を巻く柱間に埋めた建物(竪立柱建物)3種が深い範囲に重なり合って見つかっています。

かまどは竪穴を掘りこんだ建物に備え付けられたドーム形の調理施設です。壁の内側には土が塗り付けられています。

調査機関・発行 愛知県立 知事館・スポーツ振興財団
愛知埋蔵文化財センター
調査支援 橋本技術株式会社 愛知営業所

白木遺跡発掘通信

第1号 発掘調査がはじまりました

発行: 2020.2.7

1, 丹羽郡大口町豊田内での進捗状況や、調査の成果の位置です。センターが中心となり行います。期間は3月中旬まで行う予定です。発掘調査進捗を掲示いたしますので、ご来場の際はぜひご覧ください。

図1 発掘調査位置

遺跡で、五条川の自然堤防沿いに広がる遺跡です。は、数棟の住居址が発見された。遺跡の位置は、五条川の自然堤防沿いに広がる遺跡です。は、数棟の住居址が発見された。遺跡の位置は、五条川の自然堤防沿いに広がる遺跡です。は、数棟の住居址が発見された。

遺跡として利用されています。須磨器を確認できるので、しるべき際には、旧河道などの遺構を確認できます。見られるか楽しみです。

愛知埋蔵文化財センター 知事館・スポーツ振興財団 愛知文化センター

南山町遺跡 発掘調査 地元説明会資料

開催: 令和2年10月11日(日) 18:00

愛知県江南市に所在する南山町遺跡では、国道155号改良工事に伴う事前調査として7月～10月の期間で発掘調査を行いました。遺跡は五条川の右岸の標高約16mの自然堤防上に立地しています。ここは大山層状地の崖央にあたり、すでに消失したものの数多くの古墳が存在が知られてきました。南山町遺跡のすぐ北側の産土塚古墳(5世紀末～6世紀初め)は築成に改良が加えられたといえ、高まりとして遺跡に目にする事ができます。また五条川の対岸には神福神社古墳(全長約50m、前方後円墳)や公園が整備されている曾本二子山古墳(全長約60m、前方後円墳、6世紀)などが残されています。

沿岸にある大口町・白木遺跡では、昨年度の発掘調査でカマドの付いた竪穴建物と竪立柱建物、「人」と刻まれた須磨器などがみつかりました。周辺には飛鳥～奈良時代の集落の広がりも想定されます。

南山町遺跡周辺の遺跡(地蔵図尺1/25,000)

〒498-0017 愛知埋蔵文化財センター 知事館・スポーツ振興財団
HP <http://www.mabun.com/> TEL 0567-67-4163 (調査課)
愛知埋蔵文化財センター
HP <http://www.mabun.com/> TEL 0567-67-4163 (調査課)
Twitter https://twitter.com/achi_mabun
Facebook <https://www.facebook.com/mabun001/>
〒498-0017 愛知埋蔵文化財センター
TEL 0566-28-0880
<http://hishimoto-gym.com/>

調査支援 橋本技術株式会社 愛知営業所

発掘通信(白木遺跡)・説明会資料(南山町遺跡)

第2章 南山町遺跡

1 調査の概要

南山町遺跡は南流する五条川の右岸域に立地し、令和2年(20A,20B区)・令和3年(21A,21B区)の調査地点は、近世までに整備された旧街道(柳街道)付近と五条川との間にあたる。

調査区は五条川に沿って形成された自然堤防を東西に横断する方向に、距離にして約190mを測る細長い形状となった。五条川に近い東部は自然堤防の高まりが大きく削平されていたため表土直下で黄褐色砂質土の基盤層に達し、その西側の旧耕作地(畑)にかけては褐色を基調とする包含層、さらに西側では黒色を基調とする包含層が確認された。

調査では東端の21B区では五条川自然堤防の基盤層、20A区ではこの自然堤防上に掘削された溝の残存部、20B区では古墳時代前期の遺物を含む谷状地形、21A区では奈良時代の竪穴建物が検出されている。柳街道に近い西側の21A区にかけては中世の遺構・遺物が確認されている。なお、付近一帯の耕作土には古墳時代、奈良～平安時代、中世・近世の土器や陶磁器の細片が数多く含まれる。

2 20A区・20B区の検出遺構

扇状地形でしかも河川流路に近接した場所であったことから、起伏の大きい旧地形を狭い範囲内で確認することとなった(第11図)。

基本層序と 微地形

五条川に近い20A区では表土直下の標高16.4mのレベルで自然堤防の基盤層(細粒砂～中粒砂)が露出し、その下は浅いところで標高15.8mで礫層に達した。旧地形の高まりの幅を推定すると、現況五条川から削平範囲の西端までは距離にして約120mを測る。

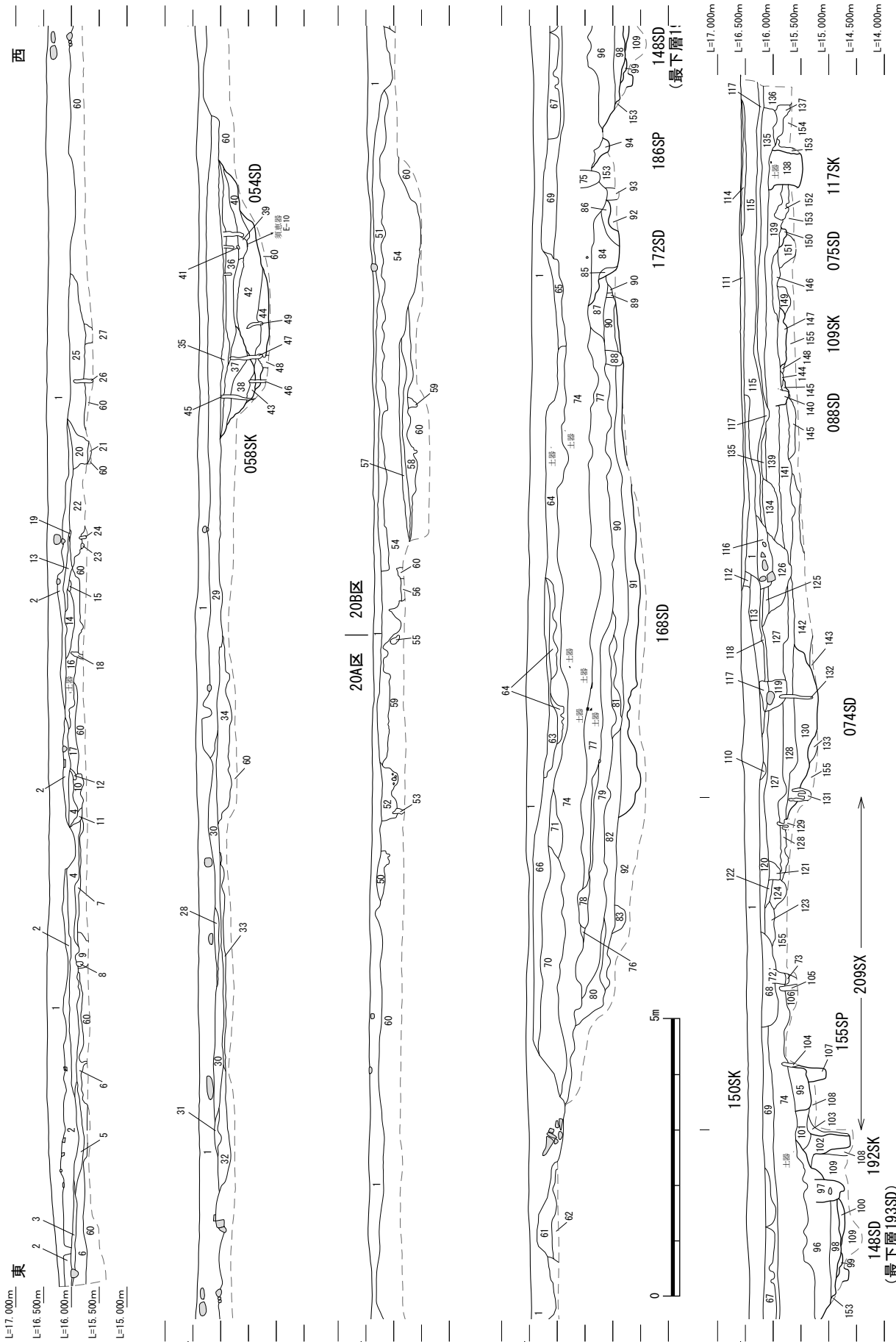
そのすぐ西側(20B区東部)では旧流路が想定される谷状地形となっており、幅約20m、地表からは深さ2.6mとなる大きな落ち込みとして確認した。谷状地形の最下層には沈鉄と粘土層が認められ、その上には厚く砂層が堆積する(168SD)。流路を含む谷状地形の埋積土は古墳時代前期土器、灰釉陶器片を包含することから、完全な埋没は平安時代以降とみられる。なお、この範囲については、集石遺構等が検出された上面とともに2面調査となった。

この流路西側の基盤層の高まり(209SX)は南北方向に延びる堤状を呈する。それより西側(20B区西部)は黒色を基調とする砂層が厚く堆積するものの攪拌されており、20B区内では中世陶器の細片をわずかに包含するのみである。粗粒砂の基盤層の標高は15.9mであり一部で礫層が露出する。

(1) 20A区の遺構

20A区054SD

054SDは旧五条川流路右岸の自然堤防上に掘削された南北方向の溝で上端は削平されている。検出面での規模は、長さ7.9m、幅5.4m、深さ0.9mである。南壁断面付近で遺構の重複(058SK)と掘り直しが確認できた。埋土中層～上層は主に砂質シルト層で部分的に厚い粗粒砂層が認められ、下層はシルト混じりの砂層である。溝底面では人頭大の大型の円礫1個と古墳時代土師器が検出され、中層で須恵器坏身(14)、8世紀前半代の須恵器等が上層の東側にやや片寄って出土した。含鉄遺物、鉄滓、羽口・炉壁片を上層・下層でそれぞれ確認した。



第 11 图 20A・B 区南壁断面图 -1 (S=1/100)

1. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質極細粒砂層 2~10cm程度の礫含む
2. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂が粒状に混じる
3. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 2~4cmの礫含む
4. 10YR4/2灰黄褐色 極細粒砂層
5. 10YR3/1黒褐色 極細粒砂質シルト層
6. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/6黄褐色 シルトが粒状に混じる
7. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト層 しまりあり
8. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層
9. 10YR4/6褐色 極細粒砂質細粒砂層
10. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂質ブロック混じる
11. 10YR6/6明黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂が斑に混じる
12. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層
13. 10YR5/3にぶい黄褐色 極細粒砂層
14. 10YR4/6褐色 細粒砂層
15. 10YR2/3黒褐色 極細粒砂層
16. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
17. 10YR4/6褐色 細粒砂層
18. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
19. 10YR3/3黒褐色 極細粒砂層
20. 10YR2/3黒褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂がやや斑に混じる
21. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層
22. 10YR2/3黒褐色 シルト層 10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂質ブロック混じる
23. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂層
24. 10YR2/3黒褐色 シルト質極細粒砂層
25. 10YR2/3黒褐色 シルト層 10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂ブロック混じる 土器片含む
26. 10YR3/4褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質極細粒砂ブロック混じる
27. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
28. 10YR4/4褐色 極細粒砂(中粒砂混じる)
29. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
30. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる
31. 10YR3/4褐色 細粒砂層 中粒砂混じる
32. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
33. 10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂ブロック混じる
34. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR5/6黄褐色 シルト質ブロック混じる
35. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 しまりあり
36. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色 シルトの斑状混土層(054SD埋土)
37. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 粘土ブロック混じる(058SK埋土)
38. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が斑に混じる(058SK埋土)
39. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂大ブロック混じる 細粒砂混じる(054SD埋土)
40. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる 細粒砂混じる(054SD埋土)
41. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層
42. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層(054SD埋土)
43. 10YR4/6褐色 シルト層(058SK埋土)
44. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 シルト質ブロック混じる(054SD埋土)
45. 10YR3/4暗褐色 シルト層に10YR4/6褐色シルトが斑に混じる
46. 10YR5/6黄褐色 シルト質細粒砂層
47. 10YR2/3黒褐色 シルト層
48. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂ブロック混じる
49. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 細粒砂ブロック混じる
50. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂が斑に混じる
51. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層
52. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が斑に混じる
53. 10YR4/4褐色 細粒砂層
54. 10YR4/4褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が斑に混じる
55. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質細粒砂層
56. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる
57. 10YR6/4にぶい黄褐色 細粒砂層と10YR4/4褐色 細粒砂層の互層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
58. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
59. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
60. 10YR5/6黄褐色 シルト質極細粒砂層(地山①)
61. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む 10YR5/6黄褐色 極細粒砂ブロック混じる
62. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる
63. 10YR3/3暗褐色 細粒砂層 5mm程度の角礫含む
64. 5Y2/1黒色 シルト層 しまりあり
65. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 しまりあり 灰黄褐色や褐色の斑状ブロックが右にかけて密に混じる
66. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 マンガン斑?
67. 5Y2/1黒色 シルト層 しまりあり
68. 10YR3/3暗褐色 細粒砂質極細粒砂層 黄褐色土が粒状に少し混じる
69. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 マンガン斑? 炭化粒含む
70. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
71. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 土器片、炭化粒含む 明黄褐色土が粒状に混じる
72. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
73. 10YR4/6褐色 細粒砂と10YR3/4暗褐色 細粒砂のブロック状混土層
74. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
75. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
76. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルトブロック混じる
77. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルトブロック混じる
78. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層
79. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 土器片含む
80. 10YR4/4褐色 極細粒砂層
81. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂 10YR4/2灰黄褐色 シルト 10YR6/4にぶい黄褐色 細粒砂のブロック混土層 土器片含む(盛土か)
82. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/2灰黄褐色 粘土ブロック混土層 特に上位が攪拌されている
83. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルト (マンガン斑?), 10YR2/3黒褐色 極細粒砂のブロック混土層
84. 10YR4/6褐色 極細粒砂質細粒砂層 赤茶色の錆混じる(172SD埋土)
85. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 黒色や褐色の混じった錆の粘土質ブロック混じる(172SD埋土)
86. 10YR4/6褐色 シルト層 黒色や褐色の混じった錆の粘土質ブロック混じる(172SD埋土)
87. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
88. 10YR4/6褐色 極細粒砂質シルト層
89. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR4/2灰黄褐色 極細粒砂ブロック混じる 褐色の錆混じる
90. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 2.5YR4/2暗灰黄色 粘土ブロック、10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂ブロック混じる 特に上位が攪拌
91. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂と10YR2/3黒褐色粘土と7.5YR4/6褐色粘土の錆ブロック混じる(168SDを含む埋土)
92. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 粗粒砂混じる 暗褐色土が粒状に混じる
93. にぶい黄褐色? 粘土質細粒砂層 上部に7.5YR4/6褐色 細粒砂の錆の層 沈鉄あり 地山②
94. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6シルト質極細粒砂ブロック混じる 弥生?土器含む
95. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂小ブロックが下位に混じる(遺構150SK埋土)
96. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層(148SD埋土)
97. 10YR3/4暗褐色 シルト質極細粒砂層
98. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層(148SD埋土)
99. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 赤茶色の錆混じる 黒色や褐色の粘土質ブロック混じる(193SD埋土)
100. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/3暗褐色 中粒砂(赤茶色の錆混じる) ブロック混じる 黒色や褐色の粘土質ブロック混じる(193SD埋土)
101. 10YR3/2黒褐色 シルト質極細粒砂層 褐色土が粒状に混じる
102. 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト層 10YR4/6褐色 極細粒砂ブロック(192SK埋土)
103. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂質粘土層 10YR3/3暗褐色 シルトブロック 107層と同じか
104. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/6黄褐色 細粒砂小ブロック
105. 10YR3/3暗褐色 細粒砂と10YR5/6黄褐色 細粒砂の斑状混土層
106. 10YR5/6黄褐色 細粒砂と10YR3/3暗褐色 粘土質シルトの斑状混土層
107. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂ブロック混じる(155SP埋土)
108. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層 暗褐色土がやや状に混じる
109. 10YR3/1黒褐色 極細粒砂層 しまりあり 粘性あり
110. 10YR4/4褐色 シルト層 10YR7/4にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト小ブロック、7.5YR2/3極暗褐色と10YR7/4にぶい黄褐色の錆の互層が混じる(186SPを含む埋土)
111. 10YR2/2黒褐色 シルト層 1~5cm程度の礫含む
112. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 しまりなし
113. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 しまりなし
114. 10YR6/6明黄褐色 中粒砂層 1~3cm程度の礫含む
115. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/3暗褐色 シルト質ブロック混じる
116. 10YR3/3暗褐色 粘土質極細粒砂層 10~20cm程度の礫含む
117. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
118. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
119. 10YR3/4暗褐色 粘土質シルト層 炭化粒含む
120. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 炭化粒含む
121. 10YR3/3暗褐色 細粒砂層
122. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
123. 10YR4/4褐色 極細粒砂層
124. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 シルト質極細粒砂層
125. 10YR3/4暗褐色 シルト層
126. 7.5YR2/3極暗褐色 粘土質シルト層
127. 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト層
128. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
129. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 中粒砂ブロックが上位に少し混じる

第12図 20A・B区南壁断面図 -2(土層注記)

- | | |
|---|--|
| 130. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる 10YR4/6褐色
細粒砂少し斑に混じる(074SD埋土) | 143. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層 |
| 131. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色
中粒砂ブロックが上位に少し混じる | 144. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 |
| 132. 10YR3/3暗褐色 粘土質極細粒砂層 | 145. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂小ブロック混じる
(088SD埋土含む) |
| 133. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂(粘性あり)と10YR4/4褐色
細粒砂の斑状混土層 | 146. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂層 |
| 134. 10YR2/3黒褐色 粘土質シルト層 | 147. 10YR3/4暗褐色 粘土質極細粒砂層(109SK埋土) |
| 135. 10YR3/4暗褐色 シルト層 | 148. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色
極細粒砂ブロック下位に混じる |
| 136. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる | 149. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色
極細粒砂ブロック上位に混じる |
| 137. 10YR3/4暗褐色 シルト層 10YR5/6黄褐色
細粒砂小ブロック上位に混じる | 150. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層(075SD埋土) |
| 138. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂層 10YR4/6極細粒砂層
小ブロック少し混じる(117SK埋土) | 151. 10YR2/3黒褐色 極細粒砂と10YR4/6褐色 細粒砂の斑状混土層
10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる |
| 139. 10YR3/2黒褐色 細粒砂質シルト層 | 152. 10YR3/3暗褐色 細粒砂質極細粒砂層 10YR4/4褐色
細粒砂小ブロック少し混じる |
| 140. 10YR3/3暗褐色 細粒砂と10YR4/6褐色 細粒砂の斑状混土層
(088SD埋土) | 153. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂と10YR4/6細粒砂ブロックの混土層 |
| 141. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 | 154. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/3暗褐色 シルト質ブロック混じる |
| 142. 10YR4/6褐色 細粒砂と10YR3/3暗褐色 極細粒砂の斑状混土層 | 155. 10YR5/6黄褐色 シルト質極細粒砂層(地山①) |

第13図 20A・B区南壁断面図-3(土層注記)

(2) 20B区の遺構

20B区
集石遺構

表土層を除去した高いレベルで円礫と陶磁器片の集積範囲を検出した。当初は部分的な集石遺構(089,090,091,092SU)と認識して調査を開始したが、その後、長さ約5.0m、最大幅1.5m規模の不整形の範囲となり、堆積状況では明確な掘り込みが確認できないまま、集石は北側へ傾斜して続くことが判明した。円礫や割石が不規則に重なり、これに混在する遺物破片は比較的大きく、須恵器、灰釉陶器、山茶碗などである。また、下層の048SD出土須恵器片と接合する資料(62)も確認されている。円礫は小さなものから人頭大までがあり、割石の一部では被熱により赤く変色したものが認められた。集石の分布範囲は、整地あるいは耕作の際に周辺から除去され、さらに集められた土地区画の境界付近であったと考えられる。

堤状の高まり

209SXは盛土ではない基盤層が残された堤状の高まりで、検出長は6.5m、幅が8.4m、最も高い位置は表土直下の標高16.0mである。南北方向に延び、北側へ延長した約180mほど先には富士塚古墳が存在する。遺構上端部では耕作によると思われる土坑状、あるいは溝状の攪乱が認められる。

115SX

115SXも上面で検出された集石遺構の北縁の延長線に近い位置で東側に並ぶ。幅約1.0m、長さ4.0m前後の帯状に南東側に伸びる小円礫と遺物の分布範囲を遺構と認識した。溝状の落ち込みは断面では確認できない。090SU等と異なり円礫は小型で少なく、出土遺物は中世山茶碗中心となっている。こちらも耕作地境界付近であったと考えられる。

209SX上面
の遺構

209SXの上面で検出された遺構は多数あり、多くが耕作に関連する攪乱とみられるが、埋土中に多数の小円礫と共に陶磁器を含む。このうち136SKは長さ1.2m、幅0.2m、深さ0.16m、137SKは長さ1.0m、幅0.5m、深さ0.3mである。151SKは長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.32mである。須恵器・山茶碗片、加工円盤が出土している。

074SD

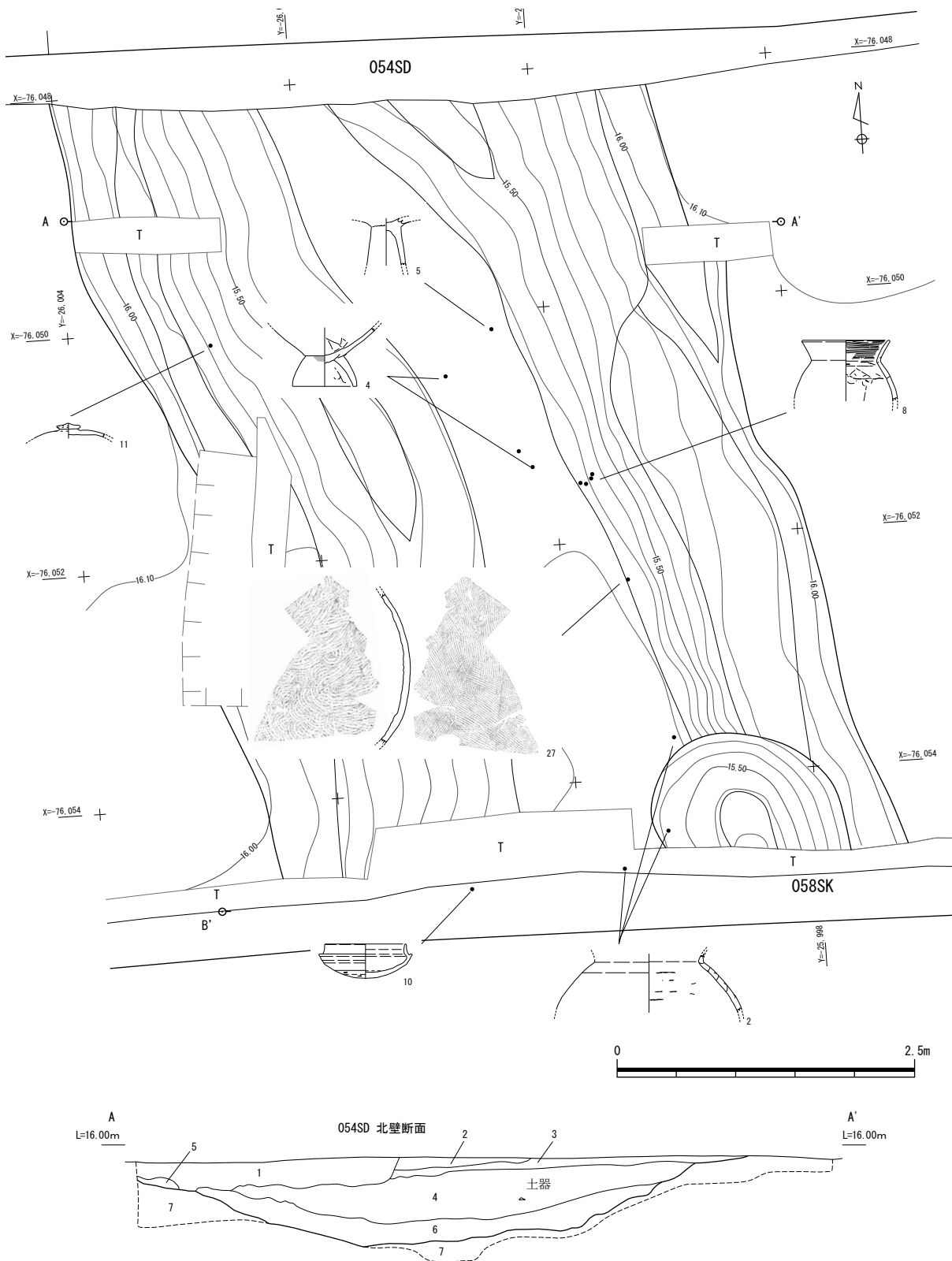
074SDは209SXの西側に沿って広がる。黒色砂質土が堆積し、検出長は7.6m、幅7.0m、深さ0.6mの断面皿状となる凹みであり、底面の標高は15.2mである。この周辺西側と比較して明らかに底面の凹凸が少ない。

148SD
(193SD)

148SDは、五条川に沿う自然堤防の西端から続く旧河道とみられる谷状地形の西側に沿って南北方向に延びる溝である。この西岸は堤状の高まり(209SX)に画される。検出長7.2m、幅2.8m、深さ0.8mであり、最下層(193SD)には中粒～粗粒砂の堆積と沈鉄層が認められる。下層に古墳時代土師器を含み、ほかに須恵器、土師器甕が出土している。上層の集石遺構出土遺物と接合関係(62)が認められる。

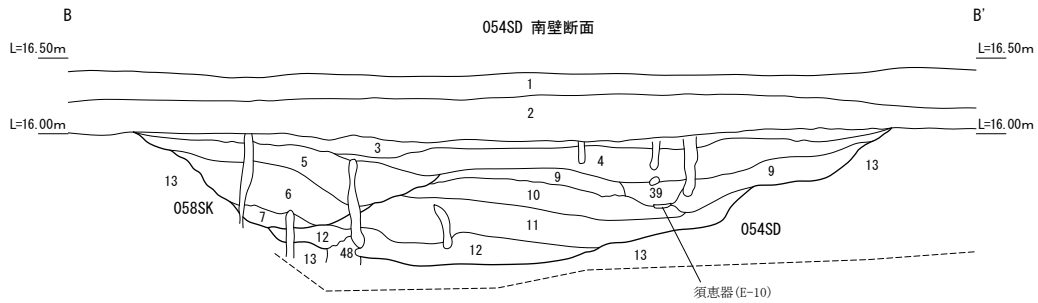
203SK

203SKは長径1.76m、短径1.03m、深さ0.3mの楕円形土坑であり、底面の標高は14.6m。旧流



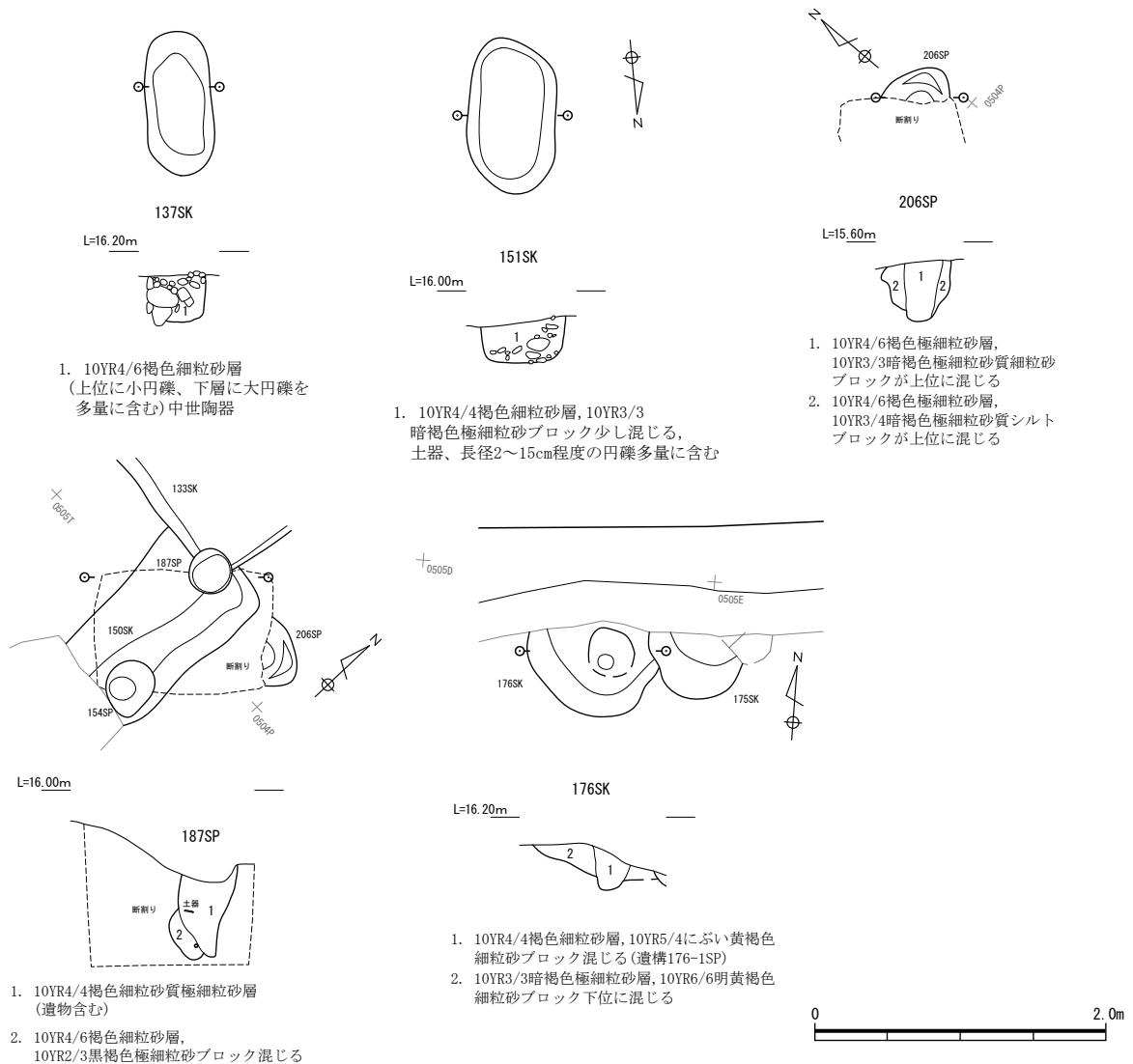
1. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色 シルトの斑状混土層
2. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 しまりあり
3. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色シルト質ブロック混じる しまりあり
4. 10YR4/4褐色 シルト質細粒砂層と10YR3/4暗褐色 極細粒砂層の互層
5. 10YR5/6黄褐色 シルト層 10YR3/6暗褐色 極細粒砂が斑に混じる
6. 10YR2/1黒色 粘土層に10YR3/3暗褐色 細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂のブロック混じる
7. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂層と10YR3/4暗褐色 極細粒砂質細粒砂層の互層(地山)

第14図 20A区 054SD 平面・北壁断面図 (S=1/50)



1. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 1~3cm程度の礫含む
2. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
3. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 しまりあり
4. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色 シルトの斑状混土層(054SD埋土)
5. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 粘土ブロック混じる(058SK埋土)
6. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が斑に混じる(058SK埋土)
7. 10YR4/6褐色 シルト層(058SK埋土)
8. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂大ブロック混じる 細粒砂混じる
9. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる 細粒砂混じる(054SD埋土)
10. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層
11. 10YR4/6褐色 シルト質細粒砂層(054SD埋土)
12. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 シルト質ブロック混じる(054SD埋土)
13. 10YR5/6黄褐色 シルト質極細粒砂層(地山)

第15図 20A区 054SD 南壁断面図 (S=1/50)



1. 10YR4/6褐色細粒砂層
(上位に小円礫、下層に大円礫を
多量に含む)中世陶器

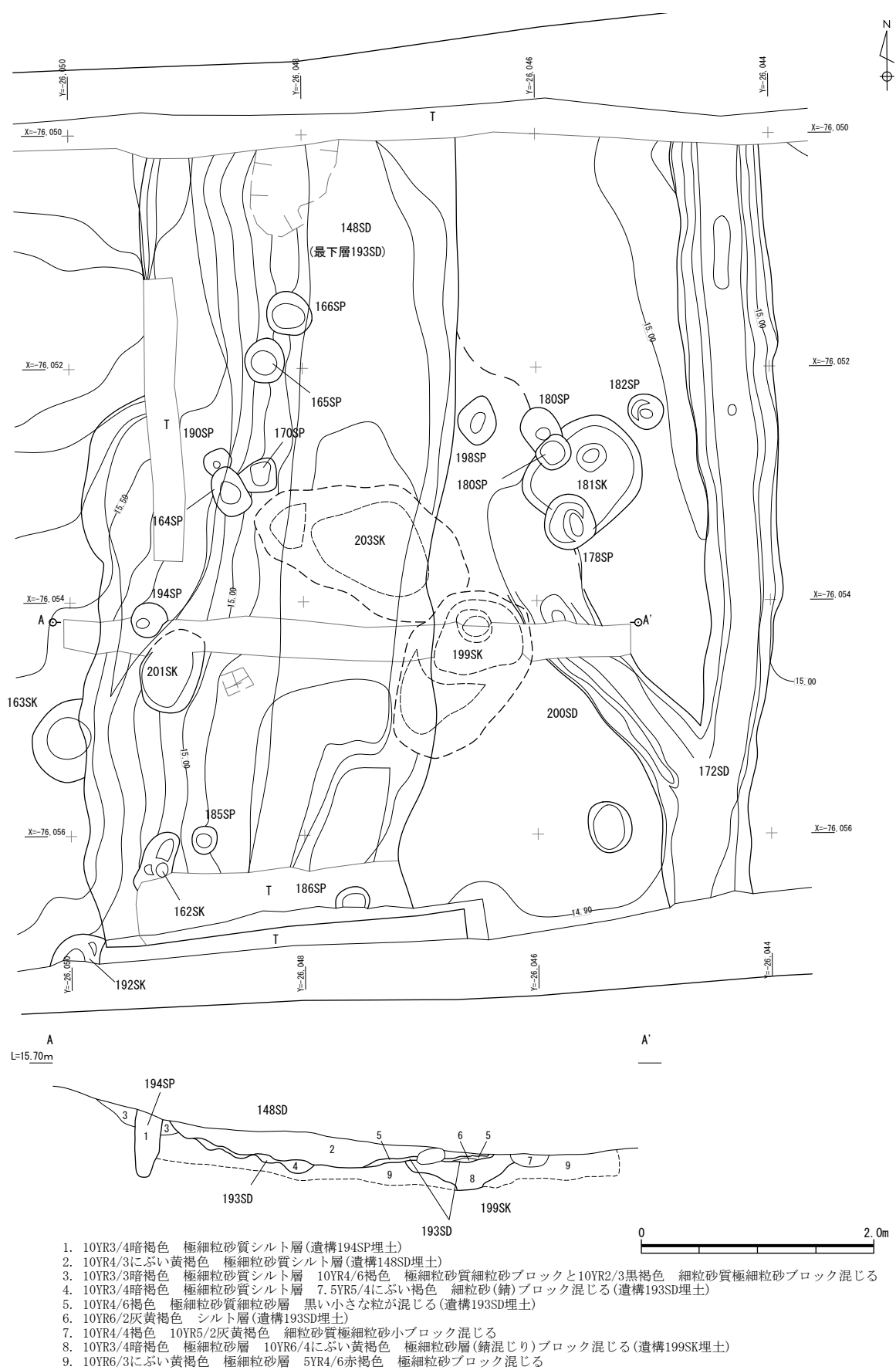
1. 10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR3/3
暗褐色極細粒砂ブロック少し混じる,
土器、長径2~15cm程度の円礫多量に含む

1. 10YR4/6褐色極細粒砂層,
10YR3/3暗褐色極細粒砂質細粒砂
ブロックが上位に混じる
2. 10YR4/6褐色極細粒砂層,
10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト
ブロックが上位に混じる

1. 10YR4/4褐色細粒砂質極細粒砂層
(遺物含む)
2. 10YR4/6褐色細粒砂層,
10YR2/3黒褐色極細粒砂ブロック混じる

1. 10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色
細粒砂ブロック混じる(遺構176-1SP)
2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR6/6明黄褐色
細粒砂ブロック下位に混じる

第16図 20B区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)

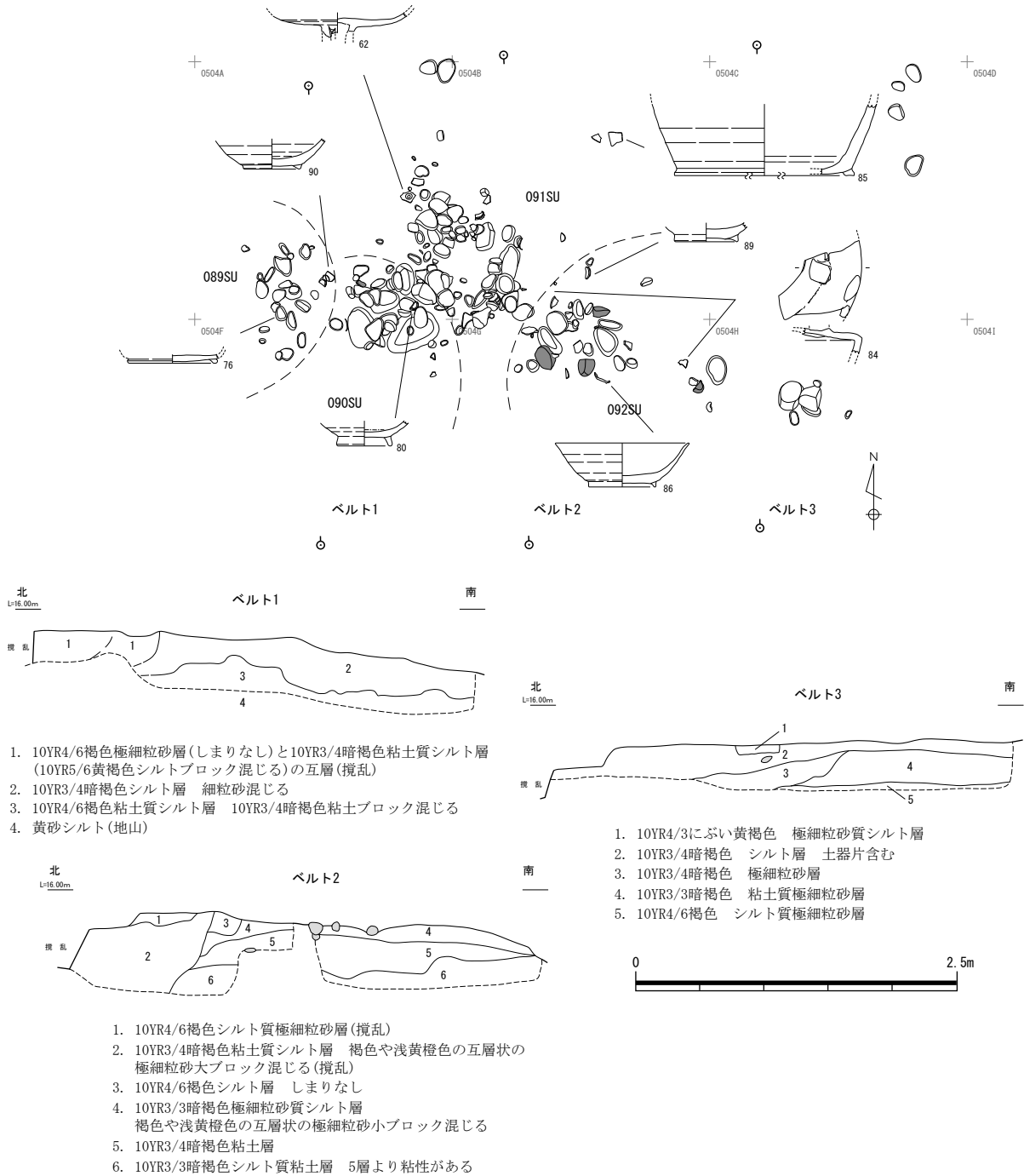


第17図 20B区148SD付近 (S=1/50)

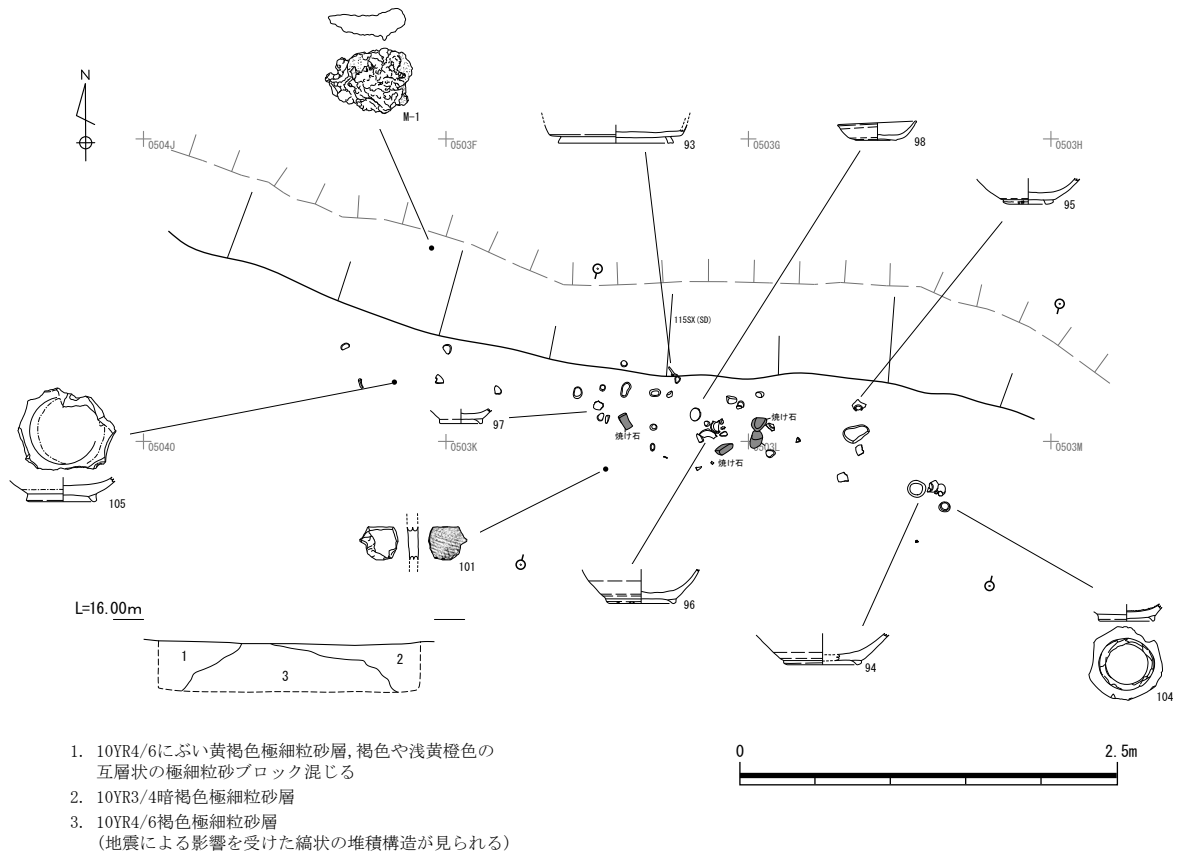
路底面の不整形の凹みである。古墳時代土師器高杯片が出土している。

172SD・200SD 172SD は谷状地形の底面で検出された溝であり、148SD の東側で南北方向に並行して延びる。南側では北西から 200SD が重複するが前後関係は不明。172SD は検出長 6.7m、幅 0.6m、深さ 0.11m であり、溝底面の標高は 14.8m 前後である。

187SK・192SK 187SK は径約 0.3m、深さ 0.56m、192SK は径約 0.4m、深さ 0.36m 規模の土坑であり、両者から灰釉陶器が出土している。周辺には他にも同規模の小土坑が確認でき、掘立柱建物を構成する柱穴の可能性が考えられる。ただし、209SX の方位と関連する軸線は抽出できていない。



第 18 図 20B 区集石遺構 089 ~ 092SU (S=1/50)



第19図 20B区 115SX付近 (S=1/50)

3 21A区・21B区の検出遺構

基本層序と微地形

21B区は、自然堤防が確認された20A区よりも東側にあたり、本遺跡では東端の五条川に最も近い調査地点となる。調査区が狭小であるため、実際の調査としては基盤層トレンチの断面観察を行った。遺物は検出されなかった。

21A区は今回の調査範囲では西端にあたり、この付近を近世には清須と犬山方面を結ぶ街道として整備された岩倉街道が北東-南西方向に通った。現在でも通称柳街道として交通量の多い主要な道路となっている。一帯は五条川に近い東側よりも基盤層の標高が高くなっているため広く削平されており、以西の試掘調査結果では遺構は捉えられていない。ここでは削平を免れた包含層の堆積が一部で認められた。東側では20B区から確認されていた同様の黒色砂質土層が攪拌された状況で確認され、それより西側の一部では黒色土とその上に褐色土の堆積が認められた。黒色土層の東側では古墳時代土師器を検出した。また褐色土層は古代の遺構が集中する範囲と概ね重複する。

(1) 21A区の遺構

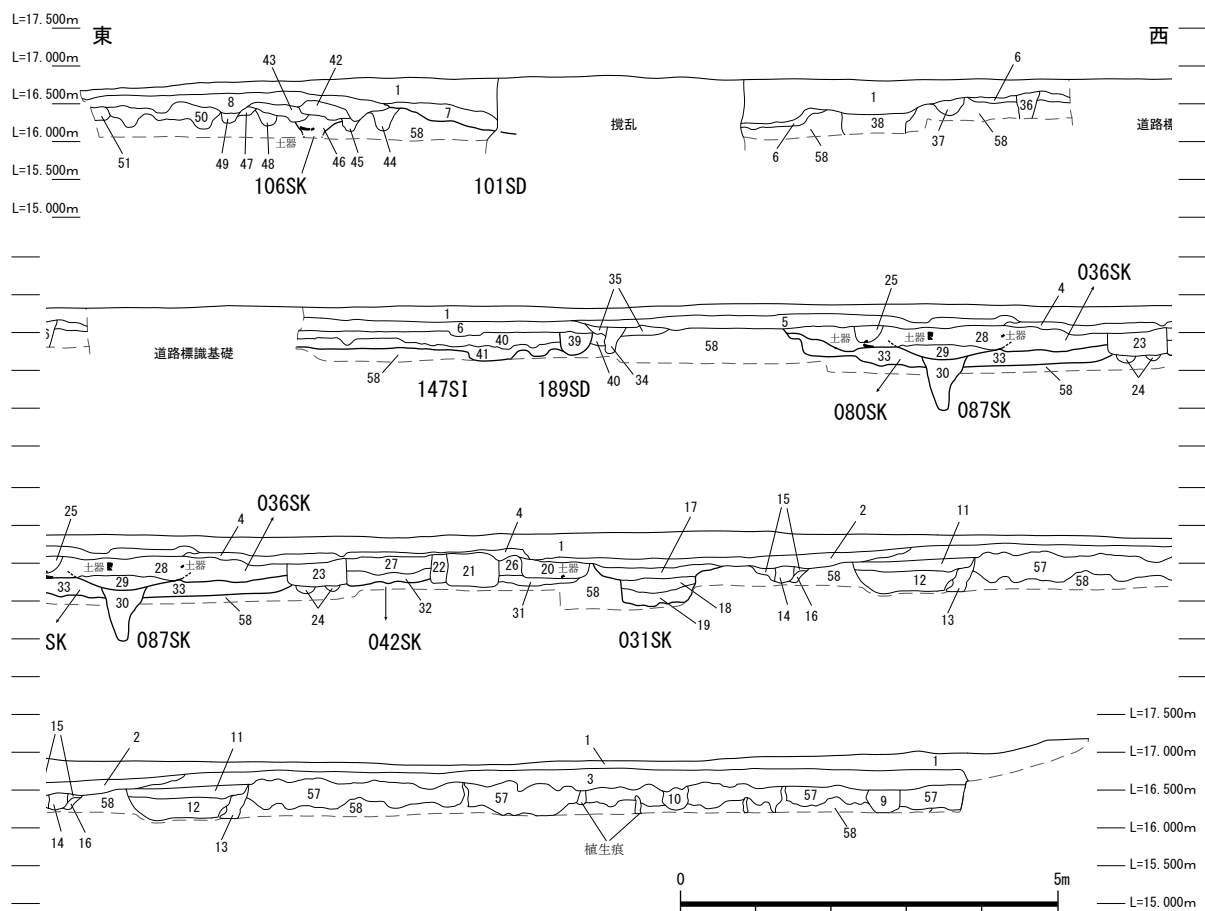
**竪穴建物
147SI
カマド
煙道部**

147SI 竪穴建物は調査区の中央付近で南壁寄りの範囲で確認された。検出範囲は4.1×3.5mの規模であるが、一辺約4m規模の隅丸方形のプランになると推定される。カマドは西壁の中央付近で幅約1.4m、そこからのびる煙道部を含める長さが約1.6mとなる。カマドおよび煙道部の範囲は焼土・炭化物の分布として認識できたが、構造は把握できていない。カマドの赤化部分の判別は明瞭でなく、ただし砂質土が硬化しておりこの特徴的な範囲を図化表現している。基

盤層が砂質土であるため植生痕などにより攪拌され、堅穴建物床面（貼床）や掘り方の境界は実際には正確に捉えられていない。カマド正面の土坑（188SK）は長軸1.24m、単軸0.9m、深さ0.2mの不整形で、高い位置から検出されることから、カマドはさらに高い位置にあったものと考えられる。カマド正面に対し右側となる壁際、北西隅には径0.5m、深さ0.12mの土坑（157SK）があり、炭化材のAMS年代測定では7世紀中頃～8世紀後半の暦年代が得られている。この土坑中央にはさらに径0.3m前後、深さ0.36mの柱穴（185SK）を検出した。調査区外となる南東部分を除いて支柱穴は3基（177SK, 181SK, 184SK）を確認した。カマド正面に対して左側、西壁に沿い南側にかけて幅0.3m、深さ0.1mの溝（189SD）を検出した。遺物は小片が多いが、8世紀前半頃と比定される濃尾型甕が出土している。

そのほか単独ではあるが、付近では堅穴建物内で検出された189SDと形状の類似する溝（078SK）を確認している。

堅穴建物? 147SIのすぐ東側で検出された遺構のうち、036SKとその下に重複して確認された080SK、近接する西側の042SKなどは堅穴建物の一部である可能性が考えられる。平面形状は不整形で全体像も判然としないものの、褐色砂質シルトを基本とする埋土には炭化物や刻書をもつ須恵器などが含まれ、南壁断面では遺構底面が水平に近い状態の堆積層が認められる。これらより北側では褐色土（包含層）は薄く、ここから基盤層は南側へ傾斜しているとみられる。036SKは検出長3.68m、幅0.77m、深さ0.28m。その下080SKは検出長2.58m、幅0.3m、深さ0.12m。042SK



第20図 21A区南壁断面図-1 (S=1/100)

1. 表土（現代整地）
2. 10YR3/4暗褐色シルト含む砂に黄褐色砂の細かいブロックがわずかに混じる、しまりあり
3. 10YR3/3暗褐色シルト含む細粒砂、しまりあり
4. 10YR3/3暗褐色シルト含む砂、しまりあり
5. 10YR3/3暗褐色シルトを含む細粒砂の互層、ラミナ構造みられる、しまりあり
6. 10YR3/3暗褐色シルト含む細粒砂、炭化物（粒）を含む
7. 10YR4/4褐色砂に10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロック（大）が混じる（101SD埋土）
8. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
9. 10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック（大）が混じる斑土
10. 10YR3/4暗褐色砂に10YR3/3暗褐色シルト含む細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが混じる斑土
11. 10YR3/3暗褐色シルト含む細粒砂に10YR4/4褐色砂ブロック（小）がわずかに混じる
12. 10YR4/4褐色砂ブロック（大）と10YR3/3暗褐色砂の斑土、しまりなし
13. 10YR4/4褐色砂の斑土、植生痕の影響あり
14. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂、しまりなし
15. 10YR3/4暗褐色シルト含む砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
16. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
17. 10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が少量混じる斑土（031SK埋土）
18. 10YR3/4暗褐色砂に黄褐色砂のブロックがわずかに混じる斑土、黒色の粒が混じる（炭化物ではなく沈鉄またはマンガン）（031SK埋土）
19. 10YR3/3暗褐色砂の斑土、黒色の粒が混じる（炭化物ではなく沈鉄またはマンガン）（031SK埋土）
20. 10YR3/4暗褐色シルト含む砂、土器小片混じる
21. 10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色砂のブロック（小）が混じる斑土、炭化物（粒）と土器細片を含む
22. 10YR3/3暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック（大）がまれに混じる、斑土
23. 10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色砂のブロック（小）が混じる斑土、炭化物（粒）と土器細片を含む
24. 10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂と10YR3/3暗褐色砂ブロックが混じる斑土
25. 10YR3/3暗褐色シルト質砂、炭化物含む
26. 10YR2/3黒褐色シルト質砂
27. 10YR2/3黒褐色シルト質砂
28. 10YR3/3暗褐色砂、しまりあり（036SK埋土）
29. 10YR3/4暗褐色砂、しまりなし
30. 10YR4/4褐色砂、黄褐色砂のブロック（小）をわずかに含む、しまりなし（087SK埋土）
31. 10YR2/3黒褐色シルト質砂に10YR3/4暗褐色砂のブロックが混じる
32. 10YR3/3暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック（大）が混じる（042SK埋土）
33. 10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂のブロック（大）が混じる斑土（080SK埋土）
34. 10YR3/4暗褐色砂と10YR4/4褐色砂の斑土
35. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR4/4褐色砂がブロック状に混じる
36. 10YR4/4褐色砂に10YR3/4暗褐色砂が混じる斑土
37. 10YR4/4褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が混じる斑土
38. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の細かい斑土（方形土坑）
39. 10YR3/3暗褐色砂の細かい斑土、炭化物含む（189SD埋土）
40. 10YR3/4暗褐色砂に10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が混じる、斑土、炭化物（粒）を含む（147SI埋土）
41. 10YR4/4褐色砂に10YR3/4暗褐色砂が混じる、炭化物（粒）を含む（147SI埋土）
42. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む、斑土
43. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む、斑土
44. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂のブロック（小）が混じる斑土
45. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂のブロック（小）が混じる斑土
46. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂が混じる斑土（106SK埋土）
47. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂
48. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
49. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック（大～小）が混じる斑土
50. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック（大～小）が混じる斑土（098SK）
51. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂、少量の10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂がブロック状に混じる
52. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
53. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルト質砂が混じる斑土
54. 碎石（攪乱）
55. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
56. 10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂ブロック（大）の斑土
57. 10YR3/4暗褐色砂、下位にかけて10YR4/4褐色砂が多く混じる
58. 10YR4/4褐色砂（基盤層）

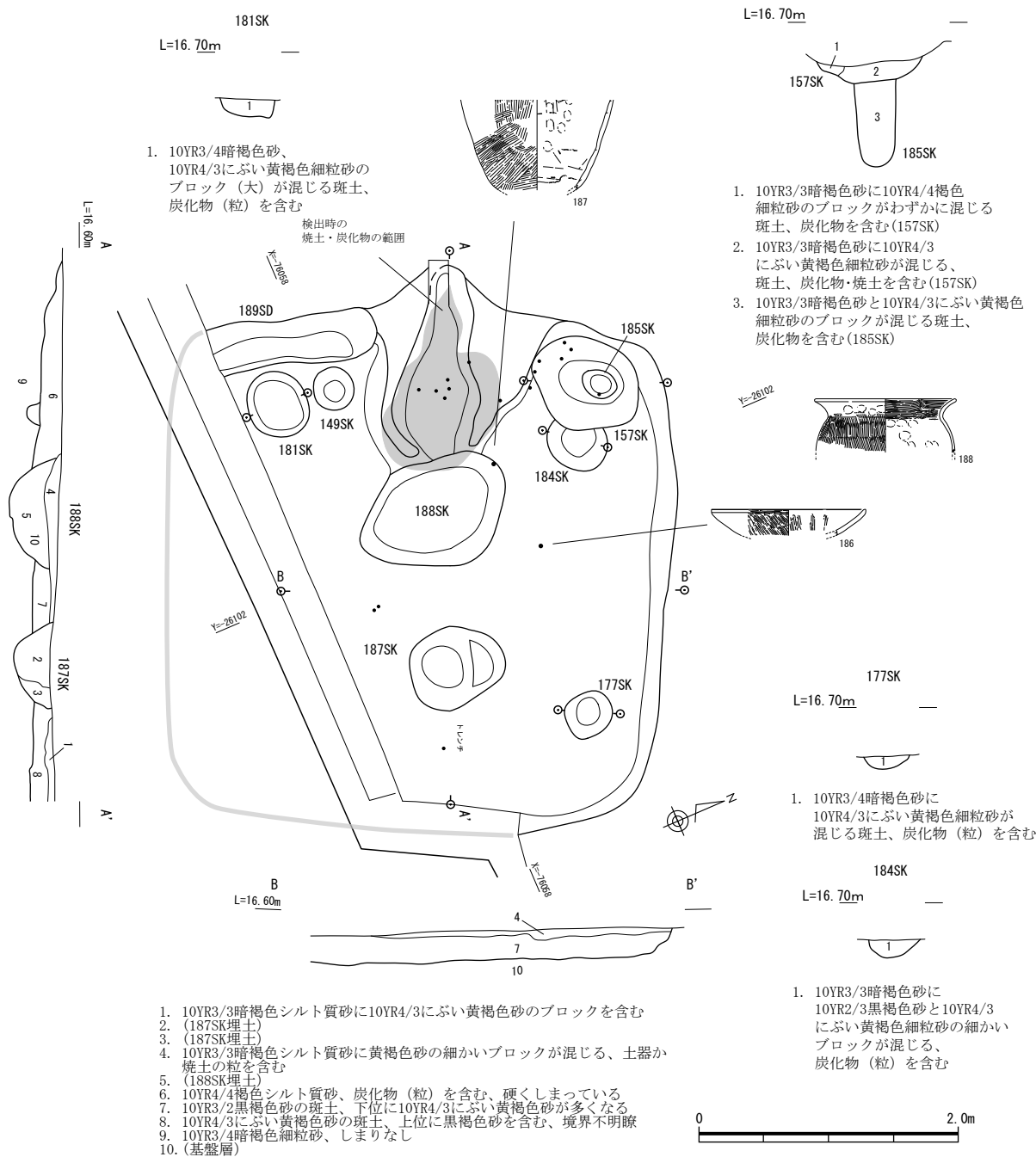
第21図 21A区南壁断面図-2（土層注記）

は検出長 1.19m、幅 0.92m、深さ 0.33m である。この周辺では古代の遺構・遺物の密度がともに高く、集落居住域の広がり推測される。少なくとも調査区外の南側にかけては遺構が遺存している可能性は高いと考えられる。

掘立柱建物 柱穴、小土坑は多数を確認したが、掘立柱建物が復元できるものは少ない。調査区では西側に位置する 190SB は大型の土坑・柱穴 4 基（011SK, 015SK, 023SK, 044SK）から推定した。桁行 1 間以上で柱間は 1.7～1.8m、梁行 1 間は柱間 2.5～2.8m、方位 N-12° -W の掘立柱建物である。4 基の柱穴の形状や埋土は不揃いでみな異なるが、ほぼ同じ箇所複数重複する点が共通している。軸線方向が近似する中世の溝（020SD）に先行し、柱穴の一つ 015SK からは 8 世紀後半の須恵器が出土している。

区画溝 北東から南西方向に調査範囲内では直線状に延びる 020SD・026SD・029SD は、連続する同じ溝と考えられる。方位は N-78° -E で検出長約 18m、幅 0.9m、深さ 0.3m、埋土堆積物からは湛水状況は認められない。山茶碗、小皿、片口鉢などの出土遺物は破片が大きく、投棄された状況で遺存しているとみられる。

北西から南東方向に直線状に延びる 130SD は方位は N-66° -W、検出長 8.8m、幅 1.1m、深さ



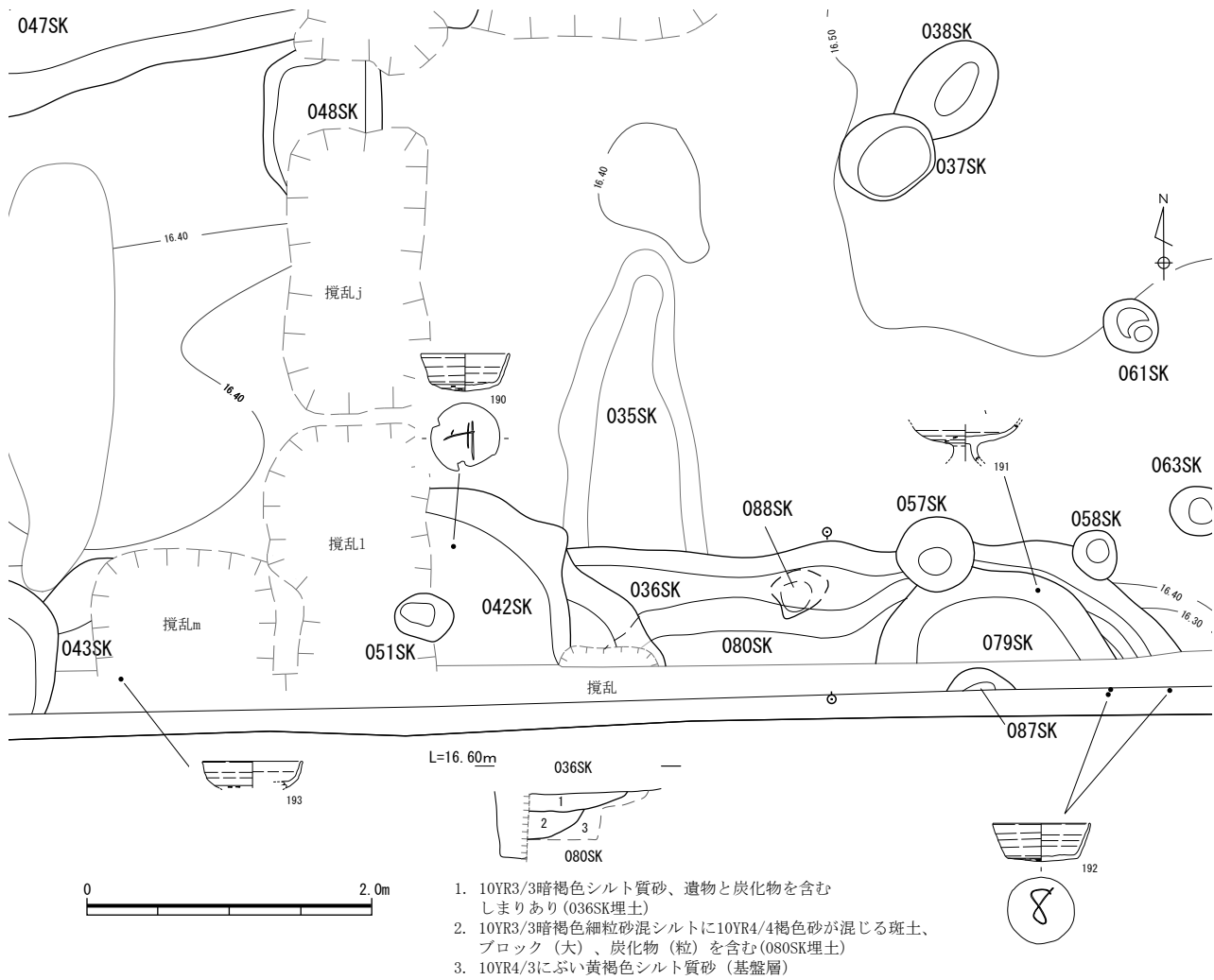
第22図 21A区 147SI (竪穴建物) (S=1/50)

0.26mであり、調査区内では東端が伸長する痕跡が見られない。途切れるか屈曲する可能性がある。こちらの溝も埋土堆積物からは湛水状況は認められない。山茶碗が出土している。

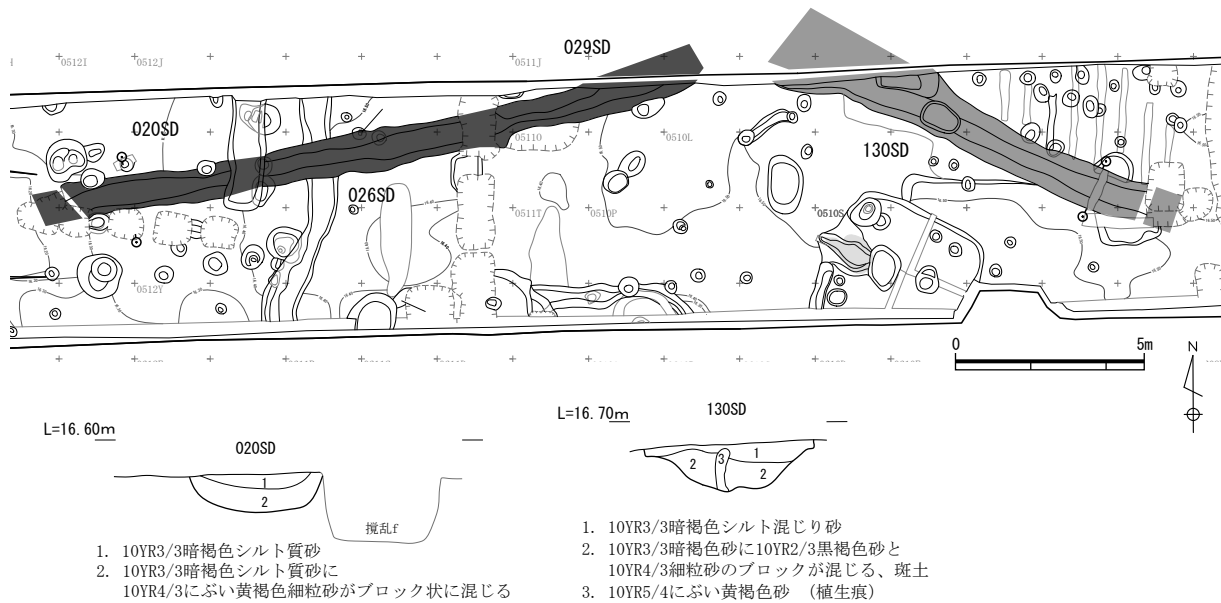
029SDと130SDの直接的な接続関係は調査区外で不明であり、出土遺物の時期差も判然としない。区画をなすには方位が不自然でもあり、ひとまずそれぞれ別個の溝と想定しておきたい。

(2) 21B区の遺構

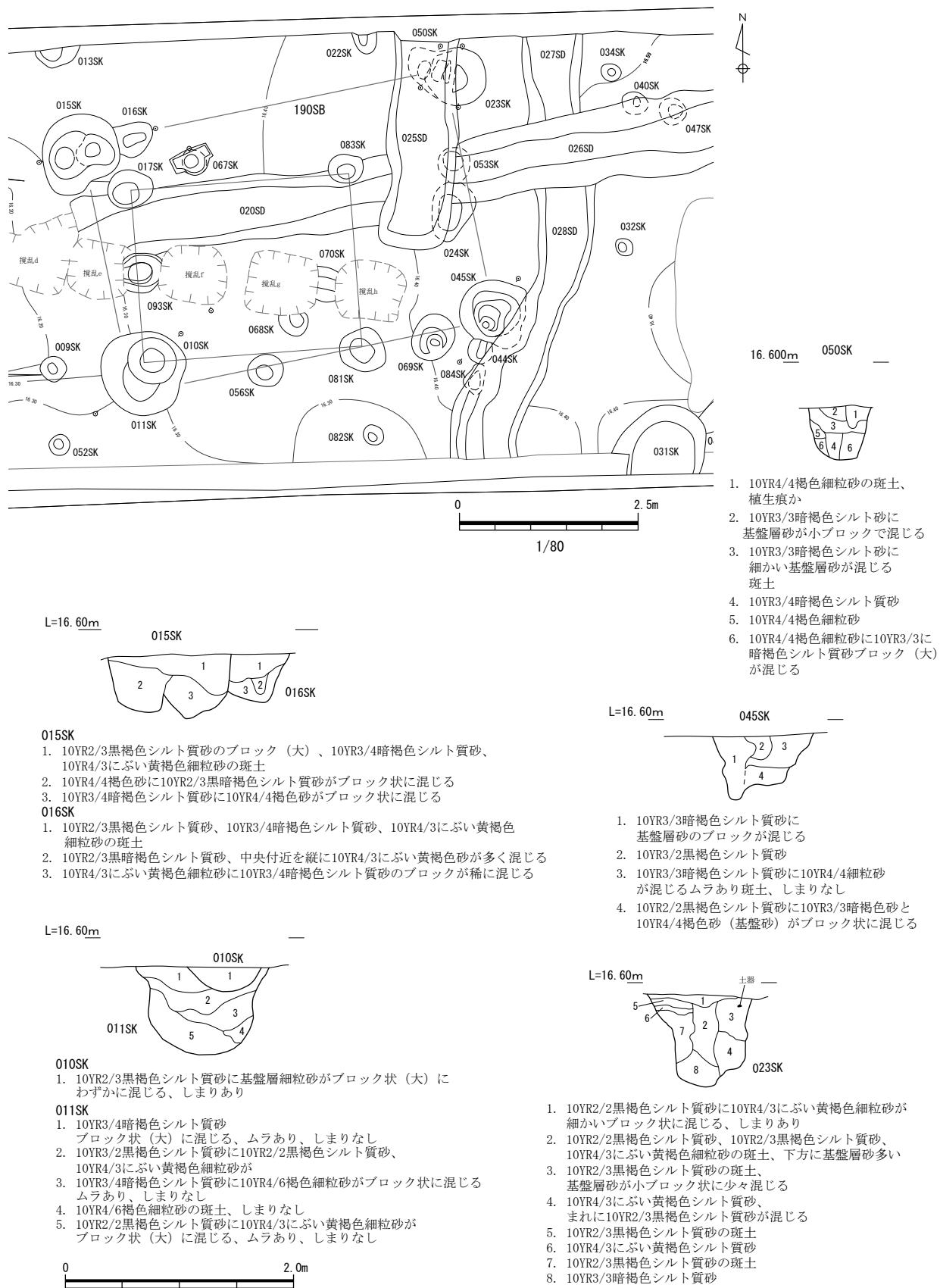
すぐ東側は現在の五条川が流れる。表土から標高15.0mの深さまで攪乱が及んでいる。その下No.6層は基盤層と思われたが土器細片を含む堆積土であった。ここでは標高14.0mで円礫(大)層に達する。



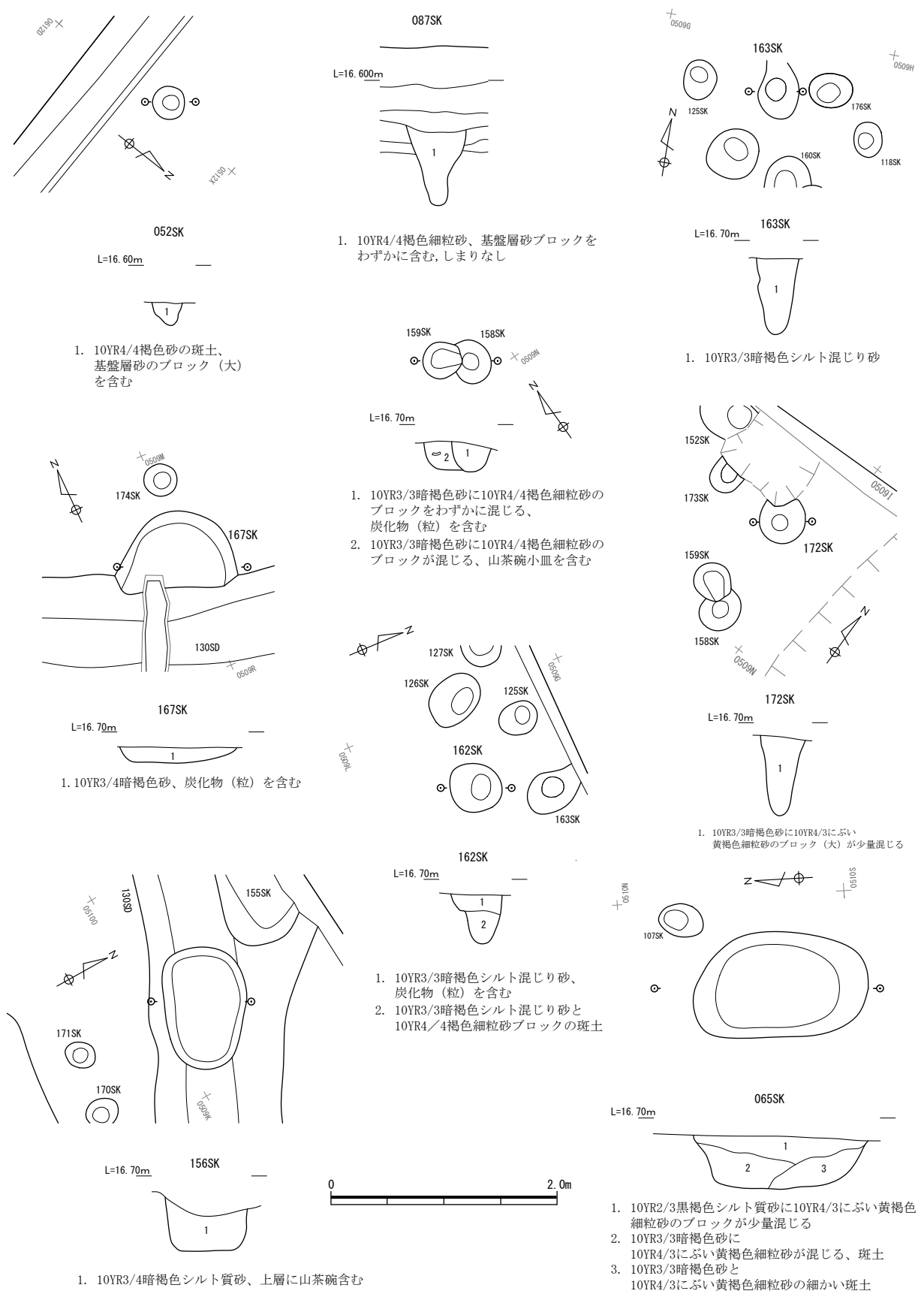
第23図 21A区 036SK, 080SK 付近平面・断面図 (S=1/50)



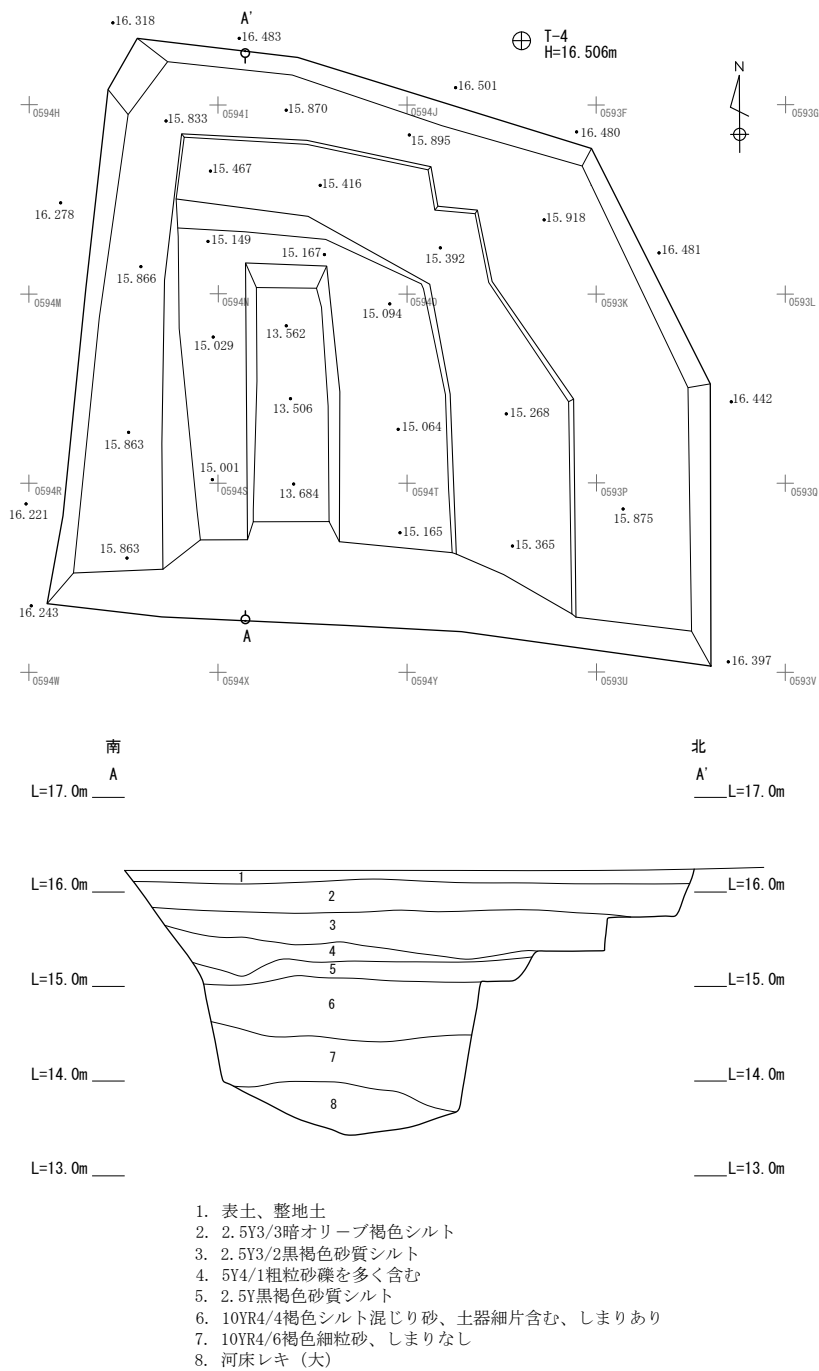
第24図 21A区 020, 026, 029SD・130SD 付近平面・断面図 (平面図 S=1/200, 断面図 S=1/50)



第25図 21A区掘立柱建物190SB平面・断面図 (平面 S=1/80, 断面 S=1/50)



第26図 21A区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)

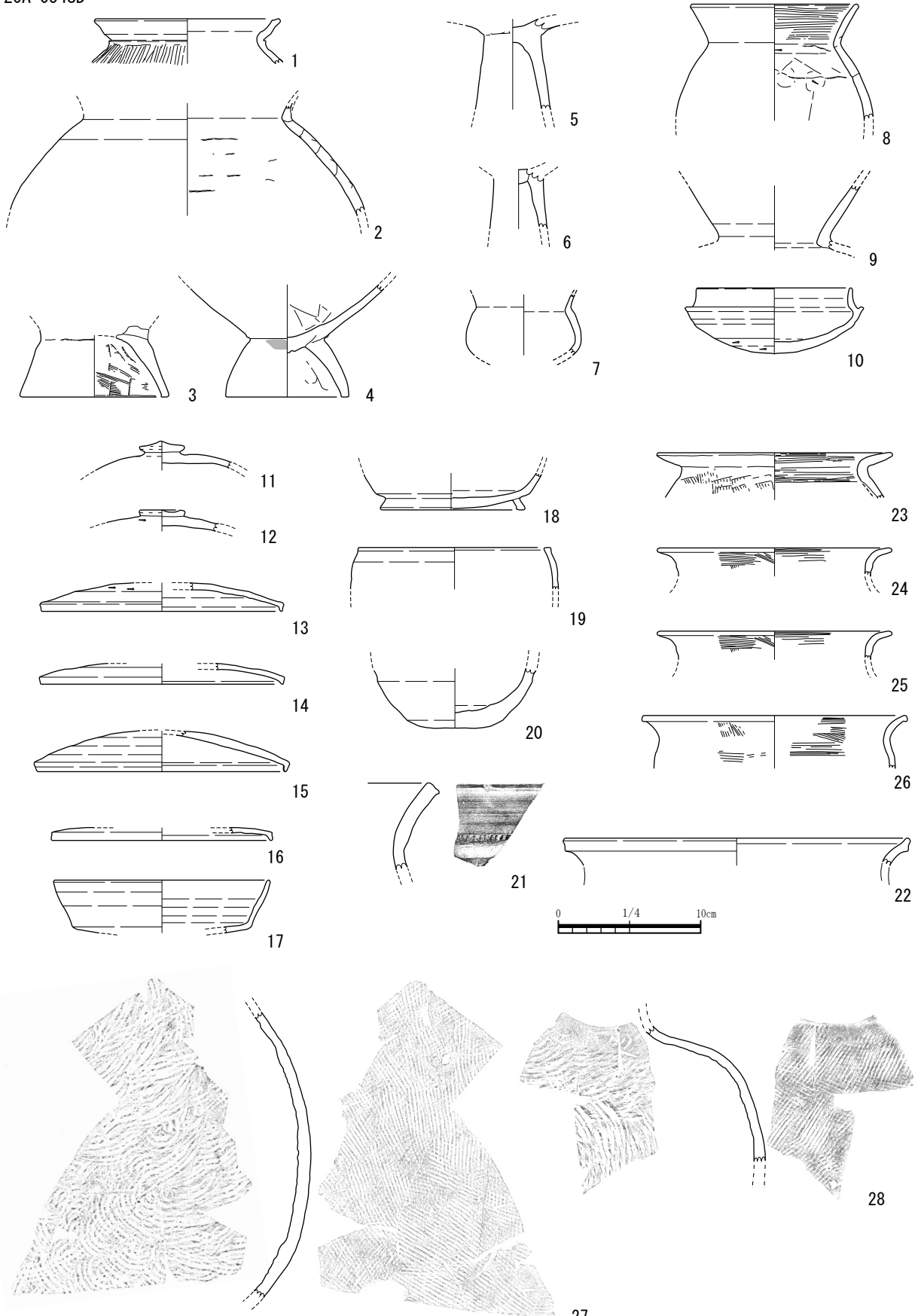


第27図 21B区平面・断面図(S=1/80)

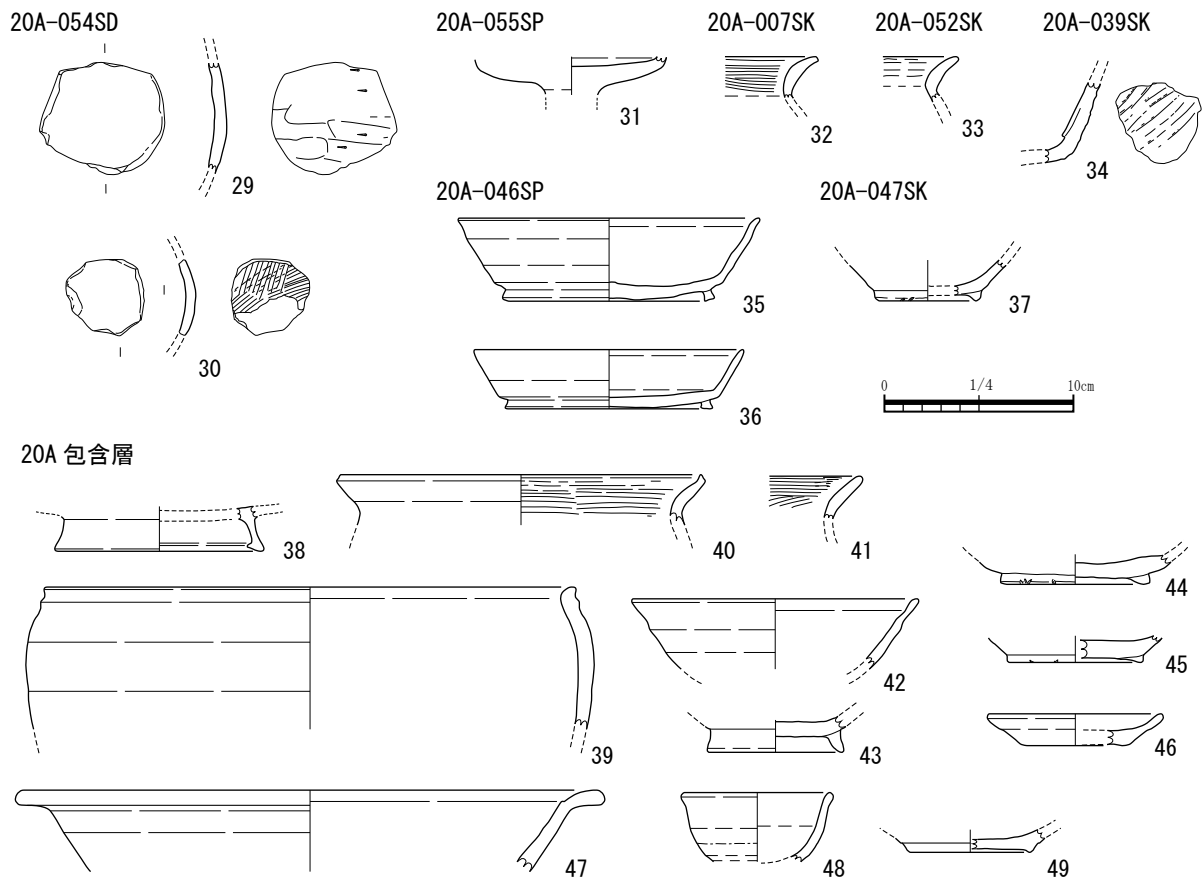
4 20A区・20B区の出土遺物

- 20A区054SD** 土師器では、(1)のS字状口縁台付甕D類古段階を含む台付甕(1,3,4)をはじめ直口壺(9)、広口壺(2)、壺(8)、小型丸底壺(7)、屈折脚高杯(5,6)があり、廻間式D類古段階～松河戸I式段階の資料がある。須恵器では、溝の中層で出土したH-44号窯式段階と比定される杯身(10)を除き、ほかは溝の上層に含まれる資料である。蓋(11～16)、無台杯(17)、有台杯(18)、鉢(19)、短頸壺底部(20)、大型の壺・甕類(21,22)などは猿投窯産で8世紀前半を中心とした資料である。また、胎土と内面調整に特徴が認められる美濃須衛窯産の壺・甕類(27,28)も含まれる。土師質煮炊具は、調整に粗いハケメを特徴とする濃尾型甕(24～26)がある。加工円盤(29,30)としたものは円形に整形された土器片である。
- 20A区その他の遺構** 055SP出土の土師器高杯(31)は杯部が楕形となるもので、宇田式に比定される。東側の攪乱を含む落ち込み周辺で出土した濃尾型甕(32～34)、046SP出土の須恵器有台杯(35,36)は8世紀前半、山茶碗(37)は第5型式に位置づけられる。
- 包含層出土遺物** 猿投窯産須恵器の盤(38)は8世紀後半、鉢(39)は8世紀前半に位置づけられる。土師器甕では7世紀代の伊勢型甕(40)と9世紀代の濃尾型甕(41)があり、灰釉陶器碗(42,43)が10世紀代の百代寺窯式期に位置づけられる。山茶碗(44,45)は第4型式、小皿(46)は尾張型第5型式後半に比定される。瀬戸・美濃窯産陶器では志野丸皿(49)、近世の灰釉小碗(48)、灰釉鉢(47)などがある。
- 20B区148SD** 148SDでは最下層を中心に土師器が出土しており、S字状口縁台付甕A類(50)、B類古段階(51～53)、台部片(54)、高杯(55,56)、壺(57～59)など、廻間式古段階～松河戸I式段階の資料がある。また、57は周囲を打ち欠き再利用された加工円盤である。須恵器では猿投窯産の有台杯(60)、甕(63,64)、美濃須衛窯産の無台杯(61)、高脚盤(62)などは8世紀前半～後半の時期に位置づけられる。土師質煮炊具では濃尾型甕(66)や頸部が屈折して開くタイプ(65)があり、9世紀代に比定される。
- 203SK 074SD** 203SK出土遺物は1点、土師器高杯(67)がある。074SDではS字状口縁台付甕B類(68)、土師器高杯(69)、須恵器高杯(70)と、ほかに須恵器や中・近世の陶器片を打ち欠いた加工円盤(72～74)、周縁が研磨された播鉢片(71)がある。
- 集石遺構 089SU～092SU** 集石遺構(089～092SU)に伴う遺物には時期幅があり、比較的大きな破片が含まれる。須恵器は有台杯は8世紀前半の猿投窯産(75,76)と美濃須衛窯産(77)があり、大型の平瓶(83,84)、長頸瓶(82)がある。灰釉陶器碗は猿投窯産K-90号窯式(78)、0-53号窯式(79,80)と猿投窯以外の製品(81)のほか、灰釉長頸瓶(85)がある。山茶碗では初期の第3型式(86～90)が一定量あり、ほか東濃型第5型式新段階(91)、15世紀前半の第10型式(92)も含まれる。
- 115SX** 115SX出土遺物では、須恵器有台杯(93)は猿投窯産で8世紀後半の資料。山茶碗(94～96,104,105)、山茶碗小碗(97)、小皿(98,99)があり、94,97は第4型式、95,99は第5型式古段階、104は第5型式新段階、96,98,105は東濃型第5型式前半の資料。加工円盤は須恵器甕(101)、山茶碗(102,104,105)、片口鉢(103)片などを用いている。そのほか小片となった古瀬戸灰釉中皿(100)と鉄滓(M-1)も出土している。

20A-054SD



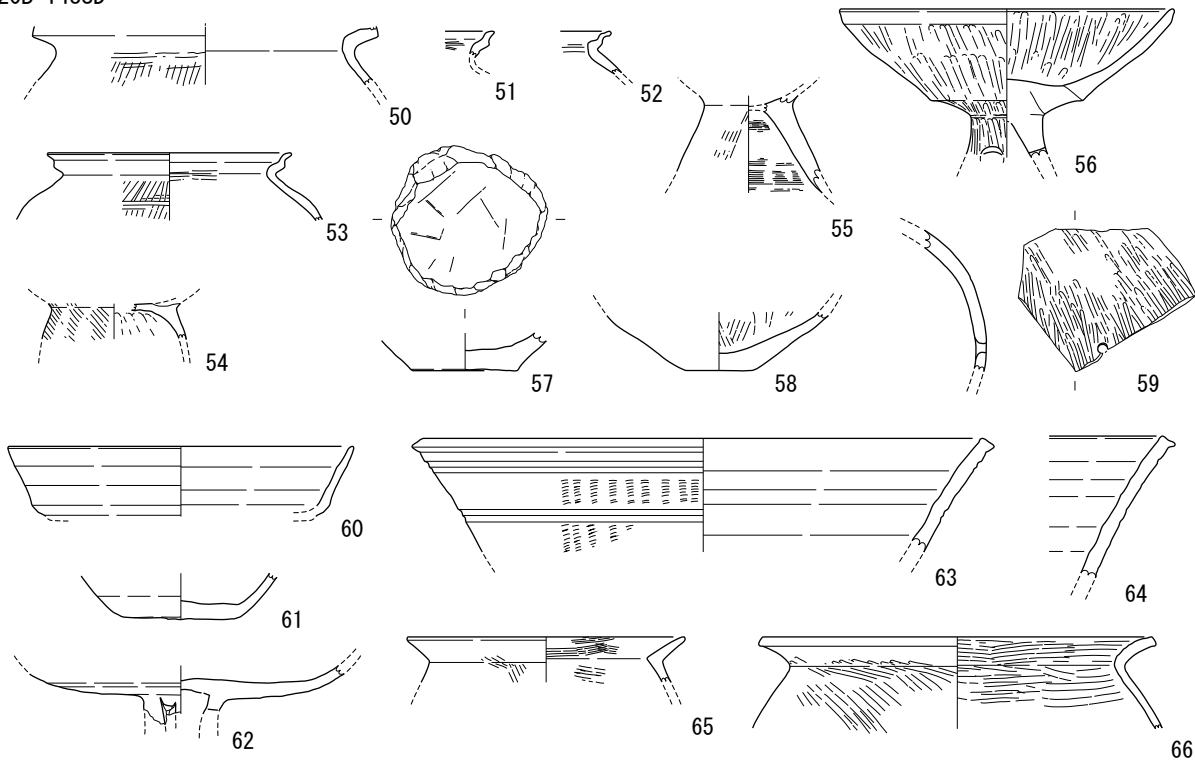
第28图 20A区出土遺物実測図-1 (S=1/4)



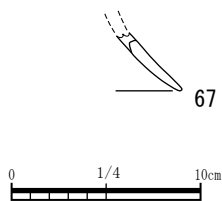
第29図 20A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)

- 187SX 187SX 出土遺物は猿投窯 0-53 号窯式並行期の東濃産灰釉陶器碗 (107) と皿 (108)、ほかに土師器片がある。
- 192SK 192SK では東濃産灰釉陶器碗 (109) が出土している。
- 151SK 151SK 出土の須恵器有台杯 (110) は 猿投窯産で8世紀前半、山茶碗は第4型式 (111,112)、東濃型第5型式 (113) がある。須恵器瓶 (114)、甕 (115)、片口鉢 (116)、近世の瀬戸・美濃窯産陶器鉢底部 (117) は再利用加工片である。
- 136SK 136SX からは須恵器壺 (118)、山茶碗は第4, 5型式の尾張型 (119 ~ 121) と東濃型 (122) のほか、山茶碗 (124) と播鉢 (123) を用いた加工円盤が出土している。
- 137SK 137SK 出土の須恵器は猿投窯以外の有台杯 (126) と美濃須衛窯産の壺 (125)、山茶碗は東濃型第5型式 (127 ~ 129)、近世鉄釉皿 (130) があり、ほか須恵器 (134)、須恵器壺・甕類 (132)、中世瓦 (131)、播鉢 (133) を用いた方形に近い形状の加工片などがある。
- 20B区その他の遺構 その他、青磁蓮弁文碗 (135) 小片のほか灰釉陶器 (138) や山茶碗 (136,137,139) の加工片も133SK、143SK、205SP など堤状の高まり (209SX) の周辺で出土している。
- 包含層出土遺物 遺構外からの出土遺物では、土師器は赤彩壺 (140)、高杯 (141 ~ 143)、甕 (144 ~ 147) があり、このうち 142 は内面加飾をもつ西濃型高杯と呼称されるもので廻間 II 式段階。S 字状口縁台付甕は A 類 (146)、B 類 (144)、C 類 (145) があり、147 は北陸系の有段口縁甕で口縁外面にハケ状工具による直線文が認められる。
- 瓦塔 須恵器では猿投窯以外の高杯 (148)、猿投窯産の甕 (150)、壺 (149,151,152,154 ~ 156) や瓦塔 (157) があり、これらの年代観は (150) は7世紀後半、(149) は8世紀前半、(154,155) も8世

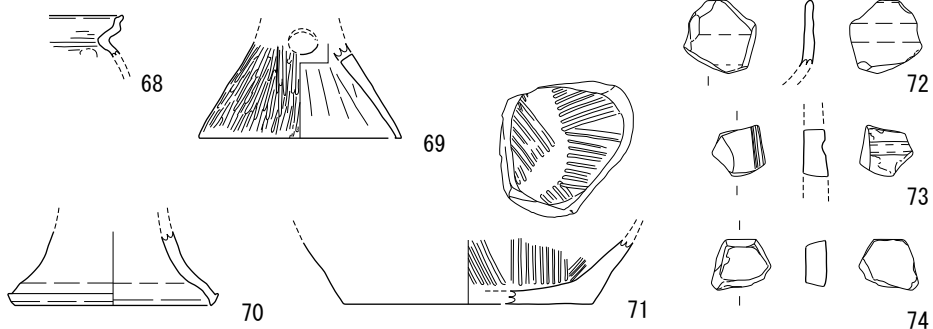
20B-148SD



20B-203SK



20B-074SD



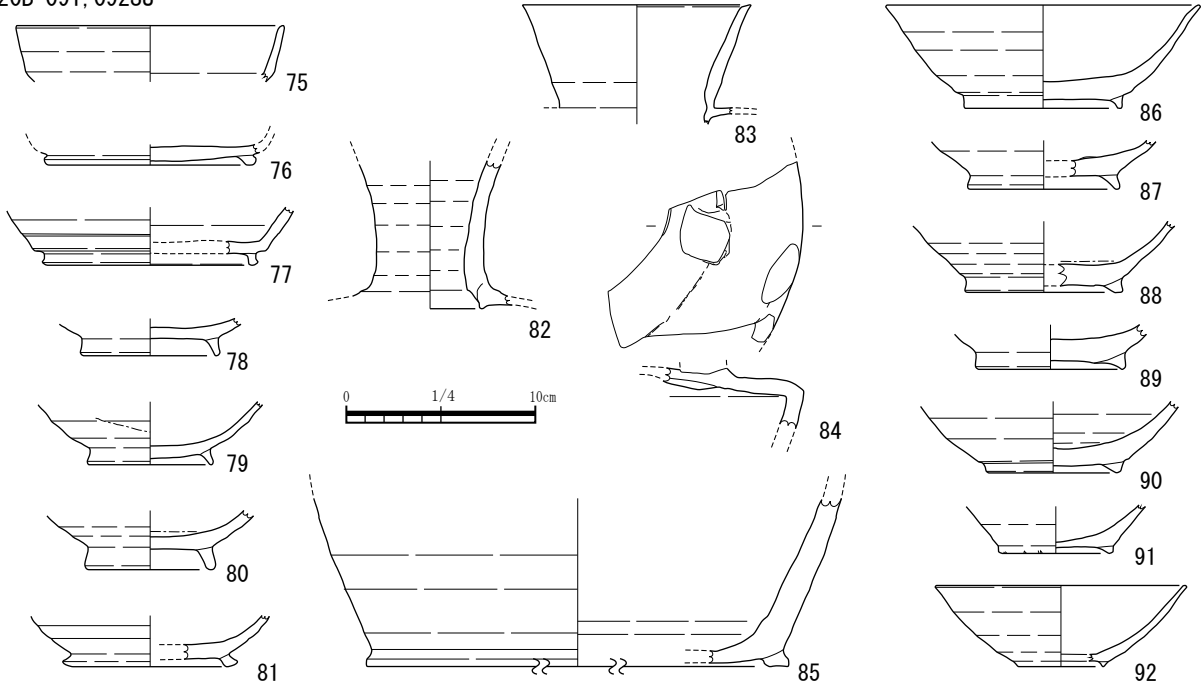
第30図 20B区出土遺物実測図-1 (S=1/4)

紀代に位置づけられる。(157)は瓦塔の屋蓋部の一部で、側壁から接続する瓦屋根部分の表現が認められる。

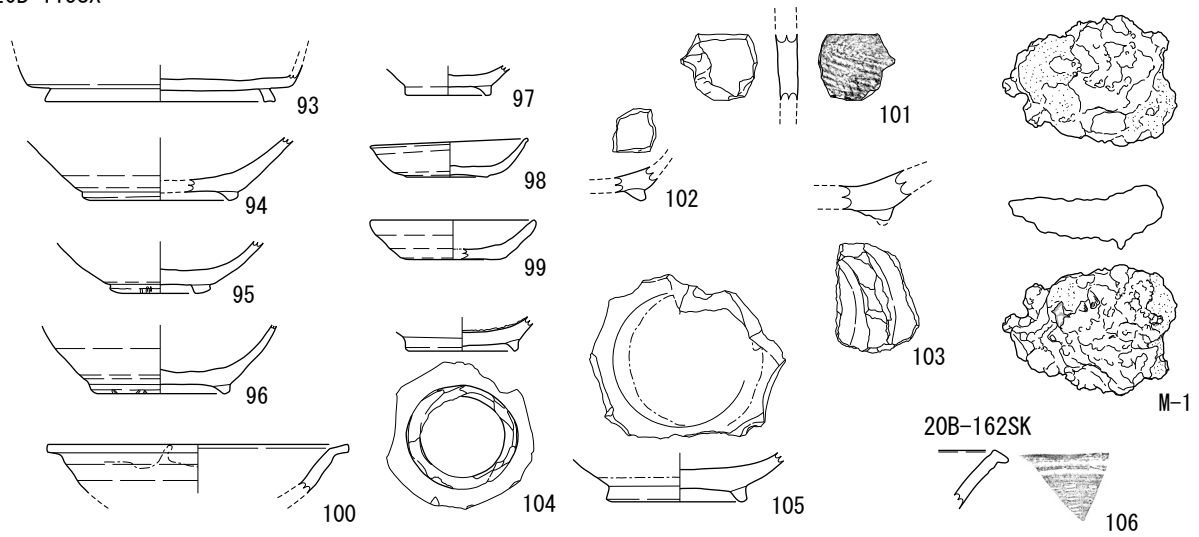
灰釉陶器では猿投窯産椀・皿と東濃産皿があり、それぞれK-90号窯式期(162)、O-53号窯式期(158,159)、並行期の大原2号窯期(164)、H-72号窯式期(160,163)、百代寺窯式期(161)に比定される。土師器煮炊具では赤褐色の特徴的な胎土色調を呈する清郷型鍋(165～168)がある。

山茶碗・小皿では第4型式(169～172)、尾張型第5型式(173)、東濃型第5型式後半(174)、東濃型第6型式(177)、東濃型第7型式(178)、東濃型第10型式(179)がある。180,181は山茶碗を利用した加工円盤である。

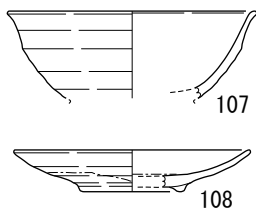
20B-091, 092SU



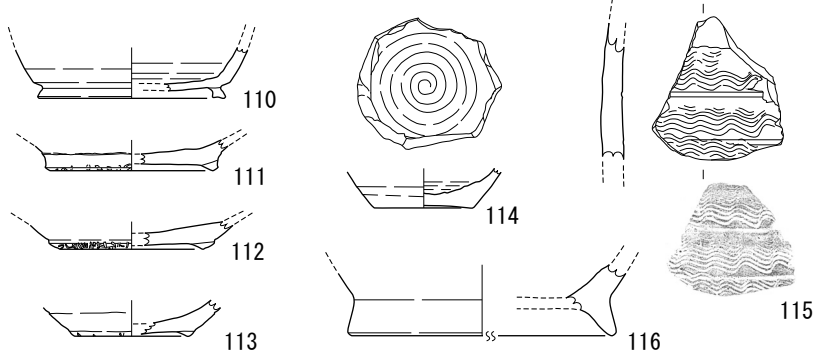
20B-115SX



20B-187SK



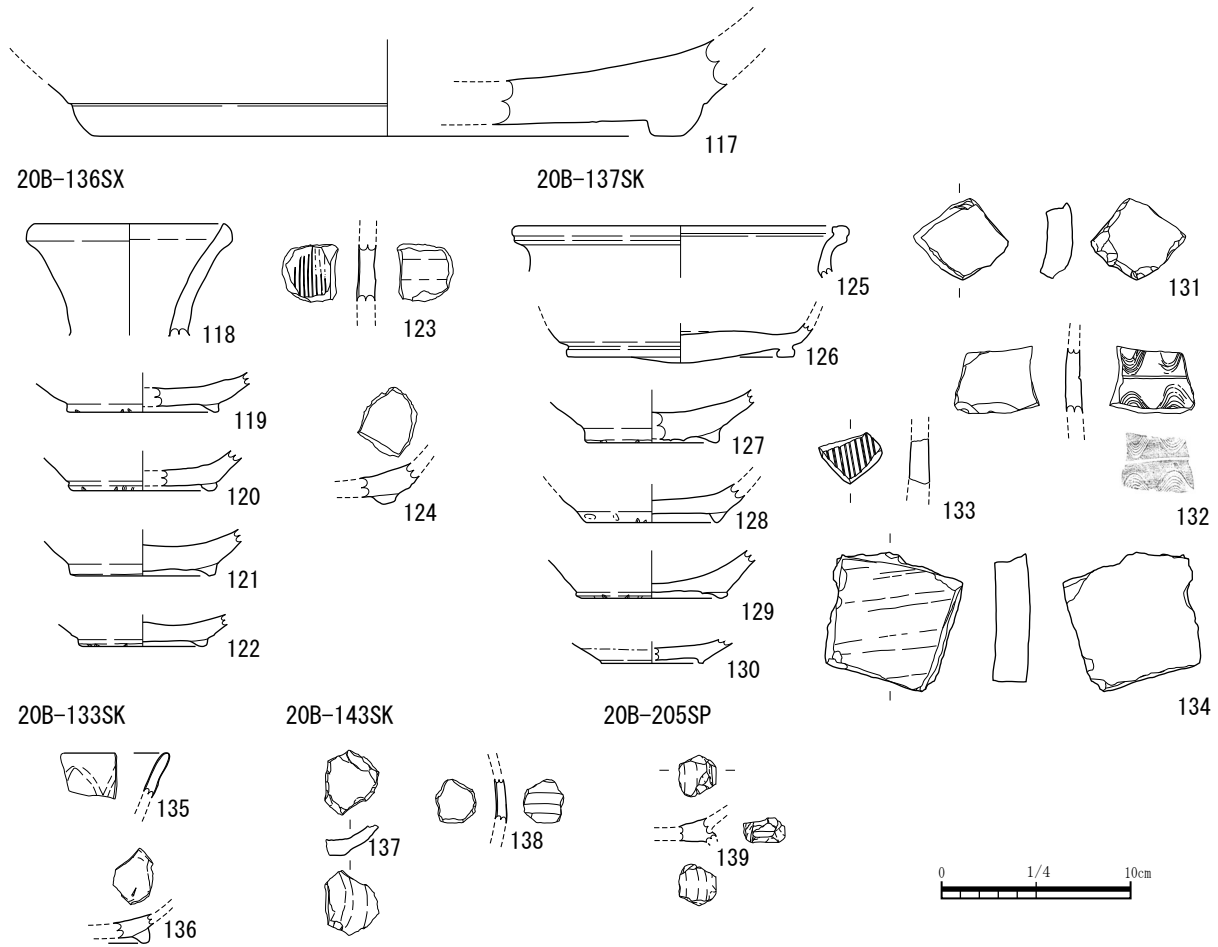
20B-151SK



20B-192SK



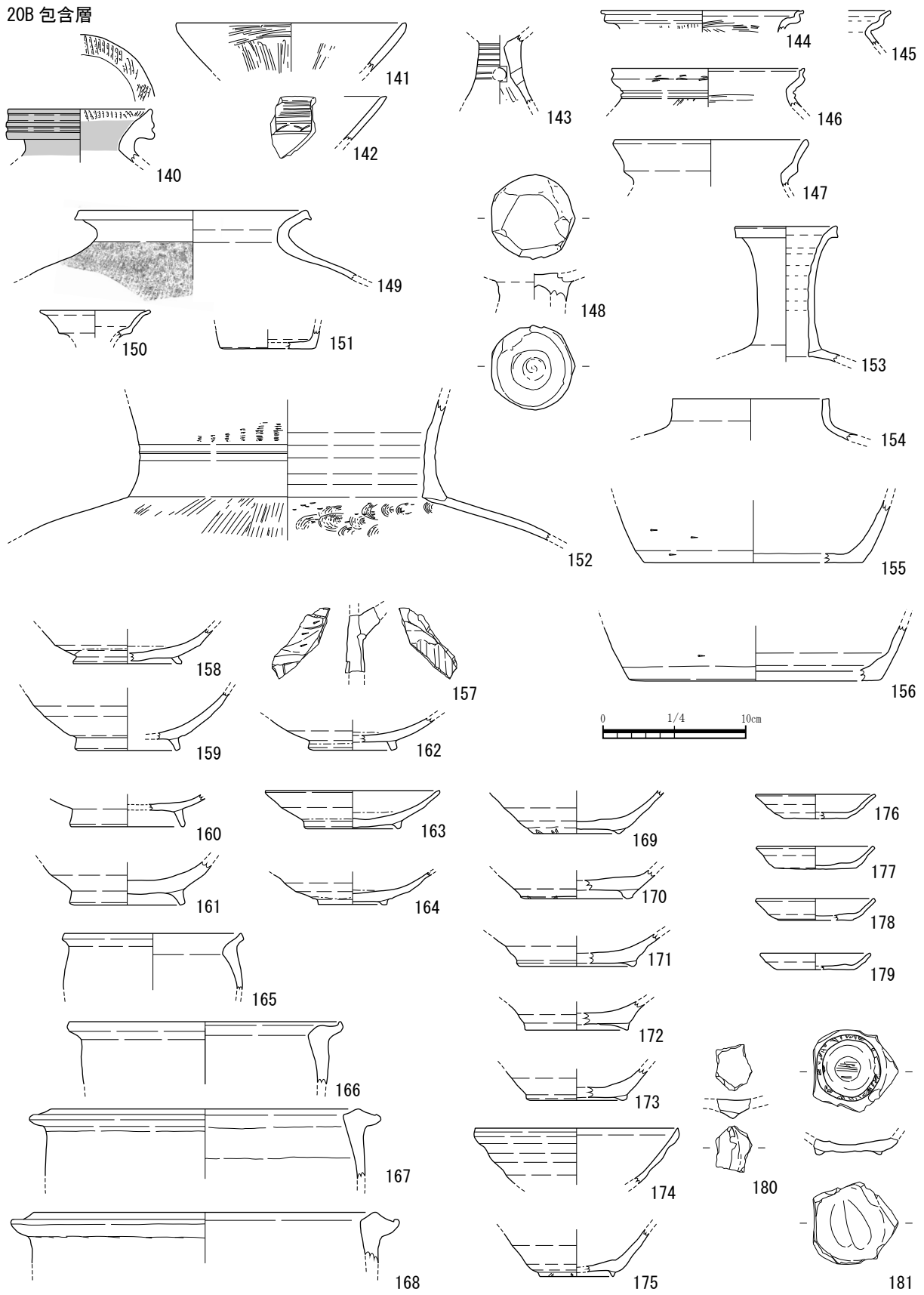
第31図 20B区出土遺物実測図-2 (S=1/4)



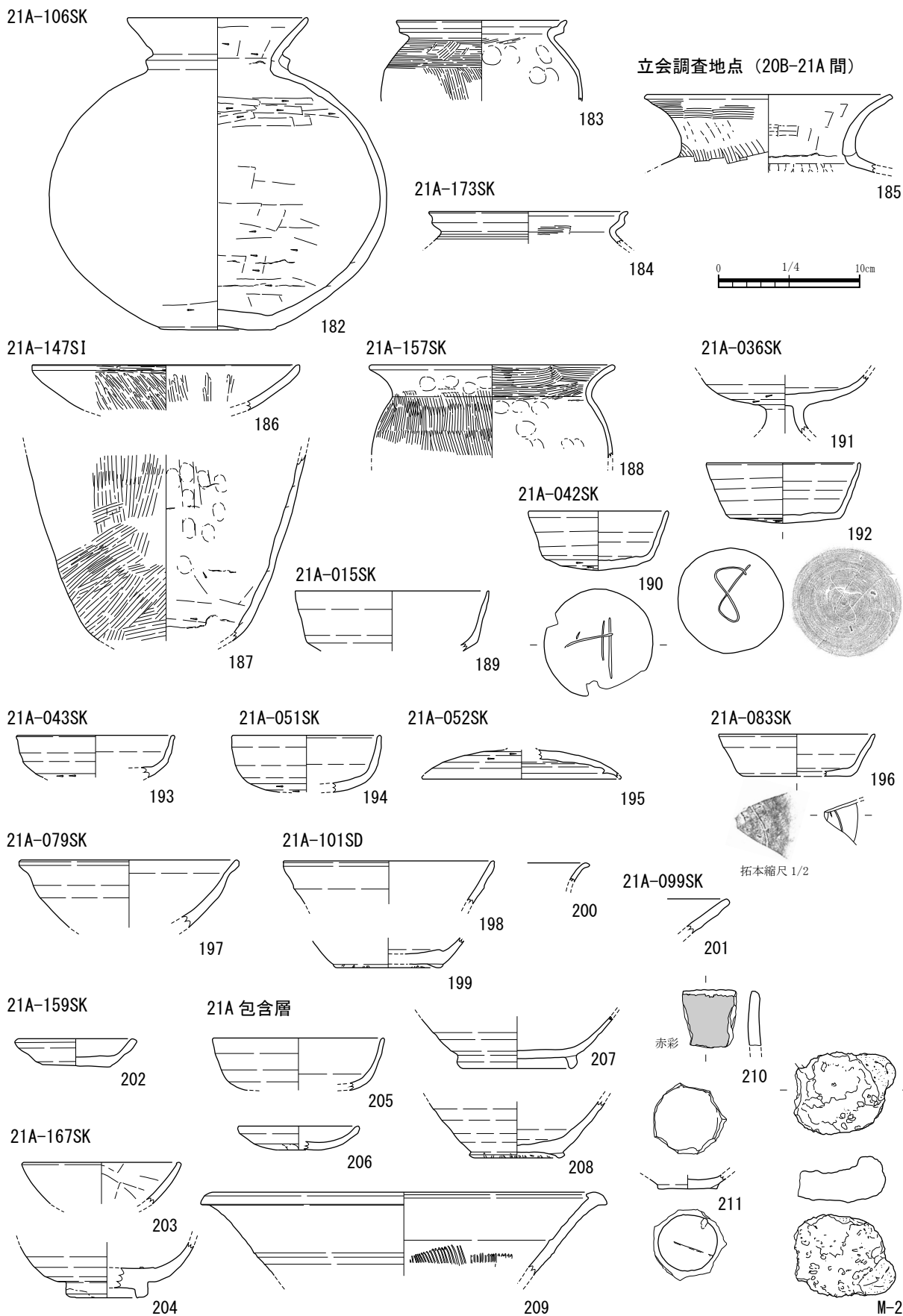
第 32 図 20B 区出土遺物実測図 -3 (S=1/4)

5 21A 区の出土遺物

- 21A区106SK** 106SK の遺構の形状は不明瞭であるが、調査区東部の南壁断面で認められた黒色土層の落ち込み部分から土坑と判断した。S 字状口縁台付甕 B 類古段階 (183) 片と土師器広口壺 (182) をややまとまった状態で検出した。広口壺は口径 12.6cm、底径 8.1cm、高さ 22.2cm。
- 173SK** 台付甕 (184) は 106SK より北西へ 10m 前後の距離で土坑 173SK より出土した。S 字状口縁 A 類。
- 22立会調査地点** また、106SK の東側の立会調査地点からは土師器広口壺 (185) 口縁部のやや大きな破片が出土している。
- 147SI** 竪穴建物 147SI の出土遺物。(199) は濃尾型甕の胴部下半で 8 世紀代に比定される。なお、床面直上で検出の土師器甕胴部片の外面付着炭化物の AMS 年代測定では 7 世紀後半～ 8 世紀後半の暦年代が得られている (667-709calAD(40.88%)/712-774calAD(54.57%) 第 4 章 1)。また、竈付近の埋土中の炭化材 (試料 3 点) ではいずれも 7 世紀中頃～ 8 世紀後半の暦年代が得られている。土師器高杯 (186) は混入品と思われる。
- 157SK** 竪穴建物内のカマド脇、北西隅付近の土坑 157SK 出土遺物。(188) 土師器甕は口縁部下からタテ方向の粗いハケメ調整の濃尾型甕。出土炭化材の AMS 年代測定では 7 世紀中頃～ 8 世紀後半の暦年代が得られている (660-704calAD(48.16%)/740-773calAD(47.29%) 第 4 章 1)。
- 015SK** 掘立柱建物を構成する柱穴 015SK の出土遺物。須恵器無台杯 (189) は猿投窯産で 8 世紀後半の資料。

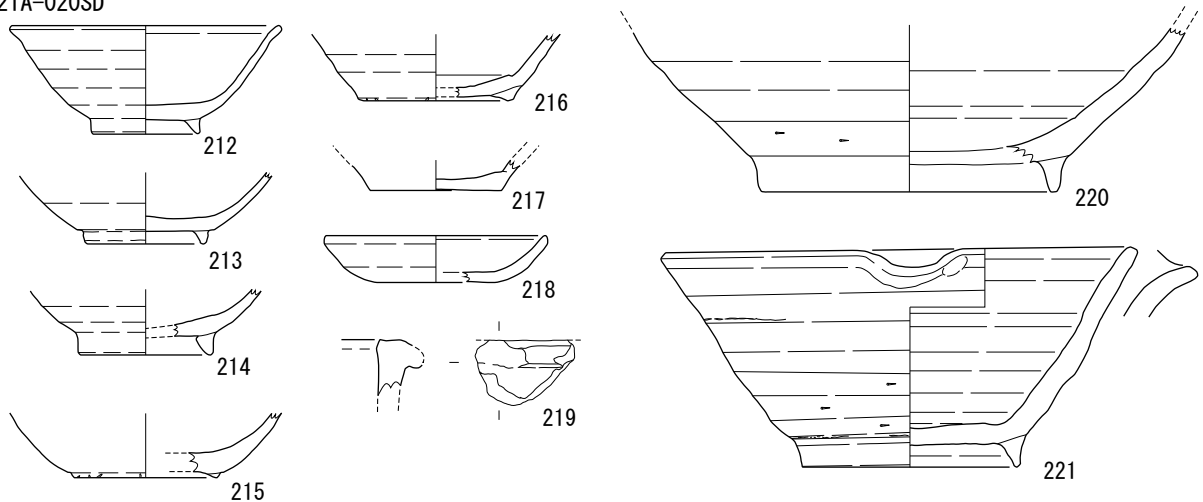


第33图 20B区出土遺物実測図-4 (S=1/4)

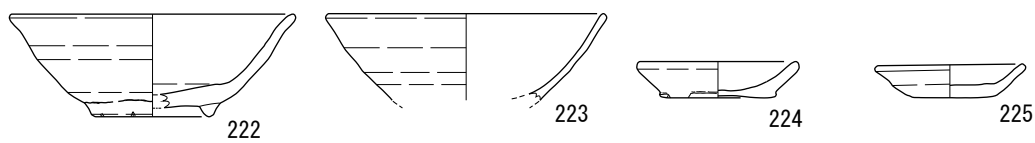


第 34 図 21A 区出土遺物実測図 -1 (S=1/4)

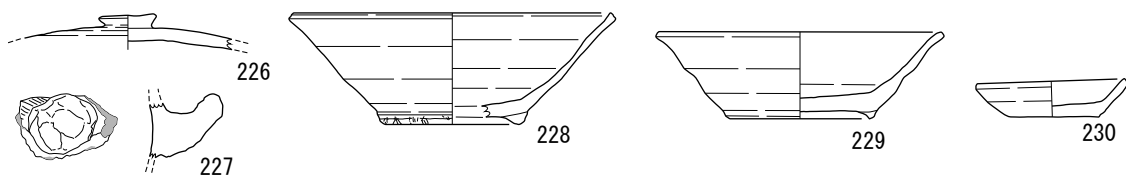
21A-020SD



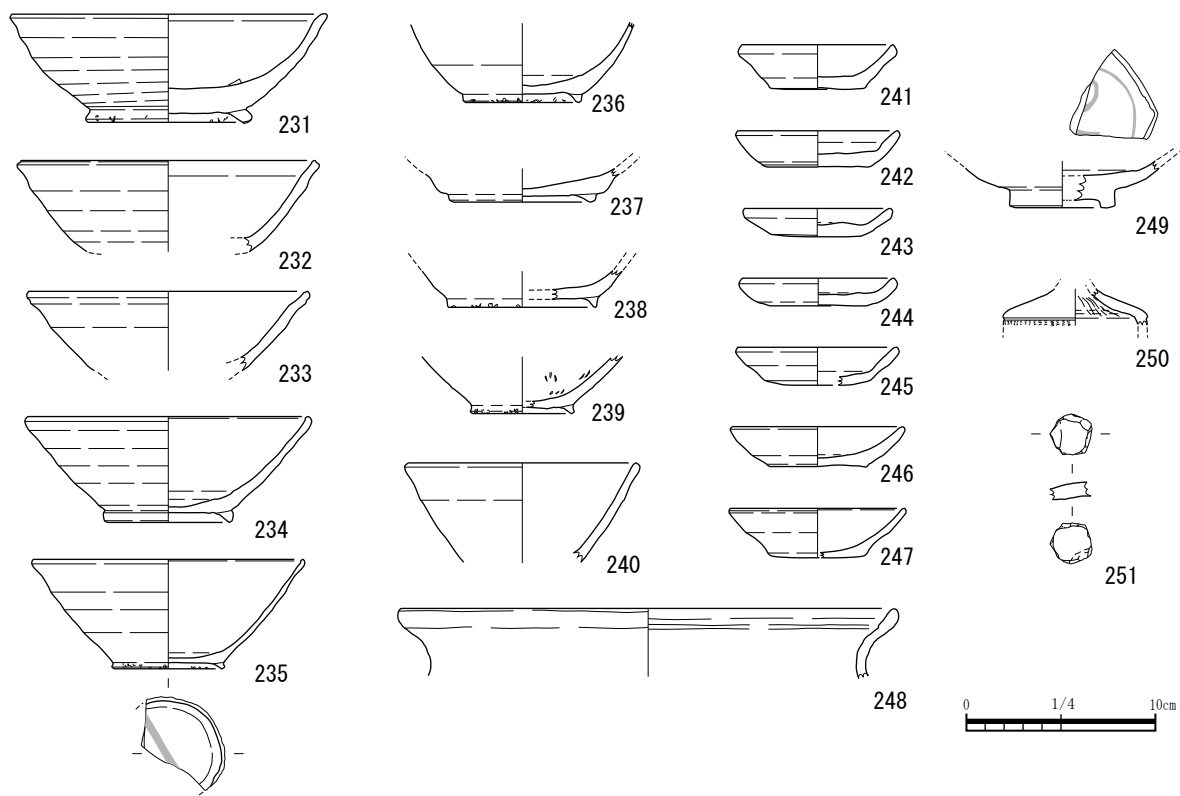
21A-026SD



21A-029SD

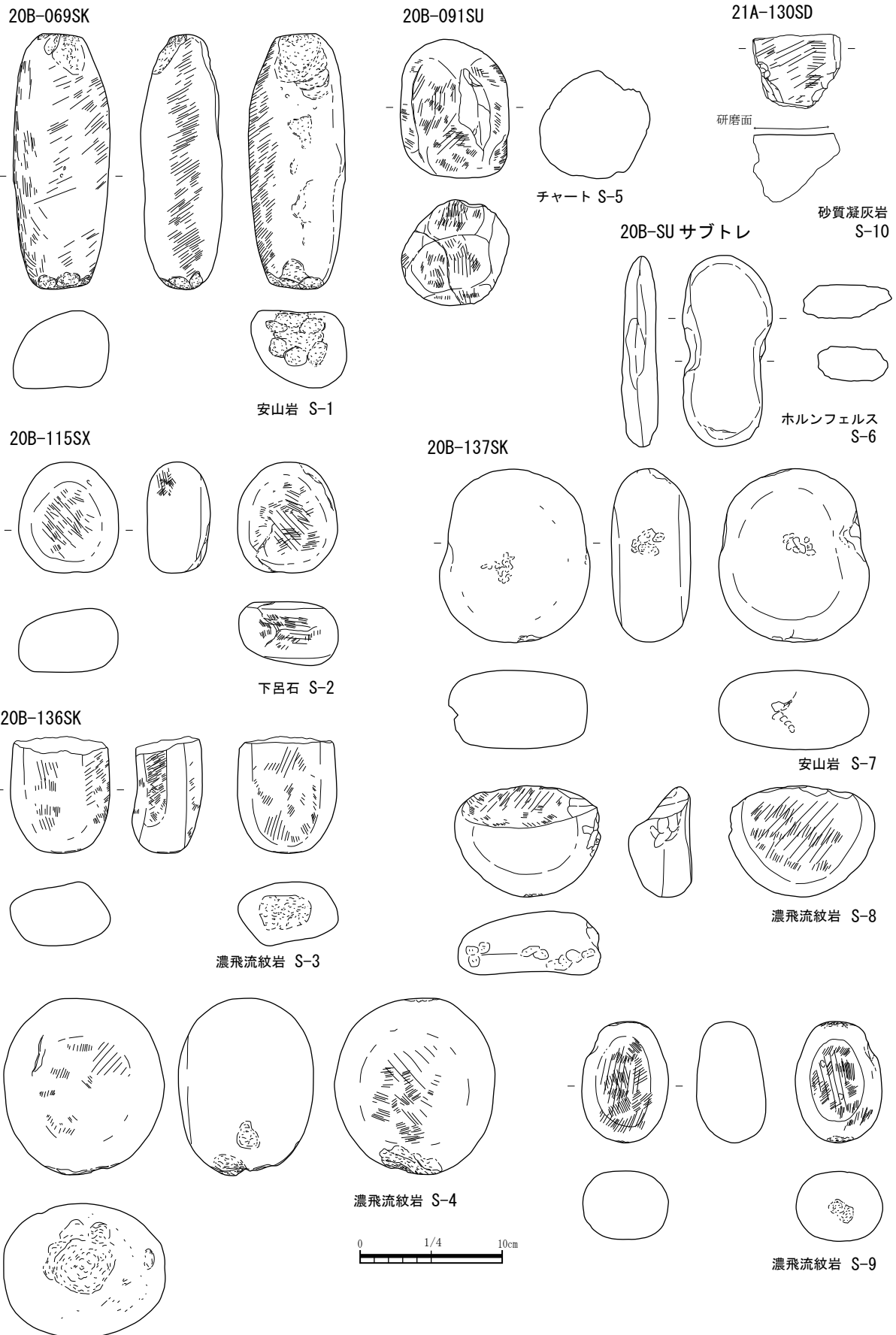


21A-130SD



第35図 21A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)

- 042SK 竪穴建物 (147SI) の西側、約 8m 離れた地点の土坑 042SK 出土遺物。猿投窯産須恵器無台杯 (190) は底面に記号状の刻書が認められる。8 世紀前半の資料。
- 036SK 竪穴建物 (147SI) から西側に約 3m 離れた位置の土坑 036SK 出土資料。須恵器高杯 (191)、猿投窯産無台杯 (192) があり、後者は底面に記号状の刻書が認められる。高蔵寺 2 号窯式。
- 043SK 042SK から西側に 2.5m 離れた位置の土坑 043SK 出土資料。美濃須衛窯窯産須恵器高杯 (193) は 7 世紀の資料。
- 051SK 042SK が重複する柱穴 051SK の出土資料。猿投窯産須恵器無台杯 (194) は 7 世紀後半の資料。
- 052SK 調査区南西部で検出の柱穴 052SK 出土遺物。猿投窯産須恵器蓋 (195) は鈕部分を欠く。井ヶ谷 17 号窯式。
- 083SK 083SK 出土遺物、猿投窯産須恵器無台杯 (196) は底面に刻書が認められる。高蔵寺 2 号窯式。
- 079SK 036SK に重複する落ち込み 079SK の資料。山茶碗第 5 型式 (197)。
- 101SD 101SD 出土遺物では尾張型山茶碗 6 型式 (199)、第 7 型式 (198) があり、中世以降の遺構に灰釉陶器椀 (200) が混入する。
- 099SK 099SK は耕作痕の可能性がある。調査区東端の攪拌された黒色土層包含遺物。瀬戸・美濃窯産陶器の灰釉盤類 (201)。
- 159SK 掘立柱建物柱穴と思われる小土坑 159SK 出土遺物。周囲には炭化物粒が目立ち、鉄滓も出土している。山茶碗小皿 (202) は尾張型第 5 型式。
- 167SK 167SK 出土遺物では土師器高杯 (203)、青磁碗 (204) がある。
- 020SD 北東から南西方向に長く延びる溝 020SD 部分の出土資料。山茶碗は東濃型第 5 型式 (212 ~ 214)、尾張型第 5 型式 (215)、第 6 型式 (216) と第 7 型式 (217) がある。(220, 221) は片口鉢。(218) も中世の資料で、口径 11.6cm、器高 2.6cm、非ロクロ整形の土師器皿。(219) の清郷型鍋は混入品。
- 026SD 020SD に続く一連の溝 026SD 部分出土資料。尾張型第 5 型式 (222, 224)、東濃型第 5 型式 (223, 225) の山茶碗・小皿がある。
- 029SD 020, 026SD に続く一連の溝 029SD 部分の資料。(228) は東濃型山茶碗第 5 型式前半、(229) は山茶碗第 5 型式、(230) 小皿は尾張型第 6 型式。混入品では猿投窯産須恵器蓋 (226) は高蔵寺 2 号窯式以前、(227) 把手付土師器鍋がある。
- 130SD 130SD と 029SD の交点は調査区外となるため接続関係は不明である。山茶碗・小皿は第 4 型式 (231 ~ 233)、東濃型第 5 型式後半 (234, 236, 246)、東濃型第 7 型式 (235) と第 6 型式 (238 ~ 240, 247)、山茶碗尾張型第 5 型式 (241)、第 6 型式 (237, 242 ~ 244) と第 7 型式 (245) がある。土師器煮炊具もあり、伊勢型鍋 (248) の口縁部外面付着物の AMS 年代測定では、13 世紀前半の暦年代が得られている (1216-1269calAD(95.45%) 第 4 章 1)。(249) は青磁碗。混入品では須恵器壘 (250) がある。(251) は山茶碗片を利用した加工円盤。
- 包含層出土遺物 (210) はパレススタイル壺胴部の赤彩部分を利用した方形の加工片。(205) は須恵器無台杯、7 世紀代の資料。(207) は灰釉陶器椀で 0-53 号窯式期の資料。中世の資料では (206) は口径 8.4cm、器高 1.7cm、非ロクロ整形の土師器皿。(208) 山茶碗は東濃型第 5 型式。小皿 (226) は周囲打ち欠きの加工円盤。(209) は江戸後期の鉄釉播鉢。遺構外で鉄滓 (M-2) も採取している。
- 石器類 磨石・叩石とした使用痕が認められる石器があり、石材には基盤層に含まれる濃飛流紋岩 (S-3, 4, 8, 9) が多用されている。ほか石材には下呂石 (S-2)、安山岩 (S-7) があり、(S-1) 安山岩は短



第36図 出土石器・石製品実測図 (S=1/4)

辺両端に敲打痕、側面に擦痕があり、薄く赤色の付着物が認められる。(S-6)はホルンフェルスを用い、扁平な長楕円形の石材の長辺中央端部に人為的な凹みが認められる。いずれも時期は不明である。石製品では21A区130SDから出土した砂質凝灰岩の砥石(S-10)1点がある。

金属製品・鍛冶関連遺物の分布

図化できなかった金属製品・鍛冶関連遺物の分布状況について記す。20A区では釘(004SX)、椀型滓と寛永通宝1点(007SX)が出土している。054SDでは上層から釘と推定される含鉄遺物、流動滓、椀型滓、下層から炉壁・羽口片が出土している。このほか炉壁片(050SK)、流動滓(包含層)がある。20B区では釘と推定される含鉄遺物(065SP,084SK,113SK,132SK,142SK,包含層)、刀子状の鉄片、銚(包含層)があり、集石遺構で釘、流動滓を検出している。132SKでは釘のほか銚、炉壁片、143SPでは羽口片、流動滓、椀型滓が出土している。21A区では釘(099SK,包含層)、炉壁片(035SK)、流動滓(079SK)、椀型滓(包含層)がある。

【注・参考文献】

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ, 2022, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ, 2023, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

表4 遺構一覧表(1)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20A	001SK	0596JO	-	-	-	-	(土, 須, 山)	略測上層
20A	002SK	0596IJNO	-1.24	-0.94	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層(中粒砂をわずかに混じる)／10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂が斑に混じる	土	052SK上層
20A	003SD	0596JOT	-2.21	0.4	0.08	10YR3/3暗褐色シルト層, 黄色っぽい周辺土少量ブロック状に混じる	土, 須	略測上層
20A	004SX	0496X・0596CDHINO	-	-	-	10YR4/4褐色極細粒砂層, 10cm程度の礫多く含む	(土, 須, 山)	略測上層
20A	005SD	0596IJN	-2.62	0.57	0.1	10YR3/4シルト質極細粒砂層, 10YR3/1黒褐色粘土(しまりあり)ブロック混じる	(土, 須, 山)	上層
20A	006SX	0496XY・0495U・0596DEIJ・0595AF	-	-	-	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層 10cm程度の礫多く含む	陶, 瓦	略測上層
20A	007SK	0496WXY・0495U・0596DE・0595A	-4.65	-0.83	0.56	-	土, 陶	攪乱
20A	009SK	0596NOST	-1.88	-0.43	0.12	10YR5/6黄褐色極細粒砂層	(土)	
20A	012SK	0596GH	0.57	0.32	0.1	10YR4/4褐色土層に10YR5/8黄褐色ブロック混じる	(土, 山)	
20A	014SX	0596GHLM	-2.51	-1.23	0.33	10YR5/6黄褐色細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂質ブロック混じる	(陶)	
20A	015SP	0596BG	0.27	0.22	0.06	10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂質シルトと10YR4/4褐色細粒砂のブロック混土層		
20A	016SK	0596B	0.91	0.56	0.09	10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂層(細粒砂混じる), 10YR3/3暗褐色 極細粒砂ブロック混じる		
20A	017SP	0596G	0.42	0.35	0.08	10YR3/4暗褐色 極細粒砂層(中粒砂混じる), 10YR4/6褐色極細粒砂質細粒砂ブロック含む		
20A	018SK	0596BCGH	0.99	0.96	0.1	10YR4/6褐色細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂のブロック混土層	(土, 須)	
20A	019SP	0596C	0.17	0.11	0.08	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 炭化粒多く含む		
20A	020SK	0596BC	0.99	0.82	0.22	10YR3/2暗褐色 細粒砂質極細粒砂層 炭化粒含む	須	
20A	021SP	0496V	0.23	0.21	0.09	10YR5/6黄褐色細粒砂質極細粒砂層, 10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じる		
20A	022SK	0596AB	0.99	0.51	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂質細粒砂に10YR5/6黄褐色極細粒砂が斑に混じる, 炭化粒含む	(土)	
20A	023SK	0596A	0.7	0.63	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層(中粒砂混じる), 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂少し斑に混じる		
20A	026SK	0597E・0596A	1.02	0.5	0.18	10YR3/4暗褐色細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂(中粒砂混じる)の斑状の混土層	(土)	
20A	033SK	05960・0595K	0.46	-0.29	0.11	10YR3/3暗褐色シルト層細粒砂混じる, 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック少し混じる, 炭化粒、土器片含む	(土)	001SK下層
20A	034SK	05960・0595K	-0.33	-0.29	0.11	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック多く混じる	(土, 須)	001SK下層
20A	036SK	05960・0595K	-0.68	-0.5	0.12	10YR4/6褐色極細粒砂層, 細粒砂含む		001SK下層
20A	037SK	0596JO・0595FK	0.64	-0.28	0.1	10YR4/4褐色 細粒砂層	(土)	001SK下層
20A	038SK	0596M	-0.67	0.49	0.18	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 炭化粒含む	(土)	
20A	039SK	0596HM	1.39	0.94	0.27	10YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層, 炭化粒含む	(土)	
20A	044SK	05960	-0.44	-0.24	0.17	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック混じる		001SK下層
20A	045SP	0596N	0.43	0.32	0.11	10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト層に10YR暗褐色粘土質シルトブロック混じる		005SD下層
20A	046SP	0597AF	0.92	0.59	0.07	10YR4/4褐色極細粒砂層	土, 須	
20A	047SK	0596HM	-1.14	0.9	0.37	10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂質細粒砂層と10YR4/6褐色極細粒砂層の互層	山	
20A	048SK	0596IJ	1.21	1.11	0.1	10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂層	土, 須, 山	004SX下層
20A	049SK	0596IJNO	2.27	-1.16	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂層	(土, 須, 山)	004SX下層
20A	050SK	0596CDEHIJ	3.1	2.66	0.31	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 細粒砂混じる	土, 須, 山, 陶	004SX下層
20A	051SK	0596CD	-0.66	0.64	0.07	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	(土)	004SX下層
20A	052SK	0596JO	-1.4	0.95	0.53	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層, 中粒砂をわずかに混じる	土, 須	002SK下層
20A	053SK	0596DEIJ	0.93	0.92	0.27	10YR3/4暗褐色極細粒砂質細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック混じる	土, 須, 山	006SX下層
20A	054SD	0400WXY・0499U・0500DEIJNO・0599ABFGKL	-7.79	5.4	0.88	断面図に記載	土, 須	
20A	055SP	0498W	0.34	0.32	0.11	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂のブロック混土層	土	
20A	056SP	0498V	0.33	0.27	0.08	10YR4/6褐色極細粒砂層	(土)	
20A	057SP	0498V	0.3	0.29	0.13	10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂層と10YR3/4暗褐色極細粒砂層の互層, 炭化粒混じる		
20A	058SK	0599FGKL	1.5	-1.3	0.55	南壁断面図に記載	土	054SD下層

表5 遺構一覧表(2)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20A	059SK	0500LM	-0.6	0.56	0.17	10YR3/4暗褐色極細粒砂(細粒砂混じる)と10YR5/6黄褐色シルト質極細粒砂のブロック混土层	須	
20B	060SP	0506P	0.48	0.36	0.13	10YR2/3暗褐色シルト質細粒砂層 10YR4/6褐色シルト質細粒砂ブロック混じる 土器片混じる	(土)	
20B	061SP	0506KP	0.41	0.29	0.17	10YR4/6褐色極細粒砂層細粒砂混じる, 10YR3/4暗褐色細粒砂ブロック混じる		
20B	062SP	0506K	0.36	0.32	0.18	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質細粒砂ブロック混じる		
20B	062-1SP	0506K	0.33	-0.24	0.17	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質極細粒砂ブロック混じる		
20B	063SK	0506KL	-0.73	0.61	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂が斑に混じる	土, 山	
20B	063-1SP	0506K	0.26	0.22	0.21	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色極細粒砂の混土层		
20B	064SP	0506Q	0.3	0.23	0.17	10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂ブロック		
20B	065SP	0506L	0.33	0.32	0.15	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層		
20B	066SP	0506Q	0.28	0.26	0.06	10YR3/3暗褐色 細粒砂層		
20B	067SP	0506L	0.43	0.4	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/4褐色小ブロック混じる	(土)	
20B	068SP	0506L	0.4	0.37	0.11	10YR3/4黒褐色シルト質細粒砂層, 10YR2/1黒色極細粒砂ブロック混じる	土	
20B	069SK	0506L	0.66	0.63	0.17	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂ブロック混じる		
20B	070SK	0506Q	0.58	0.45	0.16	10YR2/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック混じる		
20B	071SK	0506GL	0.72	-0.66	0.14	10YR3/3暗褐色シルト層, 10YR2/3黒褐色極細粒砂小ブロック少し混じる, 10YR4/4褐色細粒砂ブロック斑に混じる	山	
20B	071-1SK	0506GL	0.63	-0.42	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/4褐色細粒砂ブロック混じる		
20B	072SK	0506N	0.5	0.47	0.11	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR4/6褐色中粒砂斑土状に混じる		
20B	073SP	0506H	0.35	0.3	0.09	10YR3/3暗褐色極細粒砂層		
20B	073-1SP	0506HM	0.43	-0.42	0.08	10YR4/4褐色極細粒砂と10YR3/3暗褐色極細粒砂の混土层		
20B	074SD	0506DEIJNOST・0505ABCFGHKLMPQR	-7.6	7	0.59	南壁断面図に記載	土, 須, 山, 陶	
20B	075SD	0506CGHLMQR	-6.08	0.28	0.07	10YR3/3暗褐色 極細粒砂層	山, 陶	
20B	076SP	0506R	0.43	0.37	0.12	10YR2/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の斑状混土层		
20B	077SP	0506LQ	0.45	-0.27	0.1	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の斑状混土层		
20B	078SP	0506M	0.41	0.25	0.12	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質細粒砂ブロック少し混じる		
20B	079SK	0506BG	-0.8	0.31	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	080SP	0506G	0.31	-0.28	0.06	10YR3/4暗褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂(中粒砂含む)の混土层		
20B	081SK	0506R	-0.76	0.57	0.1	10YR3/4暗褐色シルト層, 10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	082SK	0506CD	0.48	-0.23	0.19	10YR3/3暗褐色シルト層, 10YR4/6褐色シルト小ブロック少し混じる	山	
20B	083SP	0506P	0.51	-0.33	0.21	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色ブロック斑に混じる	須	
20B	084SK	0506Q	0.66	-0.5	0.19	10YR4/6褐色細粒砂層に10YR3/3暗褐色シルト大ブロック混じる		
20B	085SK	0506LQ	-0.86	0.29	0.12	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/4褐色シルトブロック混じる		
20B	086SK	0506MR	0.93	-0.6	0.2	10YR2/3暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂の斑状混土层	(土)	
20B	087SP	0506Q	0.42	0.33	0.13	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂, 斑状混土层	陶	
20B	088SD	0506NS	-3.1	0.28	0.07	10YR2/3黒褐色シルト層	土, 須	
20B	089SU	0504AF	-	-	-	断面図記載	土, 陶	
20B	090SU	0504AF	-	-	-	断面図記載	土, 須, 山	
20B	091SU	0504ABFG	-	-	-	断面図記載	土, 須, 山	
20B	092SU	0504BG	-	-	-	断面図記載	須, 山	

表6 遺構一覧表(3)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20B	093SP	0506G	-0.43	0.38	0.11	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層 10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じる	(山)	
20B	094SP	0506G	0.41	-0.39	0.05	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	095SK	0506HI	0.7	0.48	0.08	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR4/4褐色中粒砂小ブロック少し混じる		
20B	096SK	0506BG	0.47	-0.12	0.07	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/4暗褐色シルト質ブロック混じる		
20B	097SP	0506R	0.3	0.28	0.08	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の斑土層	(土)	
20B	098SP	0506MR	0.64	0.32	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂が粒状に小さく混じる	土	
20B	099SK	0506K	-0.57	-0.25	0.15	10YR2/3黒褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂小ブロック下位にかけて少し混じる	土	
20B	100SK	0506MN	0.68	0.61	0.08	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック混じる	土	
20B	101SP	0506MN	0.46	0.37	0.11	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂小ブロック混じる		
20B	102SP	0506MR	0.27	0.23	0.15	10YR3/3暗褐色細粒砂層, 10YR5/6黄褐色細粒砂小ブロック少し混じる		
20B	103SK	0506IN	0.76	0.66	0.1	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じる	土	
20B	104SK	0506CDHI	0.95	-0.72	0.2	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂ブロック少し混じる	土	
20B	105SK	0506M	-0.68	-0.65	0.13	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質細粒砂と10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂の小ブロックが斑状に混じる	(土, 山)	
20B	106SK	0506HI	0.84	-0.64	0.14	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂大ブロック混じる	須	
20B	107SP	0506N	0.5	0.38	0.16	10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂層, 黄砂ブロック混じる		088SD下層
20B	108SK	0506NRS	0.58	-0.43	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層, 黄砂ブロック混じる		
20B	109SK	0506RS	0.98	0.5	0.21	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色, シルト質極細粒砂の斑土層	陶	
20B	110SK	0506H	-0.59	0.43	0.06	10YR4/6褐色細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の斑状混土層	土	
20B	111SK	0506GL	1.2	0.67	0.08	10YR2/3黒褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルトブロック少し混じる		
20B	112SK	0506LQ	0.6	0.4	0.16	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色シルトブロック混じる	土	
20B	113SK	0506GH	0.72	-0.5	0.08	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色シルト質細粒砂ブロック混じる	山	
20B	114SK	0506I	-0.48	0.37	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック少し混じる		
20B	115SX	0504BCDHIJ・0503FGHMNRS	-	-	-		灰, 陶	遺物分布範囲
20B	116SP	0506Q	-0.29	0.27	0.16	10YR4/4褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色細粒砂の斑状混土層, 10YR3/4暗褐色細粒砂ブロックが上部に混ざる		
20B	117SK	0506Q	-0.6	-0.37	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色シルト質極細粒砂のブロック状混土層		
20B	118SD	0506R	-0.74	0.32	0.14	10YR4/6褐色細粒砂と10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂の斑状混土層		
20B	119SD	0506DI	-0.76	0.39	0.06	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質小ブロック少し混じる		
20B	120SP	0506L	0.45	-0.2	0.07	10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	121SK	0505GH	0.56	0.49	0.29	10YR4/4褐色細粒砂層	陶	
20B	121-1SP	0505GH	0.33	0.31	0.22	10YR3/4暗褐色シルト層		121SK下層
20B	122SP	0505M	0.32	0.25	0.13	10YR4/6褐色極細粒砂層		
20B	123SP	0505R	0.34	0.31	0.19	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂の斑状混土層		
20B	124SP	0506M	0.27	0.24	0.07	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂層のブロック状混土層		105SK下層
20B	125SK	0506NS	0.81	0.63	0.14	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の斑状混土層		
20B	126SP	0505HM	0.43	0.37	0.15	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色シルト質極細粒砂の斑状混土層	山	

表7 遺構一覧表(4)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20B	127SP	0505R	0.3	0.27	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂ブロック下位にかけて混じる		
20B	128SP	0505R	0.36	0.34	0.15	10YR4/6褐色極細粒砂質極細粒砂層, 10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	129SD	0506DI	-0.8	-0.31	0.12	10YR暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる	灰, 山	
20B	130SP	0505I	0.36	0.33	0.15	10YR3/3暗褐色極細粒砂層細粒砂混じる, 10YR4/6褐色極細粒砂少し斑に混じる		
20B	131SP	0505J	0.37	0.36	0.09	10YR3/4暗褐色シルト層(集石含む盛土層に似る)		
20B	132SK	0505NOST	-1.6	1.05	0.35	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂小ブロック少し混じる	(土, 山, 陶)	
20B	133SK	0505JNO	2.1	1.23	0.29	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂ブロック少し混じる	陶, 青磁	
20B	134SP	0505N	0.29	0.28	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	135SD	0505HMR	2.4	0.31	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック混じる	(土)	
20B	136SX	0505I	-	-	-		須, 山, 陶	略測上層
20B	136SK	0505I	1.31	0.21	0.16	10YR4/6褐色極細粒砂層(上位に小円礫、下層に大円礫を多量に含む)	須, 山, 陶	
20B	137SK	0505D	0.99	0.45	0.3	10YR4/6褐色極細粒砂層(上位に小円礫、下層に大円礫を多量に含む)中世陶器	須, 山, 陶	
20B	138SD	0505INS	3.02	0.27	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂質シルトブロック混じる	(須, 山)	
20B	139SK	0505H	-0.78	0.56	0.19	10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の斑状混土層	須	
20B	140SD	0505IMNR	4.6	0.21	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂質シルトブロック混じる	土, 須, 山	
20B	141SP	0505I	-0.44	0.36	0.15	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の斑状混土層	(土)	
20B	142SK	0505J	1.03	0.51	0.2	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる	(土, 山, 陶)	
20B	143SK	0505HI	0.41	0.25	0.15	10YR4/6褐色極細粒砂層, 長径1~4cm程度の円礫、土器片を多量に含む	土, 山, 陶	
20B	144SK	0505IJN	0.59	0.44	0.09	10YR4/6褐色極細粒砂層, 10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じる(複数の土坑重複)	(土)	
20B	145SP	0505JNO	0.43	-0.24	0.36	10YR2/3黒褐色粘土質シルト層, 10YR4/6褐色極細粒砂小ブロック混じる		
20B	146SK	0505NO	-0.9	-0.26	0.09	10YR4/6褐色シルト層, 10YR3/4暗褐色シルト質ブロック混じる		
20B	147SD	0505IN	-1.94	0.44	0.26	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂小ブロック	(土, 山, 陶)	
20B	148SD	0504ABFGKLPQ	-7.17	2.8	0.77	10YR3/4暗褐色粘土質シルト層	土, 須, 灰	
20B	149SK	0505T	-0.46	-0.29	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる	土, 山	
20B	150SK	0505OT	-1.26	-0.73	0.13	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂小ブロックが下部に混じる	須, 山, 陶	
20B	151SK	0505CH	1.07	0.6	0.32	10YR4/4褐色極細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック少し混じる, 土器、長径2~15cm程度の円礫多量に含む	須, 山	
20B	152SP	0505N	0.28	-0.11	0.14	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	153SK	0505NS	-0.43	-0.32	0.26	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	154SP	0505T	0.39	0.33	0.71	10YR3/4暗褐色極細粒砂質細粒砂層, 10YR5/6黄褐色シルトブロック(細粒砂混じる)混じる	(土, 山)	150SK下層
20B	155SP	0505T	-0.33	-0.3	0.54	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる		南壁サブトレンチ内
20B	156SK	0505J	0.44	-0.33	0.16	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂層	(陶)	
20B	157SP	0505EJ	0.28	0.27	0.11	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	(土, 山)	
20B	158SK	0505DI	0.48	0.43	0.13	10YR4/4褐色極細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	159SK	0505BC	-1.09	-0.18	0.18	10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の斑状混土層		074SD下層
20B	160SD	0505GLM	2.41	0.28	0.18	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂質極細粒砂のブロック状混土層, 長径20cm程度の円礫含む	須	074SD下層
20B	161SD	0505GLM	-1.2	-0.19	0.23	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる, 長径15cm程度の円礫含む	須	074SD下層
20B	162SK	0504KP	-0.42	0.27	0.56	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	土, 須	148SD下層

表8 遺構一覧表(5)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20B	163SK	05050・0504K	0.71	-0.46	0.17	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質ブロック混じる		
20B	164SP	0504F	0.43	0.28	0.45	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック混じる		148SD下層
20B	165SP	0504AF	0.39	0.34	0.26	10YR4/6褐色シルト質極細粒砂層, 赤茶色の錆混じる		148SD下層
20B	166SP	0504AB	0.39	0.37	0.18	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層, 赤茶色の錆混じる		148SD下層
20B	167SD	0504EJ・0503ABFGH	5.59	1.72	0.13	10YR4/6褐色極細粒砂質シルト層, 赤茶色の錆, 10YR4/1褐色細粒砂質極細粒砂(赤茶色の錆混じる)ブロック混じる	土, 須	188SD同じ
20B	168SD	0503BFGKLP	-5.19	1.84	0.18	10YR4/6褐色極細粒砂層, 赤茶色の錆が混じる, 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロック, 7.5YR2/3極暗褐色細粒砂(赤茶色の錆混じる)ブロック混じる	土	
20B	170SP	0504F	-0.3	0.27	0.26	10YR4/6褐色極細粒砂層		148SD下層
20B	172SD	0504CDHIMNR	-6.72	0.59	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 灰黄褐色、褐色、黒褐色の混じった錆の粘土質ブロック混じる		200SD切り合い不明
20B	175SK	0505D_E	-0.54	-0.45	0.23	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック, 10YR2/3黒褐色極細粒砂小ブロック混じる	土	
20B	176SK	0505D	-0.78	-0.65	0.13	10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂ブロック混じる		
20B	176-1SP	0505D	-0.35	0.31	0.24	10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂ブロック混じる		176SK下層
20B	177SP	0504M_R	0.44	0.37	0.19	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる		
20B	178SP	0504H	0.47	0.44	0.19	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR2/3黒褐色粘土質シルト質ブロック混じる		
20B	179SP	0504G_H	0.3	0.26	0.11	10YR3/3暗褐色粘土質極細粒砂層, 土器片含む		
20B	180SP	0504G_H	0.31	-0.29	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	(須)	
20B	181SK	0504G_H	0.99	0.88	0.12	10YR4/6にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層	土	
20B	182SP	0504H	0.31	0.29	0.25	10YR4/6褐色極細粒砂層, 炭化粒含む		
20B	183SP	0504I	0.3	0.29	0.3	10YR4/6褐色細粒砂層	(土)	
20B	184SK	0505C	0.5	0.35	0.21	10YR3/4暗褐色シルト質細粒砂層, 10YR6/6明黄褐色細粒砂層	(陶)	
20B	185SP	0504KP	0.24	0.21	0.18	10YR3/3暗褐色粘土質シルト層, 赤茶色の錆混じる		148SD
20B	186SP	0504Q	0.29	0.17	0.11	10YR4/4褐色シルト層, 10YR7/4にぶい黄褐色極細粒砂質シルト小ブロック, 7.5YR2/3極暗褐色と10YR7/4にぶい黄褐色の錆の互層が混じる		南壁サブレンチ内
20B	187SK	05050	0.31	0.29	0.56	10YR4/4褐色細粒砂質極細粒砂層(遺物含む)	土, 灰	133SK_150SK下層
20B	188SD	0503HIMNO	3.61	0.94	0.26	10YR4/6褐色極細粒砂質シルト層, 赤茶色の錆, 10YR4/1褐色細粒砂質極細粒砂(赤茶色の錆混じる)ブロック混じる		167SD同じ
20B	189SP	0505T	0.33	0.25	0.12	10YR3/4暗褐色極細粒砂質粘土層		南壁サブレンチ内
20B	190SP	0504F	0.24	-0.16	0.16	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		148SD下層
20B	192SK	0505T・0504P	-0.4	-0.23	0.36	10YR3/3暗褐色粘土質シルト層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロックを含む	山	南壁サブレンチ内
20B	193SD	-	-	-	-	10YR6/4にぶい黄褐色細粒砂質極細粒砂層, 灰黄褐色や褐色の混じった錆の粘土質ブロックが密に混じる	土, 須	148SD下層(断面図のみ)
20B	194SP	0504K	0.31	-0.3	0.58	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト層		148SD下層
20B	195SP	0505JO・0504FK	0.34	0.29	0.22	10YR3/3暗褐色粘土質シルト層, 細粒砂混じる	(須)	
20B	196SP	0504A	0.23	-0.16	0.2	10YR3/3暗褐色粘土質シルト層		
20B	198SP	0504G	0.35	0.33	0.15	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	199SK	0504GL	1.48	0.96	0.27	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂層(錆混じり)ブロック混じる	(土, 灰)	148SD下層
20B	200SD	0504GHLMR	-1.94	0.52	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層		172SD切り合い不明
20B	201SK	0504K	-0.52	0.5	0.18	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 黒褐色・黄褐色土ブロック混じる		148SD下層
20B	202SK	0505L	0.81	0.64	0.08	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色細粒砂ブロックと10YR2/2黒褐色極細粒砂層ブロック混じる		074SD下層
20B	203SK	0504FGL	-1.76	1.03	0.3	沈鉄, 粗砂	土	148SD下層
20B	204SP	05050	0.35	0.33	0.18	10YR3/3暗褐色極細粒砂層	須	
20B	205SP	05050	0.37	-0.24	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色シルト質細粒砂の斑状混土層	山	
20B	206SP	05050・0504K	0.48	0.25	0.43	10YR4/6褐色極細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂質細粒砂ブロックが上位に混じる		
20B	207SP	05050	0.38	0.35	0.14	10YR4/6褐色極細粒砂層		

表9 遺構一覧表(6)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
20B	209SX	0504A・0505BCDEGHIJMNO RST	-6.5	8.4	-	-		堤状の高まり
21Aa	001SK	0510L	0.47	0.43	0.18	10YR3/3にぶい黄褐色シルト混細粒砂に10YR4/4褐色細粒砂がブロック状に混じる、斑土状、しまりなし		
21Aa	003SD	0512M	0.31	0.26	0.33	10YR3/4暗褐色シルト混細粒砂に10YR4/4褐色細粒砂がブロック状(大)に混じる斑土状		
21Aa	005SK	0512R	0.37	0.3	0.11	10YR2/3黒褐色シルト質砂と基盤層細粒砂の斑土、ブロック細かい		
21Aa	008SK	0512V	0.39	0.38	0.22	10YR3/4暗褐色シルト混細粒砂/10YR4/3にぶい黄褐色シルト混細粒砂に基盤層細粒砂がブロック状に混じる、斑土状		
21Aa	009SK	0512R	0.35	0.34	0.37	10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂がブロック状(大)に混じる、炭化物(粒)を含む		
21Aa	010SK	0512XS	0.69	0.65	0.2	断面図記載	(土)	
21Aa	011SK	0512XS	1.22	1.17	0.79	断面図記載		
21Aa	013SK	0512H	-0.62	0.24	0.22	10YR3/2黒褐色細粒砂に10YR5/4にぶい黄褐色砂が混じるブロック(大)/10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4細粒砂の斑土、ブロック(小)		
21Aa	015SK	0512NM	1.08	0.96	0.49	断面図記載	(須)	
21Aa	016SK	0512N	-0.54	0.46	0.4	断面図記載	(山)	
21Aa	017SK	0512N	0.64	0.53	0.16	10YR4/4褐色砂、斑土状		
21Aa	020SD	05120, 0511K, 0512N	-4.46	0.89	0.32	断面図記載		土, 須, 山
21Aa	021SK	0512S	-0.36	-0.28	0.2	10YR3/3暗褐色砂質シルトに基盤層の大ブロックが少量混じる		
21Aa	022SK	0511F	-0.33	-0.27	0.37	10YR4/4褐色細粒砂の斑土、上下層の褐色土、黄褐色砂が混じる		
21Aa	023SK	0511F	0.91	0.8	0.81	断面図記載		須, 山
21Aa	024SK	0511K	0.85	0.52	0.27	10YR3/4暗褐色シルト質砂に黒褐色砂と基盤層砂が混じる、斑土		
21Aa	025SD	0511KF	-2.91	1	0.33	10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂がブロック状に混じる		土, 灰, 山
21Aa	026SD	0511FGH	-5.14	0.97	0.18	10YR3/3暗褐色シルト質砂		土, 灰, 山
21Aa	027SD	0511G	-1.28	0.78	0.11	10YR4/4褐色砂ブロック(大)と10YR3/3暗褐色砂の斑土、しまりなし		
21Aa	028SD	0511QV	-4.12	0.54	0.04	10YR3/3暗褐色シルト含む細粒砂に10YR4/4褐色砂ブロック(小)がわずかに混じる		
21Aa	029SD	0511J, 0510F	-3.74	0.85	0.22	10YR3/3暗褐色シルト質砂		(土, 須, 灰, 山)
21Aa	031SK	0511V	-1.19	-0.99	0.58	南壁断面図に記載		須, 灰, 山
21Aa	032SK	0511Q	0.27	0.23	0.2	10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂に基盤層砂のブロックが混じる、こまかい斑土		
21Aa	033SK	0511RM	3	0.81	0.09	-		(山) 耕作痕
21Aa	034SK	0511G	0.29	0.24	0.23	10YR4/3にぶい黄褐色シルト混じり細粒砂、しまりあり/10YR3/4黒暗褐色シルト質砂の斑土、基盤層砂のブロックが少量混じる		
21Aa	035SK	0511TY	-2.1	0.8	0.13	-		土, 須, 灰, 山 耕作痕
21Aa	036SK	0510U, 0511Y	-3.68	-0.77	0.28	10YR3/3暗褐色シルト質砂、遺物と炭化物含む、しまりあり		(土, 須, 山) 重複多数あり
21Aa	037SK	0510K	0.74	-0.57	0.26	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色砂のブロック混じる		
21Aa	038SK	0510K	-0.6	0.58	0.19	10YR3/3暗褐色砂に10YR5/4にぶい黄褐色砂が混じる		(土)
21Aa	039SK	0510F	0.9	0.45	0.2	10YR4/4褐色砂に10YR3/3暗褐色細粒砂混シルトのブロックが混じる		
21Aa	040SK	0511G	0.37	0.3	0.23	10YR4/4褐色砂、しまりあり		(土)
21Aa	042SK	0511X	-1.19	-0.92	0.33	10YR2/3黒褐色シルト質砂に基盤層細粒砂がわずかに混じる、しまりあり		須
21Aa	043SK	0511W	-0.7	0.25	0.24	南壁断面図に記載		(土, 須, 灰)
21Aa	044SK	0511P	0.35	-0.33	0.23	10YR3/4暗褐色砂質シルト		(土)
21Aa	045SK	0511PQ	0.91	-0.87	0.4	断面図記載		(土)
21Aa	047SK	0511H	0.38	0.36	0.28	10YR3/2黒褐色シルト質砂のブロック状斑土		
21Aa	048SK	0511IN	-0.91	-0.82	0.16	10YR3/4暗褐色砂質シルト、基礎層砂が混じる		(土)
21Aa	050SK	0511F	-0.48	-0.34	0.57	断面図記載		
21Aa	051SK	0511X	0.41	0.4	0.27	10YR3/3暗褐色シルト質砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック(小)が混じる、細粒砂層が入る		須
21Aa	052SK	0512W	0.29	0.28	0.23	10YR4/4褐色砂の斑土、基礎層砂のブロック(大)が混じる		須
21Aa	053SK	0511K	0.48	0.45	0.11	10YR3/3暗褐色シルト質砂の斑土		

表 10 遺構一覧表 (7)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
21Aa	054SK	0511JJ	-0.62	-0.12	0.12	10YR3/3暗褐色シルト質砂に基盤層砂の小ブロックが混じる、炭化物(粒)と土器片含む		
21Aa	056SK	0512T	0.5	0.46	0.37	10YR4/4褐色砂の斑土、暗褐色砂質土のブロック(大)が混じる、植生痕?が縁部に入る		
21Aa	057SK	0510UP	0.54	0.53	0.35	10YR3/4暗褐色シルト質砂/10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂の小ブロックが混じる、斑土、炭化物(粒)が混じる		
21Aa	058SK	0510V	0.34	0.32	0.08	10YR3/3暗褐色シルト質砂の斑土		
21Aa	061SK	0510Q	0.41	0.37	0.38	10YR3/3暗褐色シルト質砂の斑土	(土)	
21Aa	063SK	0510Q	0.38	0.34	0.33	10YR3/4暗褐色シルト質砂の斑土、ブロック	(土)	
21Aa	064SK	0510R	0.32	0.31	0.17	10YR3/3暗褐色シルト質砂 / 10YR3/4暗褐色シルト質砂の斑土		
21Aa	065SK	0510R	1.63	0.93	0.51	10YR2/3黒褐色シルト質砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる	(土, 山)	
21Aa	066SK	0512W	0.27	0.24	0.31	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルトの斑土		
21Aa	067SK	0512N	0.37	0.19	0.34	10YR4/4褐色細粒砂に基盤層細粒砂が混じる	山	
21Aa	068SK	0512T	0.35	0.3	0.25	10YR3/4暗褐色シルト質砂と10YR4/4褐色砂の斑土		
21Aa	069SK	0511P	0.67	0.56	0.32	10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR4/4細粒砂が混じる、斑土	(土)	
21Aa	070SK	0512T	0.45	0.24	0.13	10YR3/3暗褐色シルト質砂と10YR3/4にぶい黄褐色シルト質砂の斑土		
21Aa	072SK	0512V	0.35	0.3	0.18	10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土、基盤層砂がブロック状に混じる		
21Aa	073SK	0510G	0.36	0.33	0.23	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルト、下方に基盤層砂の小ブロックが混じる	(山, 瓦)	
21Aa	075SK	0510L	0.21	0.19	0.12	10YR3/3暗褐色シルト質砂の斑土、基盤層砂が少し混じる		
21Aa	076SK	0510M	0.39	0.37	0.31	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルトに基盤層砂ブロックが少し混じる、しまりなし	(土)	
21Aa	077SK	0510H	0.3	0.24	0.07	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルト斑土、細かいブロック、しまりあり		
21Aa	078SK	0510H	-1.1	0.31	0.08	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルト斑土		
21Aa	079SK	0510U	-1.59	0.63	0.02	10YR3/4暗褐色砂、しまりなし	(土, 山)	
21Aa	080SK	0511Y, 0510U	2.58	0.29	0.12	断面図記載		
21Aa	081SK	0511P	0.65	0.61	0.16	10YR3/3暗褐色細粒砂混シルトに10YR4/4褐色細粒砂が混じる、斑土、ブロック(大)、炭化物(粒)を含む		
21Aa	082SK	0511U	0.3	0.27	0.24	10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR2/2黒褐色シルト質砂が少し混じる、斑土		
21Aa	083SK	05120, 0511K	0.49	0.43	0.35	0YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂	須	
21Aa	084SK	0511UV	0.44	0.24	0.29	10YR3/4暗褐色砂質シルト		
21Aa	085SK	0511P	-0.54	0.53	0.31	10YR2/2黒褐色シルト質砂に10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色砂(基盤砂)がブロック状に混じる		
21Aa	087SK	0510U	0.5	0.17	0.93	10YR4/4褐色細粒砂、基盤層砂ブロックをわずかに含む、しまりなし		
21Aa	088SK	0510U	0.38	0.28	0.19	10YR3/4暗褐色シルト質砂	(土, 山)	
21Aa	093SK	0512S	-0.52	-0.44	0.9	10YR4/6褐色細粒砂に10YR3/4暗褐色シルト質砂が混じる		
21Ab	094SK	0508Q	0.38	0.3	0.19	10YR4/4褐色細粒砂の斑土		
21Ab	095SK	0508Q	0.34	0.2	0.08	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色シルト質砂が混じる斑土		
21Ab	096SK	0508PQ	-0.27	0.24	0.24	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂ブロックが混じる		
21Ab	097SK	0508Q	0.5	0.29	0.09	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色細粒砂のブロック状斑土、下位には10YR2/2黒褐色砂のブロック(小)も混じる		
21Ab	098SK	0509H	-3.29	-0.16	0.05	南壁断面図に記載		
21Ab	099SK	0509MR	-3.83	-0.81	0.05	10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック(大~小)が混じる斑土	(土, 山, 陶)	
21Ab	101SD	0508FKP	-6.56	0.62	0.08	南壁断面図に記載	土, 須, 山, 陶	
21Ab	106SK	0508W	0.65	-	0.25	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂が混じる斑土		
21Ab	107SK	0510M	0.39	0.3	0.47	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック(小)が少量混じる	(土)	
21Ab	118SK	0509G	0.31	0.25	0.47	10YR3/4暗褐色シルト質砂、焼土または土器(粒)を含む少量混じる斑土、炭化物(粒)を含む	(土)	
21Ab	125SK	0509G	0.35	0.29	0.44	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色砂ブロック(小)が少量混じる斑土	(土)	
21Ab	126SK	0509G	0.51	0.38	0.52	10YR3/3暗褐色シルト混じりの砂、土器・炭化物を含む	土, 須	
21Ab	127SK	0509F	0.41	0.36	0.32	10YR3/3暗褐色砂に基盤層砂をわずかに含む	(土, 山)	

表 11 遺構一覧表 (8)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器混入細片)	備考
21Ab	130SD	0509FGH	-8.74	1.06	0.26	断面図記載	土、須、山、陶	
21Ab	131SK	0509F	0.37	0.36	0.31	10YR3/4暗褐色シルト混じり砂/10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる	土	
21Ab	135SK	05100	0.4	0.34	0.25	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色細粒砂の互層/10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂ブロックが混じる、斑土		
21Ab	138SK	0509P	0.34	0.31	0.2	10YR3/4暗褐色細粒砂に10YR4/4褐色砂ブロックが少量混じる、炭化物(粒)を含む		
21Ab	139SK	0509P	0.3	0.29	0.19	10YR3/4暗褐色砂の中央付近と周囲は基盤層砂との斑土		
21Ab	140SK	0509Q	0.27	0.26	0.22	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の細かい斑紋土		
21Ab	144SK	0510H	0.46	0.36	0.31	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる		
21Ab	147SI	0510STXU	-4.1	-3.5	0.16	断面図記載	土	重複多数あり
21Ab	148SK	0510T	0.35	0.29	0.07	10YR3/3暗褐色砂に基盤層砂をわずかに含む		
21Ab	149SK	0510SX	0.29	0.27	0.08	10YR4/4褐色シルト質砂に10YR3/3暗褐色砂の斑土、炭化物と土器を含む	土	
21Ab	152SK	0509H	-0.48	0.4	0.55	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂/10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる	(土)	
21Ab	155SK	0510J	1.5	0.44	0.55	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色シルト質砂の斑土	山	
21Ab	156SK	0510J	1.08	0.72	0.44	10YR3/4暗褐色シルト質砂、上層に山茶碗含む	山	
21Ab	157SK 上層	0510S	-0.5	-0.48	0.12	断面図記載		
21Ab	158SK	0509I	0.39	-0.25	0.29	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂のブロックをわずかに混じる、炭化物(粒)を含む		
21Ab	159SK	0509I	-0.34	0.32	0.36	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂のブロックが混じる山茶碗小皿を含む	山	
21Ab	160SK	0509G	0.58	-0.3	0.25	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂、炭化物(粒)を含む	土、山	
21Ab	161SK	0509G	0.35	-0.31	0.13	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂に10YR4/4褐色細粒砂ブロックがわずかに混じる、斑土、炭化物(粒)を含む		
21Ab	162SK	0509G	0.46	0.43	0.43	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂、炭化物(粒)を含む/10YR3/3暗褐色シルト混じり砂と10YR4/4褐色細粒砂ブロックの斑土	(土、山)	
21Ab	163SK	0509G	-0.5	0.36	0.74	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂、	(土)	
21Ab	164SK	0509GF	0.55	0.48	0.22	10YR3/3暗褐色砂、周囲に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂、境界不明瞭		
21Ab	165SK	0509L	0.47	0.43	0.23	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックの細かい斑土		
21Ab	167SK	0509LM	0.95	-0.66	0.16	10YR3/4暗褐色砂、炭化物(粒)を含む	(土)	
21Ab	170SK	05100	0.29	0.26	0.09	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂ブロック(小)が混じる		
21Ab	171SK	05100	0.28	0.23	0.1	10YR3/3暗褐色砂、周囲境界不明瞭		
21Ab	172SK	0509H	0.4	0.34	0.69	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックの細かい斑土	(土、須、灰)	
21Ab	173SK	0509H	0.28	-0.24	0.27	10YR3/3褐色シルト質砂の割合が上方では大きい、10YR4/4褐色細粒砂が混じる斑土	土	
21Ab	174SK	0509M	0.29	0.28	0.33	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂のブロックが混じる	土	
21Ab	177SK	0510T	0.39	0.35	0.11	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が混じる斑土、炭化物(粒)を含む		
21Ab	181SK	0510X	0.51	0.41	0.15	10YR3/4暗褐色砂、10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック(大)が混じる斑土、炭化物(粒)を含む		
21Ab	184SK	0510S	0.48	-0.39	0.15	10YR3/3暗褐色砂に10YR2/3黒褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の細かいブロックが混じる、炭化物(粒)を含む		
21Ab	185SK	0510N	0.35	0.24	0.36	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが混じる斑土、炭化物を含む		
21Ab	186SK	0509R	-2.14	-0.47	0.16	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる、下位に炭化物(粒)を含む	土、山	
21Ab	187SK	0510T	0.72	-0.64	0.24	断面図に記載	(土)	
21Ab	188SK	0510STYX	1.24	-0.91	0.19	10YR3/2黒褐色シルト質砂に10YR4/3にぶい黄褐色砂のブロックが少量混じる、しまりなし	(土)	
21Ab	189SD	0510X	1.27	0.31	0.07	10YR3/3暗褐色シルト質砂のこまかい斑土、炭化物含む		

表 12 遺物一覧表 (1)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
1	20A	0500D	054SD下層	土師器	台付甕	12.8	-	(3.2)	S字状口縁台付甕D類古段階, 松				
2	20A	0599K	054SD最下層	土師器	広口壺	-	-	(8.0)	古墳時代前期	017 018 026	-76054.453 -76054.746 -76053.675	-25999.244 -25999.641 -25999.153	15.185 15.130 15.267
3	20A	0499U	054SD下層	土師器	台付甕	-	10.2	(4.3)	廻間式				
4	20A	0500E	054SD最下層	土師器	台付甕	-	7.6	(7.9)	廻間式	022 025	-76050.525 -76051.340	-26000.860 -26000.178	15.391 15.492
5	20A	0500E	054SD最下層	土師器	高杯	-	-	(5.3)	松河戸I式	011	-76050.162	-26000.458	15.631
6	20A	0599A	054SD上層	土師器	高杯脚	-	-	(4.1)	松河戸I式				
7	20A	0500E	054SD上層	土師器	丸底壺	-	-	(4.3)	古墳時代前期				
8	20A	0599A・ 0500E	054SD最下層	土師器	壺	11.5	-	(8.2)	廻間式～松河戸式	013 030 031 033	-76051.507 -76051.502 -76051.430 -76051.464	-25999.744 -25999.790 -25999.691 -25999.698	15.558 15.391 15.412 15.377
9	20A	0599K	054SD上層	土師器	直口壺	-	-	(4.6)	松河戸II式				
10	20A	05000	054SD	須恵器	杯身	10.8	-	4.6	猿投窯, H=44	037	-76054.832	-26000.935	15.499
11	20A	0500D	054SD上層	須恵器	蓋	-	-	(2.1)	猿投窯, 8C	007	-76050.143	-26002.810	15.948
12	20A	0500E	054SD	須恵器	蓋	-	-	(1.5)	内側に赤色顔料, 猿投窯, 8C				
13	20A	0400X・ 0400Y	054SD上層	須恵器	蓋	17.0	-	(2.0)	猿投窯, 8C前半				
14	20A	0400X	054SD上層	須恵器	蓋	17.0	-	(1.5)	猿投窯, 8C前半, C-2				
15	20A	0499U・ 0599A	054SD上層	須恵器	蓋	17.3	-	(2.9)	猿投窯, 8C前半, C-2				
16	20A	0599K	054SD上層	須恵器	蓋	15.4	-	(0.9)	猿投窯, 8C前半, C-2				
17	20A	0499U・ 0599A	054SD上層	須恵器	無台杯	15.0	12.6	(3.7)	猿投窯, 8C前半, C-2				
18	20A	0400X	054SD上層	須恵器	有台杯	-	10.0	(2.6)	猿投窯, 8C前半, C-2				
19	20A	0400Y	054SD上層	須恵器	鉢	12.6	-	(2.9)	猿投窯, 8C前半, C-2前後				
20	20A	0400Y・ 0500E	054SD上層・ 下層	須恵器	壺	-	4.0	(4.2)	猿投窯				
21	20A	0500E	054SD	須恵器	甕	-	-	(6.3)	猿投窯, 8C前半				
22	20A	0500E	054SD	須恵器	壺か甕	24.2	-	(1.9)	猿投窯				
23	20A	0400Y	054SD下層	土師器	甕	16.4	-	(3.4)					
24	20A	0500E	054SD上層	土師器	甕	19.6	-	(3.4)	濃尾型甕, 8C				
25	20A	0599A	054SD上層	土師器	甕	16.2	-	(2.0)	濃尾型甕, 8C				
26	20A	0599E	054SD上層	土師器	甕	18.4	-	(3.7)	濃尾型甕, 8C				
27	20A	0599F	054SD・検出	須恵器	甕	-	厚み1.0	(19.5)	美濃須衛窯	005	-76052.327	-25999.452	16.020
28	20A	0499U・ 0599A	054SD上層	須恵器	甕	-	厚み0.8	(9.6)	美濃須衛窯				
29	20A	0500E	054SD最下層	土師器	甕	-	-	(5.9)	(加工円盤)	024	-76051.196	-26000.288	15.480
30	20A	0400X	054SD上層	土師器	甕	-	-	(4.0)	(加工円盤)				
31	20A	0498W	055SP	土師器	高杯	-	-	(2.0)	古墳時代前期, 松河戸I式	012	-76049.666	-25984.215	15.880
32	20A	-	054SD下層	土師器	甕	-	-	(2.2)	濃尾型甕				
33	20A	05960	052SK・ 002SK下層	土師器	甕	-	-	(2.4)	濃尾型甕				
34	20A	0596H, M	039SK	土師器	甕	-	-	(4.2)	濃尾型甕				
35	20A	0597A, F, G	046SK・検出	須恵器	有台杯	15.8	10.2	4.4	猿投窯, 8C前半	002	-76052.107	-25978.790	15.937
36	20A	0597F	046SK	須恵器	有台杯	14.2	11.0	3.1	猿投窯, 8C前半	002	-76052.107	-25978.790	15.937
37	20A	0596H	047SK	山茶碗	碗	-	5.2	(2.2)	尾張型5型式				
38	20A	0596HIN	004SX	須恵器	盤	-	11.0	(2.4)	猿投窯, 8C後半				
39	20A	0597N	検出	須恵器	鉢	28.7	-	(7.5)	猿投窯, 8C前半				
40	20A	0597L	検出	土師器	甕	19.0	-	(2.7)	伊勢型甕, 7C				
41	20A	0500J	攪乱掘削	土師器	甕	-	-	(2.2)	濃尾型甕, 9C				
42	20A	0598L	攪乱掘削	灰釉陶器	椀	15.0	-	(3.7)	百代寺				
43	20A	0597M	検出	灰釉陶器	椀	-	7.0	(1.8)	百代寺				
44	20A	05020	検出	山茶碗	碗	-	7.2	(1.5)	尾張型4型式				
45	20A	0502D	検出	山茶碗	碗	-	7.0	(1.4)	尾張型4型式				
46	20A	0598H	攪乱	山茶碗	小皿	9.8	4.4	(1.7)	尾張型5型式後半				
47	20A	-	006SX上層	施釉陶器	灰釉鉢	30.4	-	(4.3)	江戸, 美濃				
48	20A	-	006SX	施釉陶器	灰釉小碗	7.6	-	(3.7)	18世紀				
49	20A	-	006SX上層	施釉陶器	志野丸皿	-	6.4	(1.2)	17世紀				
50	20B	0504B	148SD	土師器	台付甕	(18.0)	-	(3.0)	S字状口縁台付甕 (A類)				
51	20B	0504KL	148SD	土師器	台付甕	-	-	(1.4)	S字状口縁台付甕 (B類古段階)				
52	20B	0504BG	148SD, 193SD	土師器	台付甕	-	-	(2.2)	S字状口縁台付甕 (B類古段階)				
53	20B	0504K	193SP	土師器	台付甕	(12.9)	-	(3.5)	S字状口縁台付甕 (B類古段階)				
54	20B	0504KLM	148SD	土師器	台付甕	-	-	(1.9)	古墳時代前期				

表 13 遺物一覧表 (2)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
55	20B	0504KL	148SD	土師器	高杯	-	-	(5.2)	古墳時代前期				
56	20B	0504B, F, G, L, M	148SD・NR下層	土師器	高杯	17.6	-	(7.9)	松河戸I式	089	-76054.650	-26047.341	14.818
57	20B	0504P	193SD	土師器	壺	-	5.5	(2.0)	(加工片)古墳時代前期	091	-76056.065	-26048.588	14.809
58	20B	0504G	193SD	土師器	壺	-	3.5	(3.1)	古墳時代前期	094	-76053.640	-26047.169	14.651
59	20B	0504B	193SD	土師器	壺	-	-	(7.5)	(穿孔片)古墳時代前期				
60	20B	0504G	148SD	須恵器	有台杯	(18.2)	-	(3.7)	猿投窯, 8C				
61	20B	0504L	148SD	須恵器	無台杯	-	6.0	(2.3)	美濃須衛窯, 8C前半	087	-76054.651	-26047.714	15.076
62	20B	0504B	148SD・090SU	須恵器	高盤	-	-	(3.1)	美濃須衛窯?, 8C後半	074 090	-76051.046	-26048.337	15.461
63	20B	0504B, G	148SD	須恵器	甕	(29.6)	-	(6.0)	猿投窯, I-41カ				
64	20B	0504K	148SD	須恵器	壺	-	-	(7.5)	猿投窯, I-41カ				
65	20B	0504KL	148SD	土師器	甕	(14.6)	-	(2.4)	9C				
66	20B	0504KL	148SD	土師器	甕	20.6	-	(4.9)	濃尾型甕, 9C				
67	20B	0504GL	203SK	土師器	高杯	-	-	(3.1)	古墳時代前期				
68	20B	0505G	074SD底面	土師器	甕	-	-	(2.2)	S字状口縁台付甕 (B類古段階)				
69	20B	0505L	074SD底面	土師器	高杯	-	10.8	(5.1)					
70	20B	0505G	074SD底面	須恵器	高杯	-	10.4	(3.9)	猿投窯				
71	20B	0505M	074SD底面	施釉陶器	鉄釉播鉢	-	13.2	(3.4)	(加工片)江戸	040	-76054.495	-26055.644	15.735
72	20B	0505C	074SD底面	須恵器	杯	長4.0	短3.2	厚0.4	(加工円盤)				
73	20B	0505G	074SD底面	施釉陶器	鉄釉播鉢	長2.8	短2.4	厚1.4	(加工円盤) 江戸				
74	20B	05060	074SD	施釉陶器	鉄釉鉢	長3.4	短2.4	厚1.2	(加工円盤)				
75	20B	0504CH	集石遺構ベ ルト3	須恵器	有台杯	14.0	-	(3.0)	猿投窯				
76	20B	0504A, B, F, G	集石遺構 内・167SD	須恵器	有台杯	-	11.1	(1.1)	猿投窯, 8C前半	080	-76051.979	-26049.383	15.764
77	20B	0504A	集石遺構内 下層	須恵器	有台杯	-	(10.8)	(3.1)	美濃須衛窯	084	-76051.969	-26048.687	15.510
78	20B	0504B	集石遺構内	灰釉陶器	椀	-	7.2	(1.9)	猿投窯, K-90	071	-76051.204	-26047.788	15.542
79	20B	0504B, G	集石遺構内 上層	灰釉陶器	椀	-	6.4	(3.3)	猿投窯, 0-53	070	-76051.092	-26047.743	15.393
80	20B	0504A, H	集石遺構内 上層	灰釉陶器	深椀	-	6.4	(3.2)	0-53以降	076	-76051.904	-26048.293	15.796
81	20B	0504C	集石遺構内	灰釉陶器	椀	-	8.0	(3.1)		061	-76050.938	-26045.448	15.415
82	20B	0504A, F	集石遺構内 中層	須恵器	長頸瓶	-	-	(7.8)	猿投窯, 8C後半	082	-76051.814	-26048.372	15.572
83	20B	0504A, B, F	090SU集石遺 構	須恵器	平瓶	12.0	-	(12.6)	猿投窯, 8C後半				
84	20B	0504B, G	集石遺構内	須恵器	平瓶	-	-	(3.2)	猿投窯, 8C後半	062 068	-76052.337	-26046.210	15.696
85	20B	0504B	集石遺構内	灰釉陶器	長頸瓶	-	25.4	(8.9)		065	-76050.583	-26046.730	15.417
86	20B	0504B, G	092SU集石遺 構	山茶碗	碗	16.4	8.2	5.4	3型式	079	-76052.457	-26046.838	15.609
87	20B	0504B	集石遺構内 上層	山茶碗	碗	-	7.6	(2.6)	3型式	072	-76051.289	-26047.838	15.548
88	20B	0504B	集石遺構内 中層	山茶碗	碗	-	7.7	(3.8)	3型式	083	-76051.988	-26047.933	15.553
89	20B	0504B	集石遺構内 上層	山茶碗	碗	-	7.6	(2.4)	3型式	067	-76051.641	-26046.936	15.642
90	20B	0504A	集石遺構内	山茶碗	碗	-	6.8	(3.8)	3型式	077	-76051.677	-26048.971	15.793
91	20B	0504CH	集石遺構ベ ルト3	山茶碗	碗	-	5.6	(2.5)	東濃型5型式後半, 窯洞1				
92	20B	0504BG	集石遺構ベ ルト2	山茶碗	碗	13.2	4.4	4.8	東濃型10型式, 大洞東				
93	20B	0503F	115SX(SD)	須恵器	有台杯	-	12.0	(2.0)	猿投窯, 8C後半	053	-76053.554	-26038.501	15.827
94	20B	0503L	115SX(SD)	山茶碗	碗	-	7.2	(3.3)	4型式	045	-76054.289	-26036.784	15.841
95	20B	0503G	115SX(SD)	山茶碗	碗	-	3.8	(2.7)	尾張型5型式前半	048	-76053.761	-26037.292	15.887
96	20B	0503F, 0 504M	115SX(SD)	山茶碗	碗	-	6.9	(3.7)	東濃型5型式前半	051	-76053.934	-26038.260	15.879
97	20B	0503F	115SX(SD)	山茶碗	小碗	-	4.6	(1.6)	4型式	054	-76053.761	-26038.990	15.863
98	20B	0503F	115SX(SD)	山茶碗	小皿	8.4	4.4	2.0	東濃型5型式前半	052	-76053.821	-26038.346	15.876
99	20B	0504G	115SX(SD)	山茶碗	小皿	8.6	5.4	2.1	尾張型5型式				
100	20B	0503FGK L	115SX(SD)	施釉陶器	灰釉折縁皿	(16.0)	-	(2.6)	古瀬戸				
101	20B	0503K	115SX(SD)	須恵器	甕	-	-	(2.5)	(加工円盤)	060	-76054.181	-26038.944	15.786
102	20B	0503FGK L	115SX(SD)	山茶碗	碗	-	-	(1.8)	(加工円盤)				

表 14 遺物一覧表 (3)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
103	20B	0503FGK L	115SX(SD)	山茶碗	片口鉢	-	-	(2.6)	(加工円盤)				
104	20B	0503L	115SX(SD)	山茶碗	碗	-	(5.6)	(1.8)	(加工片) 東濃型5型式後半	044	-76054.424	-26036.701	15.803
105	20B	0504J	115SX(SD)	灰釉陶器	椀	-	7.4	(2.6)	東濃型5型式前半	059	-76053.604	-26040.336	15.807
106	20B	0504P	162SK	須恵器	甕	-	-	(3.1)	猿投窯, I-41か				
107	20B	05050	187SP	灰釉陶器	椀	(13.0)	-	(4.6)	東濃				
108	20B	05050	187SP	灰釉陶器	皿	(12.4)	(5.1)	2.2	東濃, 大原2 (0-53併行)				
109	20B	0504P	192SK	灰釉陶器	椀	-	(7.6)	(2.2)	東濃, 灰釉終末期				
110	20B	0505CH	151SK	須恵器	有台杯	-	(9.8)	(2.7)	猿投窯, 8C前半				
111	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	8.8	(1.5)	4型式				
112	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	7.6	(1.5)	4型式				
113	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	7.3	(1.4)	東濃型5型式				
114	20B	0505CH	151SK	須恵器	瓶類	-	5.2	(2.1)	(加工片)				
115	20B	0505CH	151SK	須恵器	壺	-	-	(7.1)	7C				
116	20B	0505CH	151SK	山茶碗	片口鉢	-	(13.8)	(3.8)	(加工片)				
117	20B	0505CH	151SK	施釉陶器	鉢	-	(15.6)	(2.5)	(加工円盤) 江戸後期				
118	20B	0505I	136SX	須恵器	壺	-	10.0	(5.9)					
119	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	8.0	2.1	(加工円盤) 4型式				
120	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	7.0	2.1	4型式				
121	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	7.0	(2.5)	尾張型5型式				
122	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	(6.0)	1.7	東濃型5型式, 丸石3				
123	20B	0505I	136SX	施釉陶器	鉄釉挿鉢	長3.0	短3.0	厚1.0	(加工円盤)				
124	20B	0505I	136-1SD	山茶碗	山茶碗	-	(6.6)	(2.2)	(加工円盤)				
125	20B	0505D	137SK	須恵器	壺	(16.0)	-	(2.7)	美濃須衛窯				
126	20B	0505D	137SK	須恵器	杯	-	12.0	(2.1)	(加工円盤) 猿投窯				
127	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.0	(2.8)	東濃型5型式				
128	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.0	(2.0)	東濃型5型式				
129	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.4	(2.5)	東濃型5型式				
130	20B	0505D	137SK	施釉陶器	鉄釉皿	-	5.4	(1.3)	江戸				
131	20B	0505D	137SK	瓦	瓦	長4.4	短3.6	厚0.8	(加工片)				
132	20B	0505D	137SK	須恵器	壺	長4.5	短3.5	厚0.9	(加工片) 7C				
133	20B	0505D	137SK	施釉陶器	鉄釉挿鉢	-	-	厚1.0	(加工円盤) 江戸				
134	20B	0505D	137SK	須恵器	甕	-	-	厚1.8	(加工片)				
135	20B	05050	133SK	磁器	青磁碗	-	-	(2.4)	中国, 龍泉窯				
136	20B	0505JN0	133SK	山茶碗	小碗	-	(5.0)	(1.5)	(加工円盤) 4型式				
137	20B	0505HI	143SP	山茶碗	碗	-	-	(1.5)	(加工円盤)				
138	20B	0505HI	143SP	施釉陶器	碗	長2.4	短2.1	厚0.4	(加工円盤) 江戸				
139	20B	05050	205SP	山茶碗	碗	-	-	(1.3)	(加工円盤)				
140	20B	0504K	-	土師器	赤彩壺	10.0	-	(3.8)	廻間II式	042	-76054.075	-26049.227	15.430
141	20B	05050	包含層掘削	土師器	高杯	16.0	-	(3.4)	古墳時代前期				
142	20B	0506(10 mグリッド ド)	包含層	土師器	高杯	-	-	(3.0)	廻間II式				
143	20B	0504P	検出	土師器	器台	-	-	(4.8)	古墳時代前期				
144	20B	0503(10 mグリッド ド)	包含層	土師器	台付甕	14.2	-	(1.5)	S字状口縁台付甕 (B類古)				
145	20B	0504F	包含層	土師器	台付甕	13.4	-	(2.7)	S字状口縁台付甕 (A類)				
146	20B	0503(10 mグリッド ド)	包含層	土師器	台付甕	-	-	(2.4)	S字状口縁台付甕 (C類)				
147	20B	0504MR	包含層	土師器	有段口縁甕	13.4	-	(3.2)	古墳時代前期, 北陸系				
148	20B	0503F	検出	須恵器	壺類	-	-	(1.4)	猿投窯				
148	20B	0504C	包含層	須恵器	高杯	-	-	(1.9)	(加工円盤) 美濃須衛窯				
149	20B	0503P	南壁トレン チ	須恵器	壺か甕	16.0	-	(4.9)	猿投窯, 8C前半				
150	20B	0504AF	トレンチ	須恵器	甕	7.6	-	(1.9)	猿投窯, 7C後半				
152	20B	0504P	検出	須恵器	壺	-	-	(9.1)	猿投窯				
153	20B	0503(10 mグリッド ド)	暗青灰色砂 質土 (NR)	須恵器	長頸瓶	7.0	-	(9.5)	猿投窯, 0-10				
154	20B	0504F	包含層	須恵器	短頸壺	13.0	-	(3.0)	猿投窯, 8C				
155	20B	0504CH	集石遺構ベ ルト3	須恵器	壺	-	15.4	(4.4)	猿投窯, 8C				
156	20B	0404(10 mグリッド ド)	北壁	灰釉陶器	壺	-	17.6	(3.3)	猿投窯				
157	20B	05040	包含層	灰釉陶器	瓦塔	-	-	(1.3)	猿投窯				

表 15 遺物一覧表 (4)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
158	20B	0504 (10 mグリッ ド)	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.6	(2.5)	猿投窯, 0-53				
159	20B	0504KP	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.0	(4.4)	猿投窯, 0-53				
160	20B	0403V	北壁トレン チ	灰釉陶器	椀	-	7.6	(2.2)	猿投窯, H-72				
161	20B	0504 (10 mグリッ ド)	表土掘削	山茶碗	碗	-	7.4	(3.0)	百代寺				
162	20B	0505I	攪乱	灰釉陶器	皿	-	5.4	(2.25)	猿投窯, K-90				
163	20B	0504 (10 mグリッ ド)	南壁断面 No. 74層	灰釉陶器	皿	12.2	6.6	2.6	猿投窯, H-72				
164	20B	0505 (10 mグリッ ド)	南壁トレン チ	灰釉陶器	皿	-	4.8	(2.2)	東濃, 大原2 (0-53併行)				
165	20B	0504L	包含層	土師器	鍋	12.4	-	(4.0)					
166	20B	0504 (10 mグリッ ド)	南壁断面 No. 77層	土師器	鍋	19.0	-	(4.3)	清郷型鍋				
167	20B	0504 (10 mグリッ ド)	南壁トレン チ	土師器	鍋	21.6	-	(4.9)	清郷型鍋				
168	20B	0404 (10 mグリッ ド)	北壁	土師器	鍋	24.2	-	(3.6)	清郷型鍋				
169	20B	0403V	検出	山茶碗	碗	-	6.0	(3.0)	4型式				
170	20B	0504N	包含層	山茶碗	碗	-	5.8	(1.8)	4型式				
171	20B	0505T	検出	山茶碗	碗	-	8.0	(2.2)	4型式				
172	20B	0504O	包含層	山茶碗	碗	-	7.2	(2.0)	4型式				
173	20B	0505M	包含層	山茶碗	碗	-	6.4	(2.2)	尾張型5型式				
174	20B	-	表探	山茶碗	碗	14.2	-	(4.0)	東濃型5型式後半				
175	20B	0504 (10 mグリッ ド)	南壁清掃	山茶碗	碗	-	5.2	(3.2)	東濃型6型式 (白土原1)				
176	20B	0403V	検出	山茶碗	小皿	8.2	4.4	1.7	東濃型5型式				
177	20B	0503 (10 mグリッ ド)	包含層	山茶碗	小皿	8.0	5.8	1.6	東濃型6型式				
178	20B	0504M	包含層	山茶碗	小皿	8.2	5.2	1.5	東濃型7型式				
179	20B	0504N	包含層	山茶碗	小皿	7.6	5.2	1.1	東濃型 (大洞東1)				
180	20B	0505T	検出	山茶碗	碗	-	-	(1.35)	(加工円盤)				
181	20B	0505B	北壁トレン チ	山茶碗	小型碗	-	5.0	(2.4)	(加工片) 東濃型5型式後半				
182	21Ab	0509V	106SK	土師器	広口壺	12.6	8.1	22.2	古墳時代前期	048	-76058.525	-26087.362	16.147
183	21Ab	0509V	106SK	土師器	台付甕	11.9	-	(5.7)	S字状口縁台付甕 (B類古)	048	-76058.525	-26087.362	16.147
184	21Ab	0509H	173SK	土師器	台付甕	14.0	-	(2.3)	S字状口縁台付甕 (A類)				
185	22	調査セン ター立会 路路下 範囲	民地西側通 路路下	土師器	広口壺				古墳時代前期				
186	21Ab	0510T	147SI	土師器	高杯	18.9	-	(3.2)	古墳時代前期	095	-76056.943	-26101.643	16.406
187	21Ab	0510S	147SI	土師器	甕	-	-	(15.2)	濃尾型甕	112	-76057.071	-26102.326	16.434
										113	-76057.029	-26102.352	16.419
										142	-76056.79	-26102.783	16.405
188	21Ab	0510S	157SK	土師器	甕	17.0	-	(6.6)	濃尾型甕	110	-76056.158	-26103.004	16.414
										117	-76056.132	-26102.926	16.314
										118	-76056.23	-26102.89	16.361
189	21Aa	0512N	015SK	須恵器	無台杯	11.8	-	(4.3)	猿投窯, 8C後半	001	-76054.955	-26123.492	16.231
190	21Aa	0511X, Y	042SK・南壁 トレンチ	須恵器	無台杯	10.0	4.2	7.6	線刻, 猿投窯, 8C前半	033	-76058.047	-26112.302	16.31
										042	-76059.208	-26114.539	16.316
191	21Aa	0510U	036SK	須恵器	高杯	-	-	(4.3)	猿投窯	032	-76058.354	-26108.215	16.371
192	21Aa	0510V	036SK	須恵器	無台杯	10.8	8.4	4.4	線刻, 猿投窯, 8C前半, C-2	041	-76059.049	-26107.711	16.335
										044	-76059.068	-26107.723	16.303
										045	-76059.05	-26107.297	16.284
193	21Aa	0511W	043SK	須恵器	高杯	11.2	-	(2.9)	美濃須恵窯, 7C	029	-76058.975	-26114.627	16.251
194	21Aa	0511X	051SK	須恵器	無台杯	11.0	7.6	4.0	猿投窯, 7C後半	038	-76058.629	-26112.54	16.018
195	21Aa	0512W	052SK	須恵器	蓋	(13.8)	-	(1.7)	猿投窯, I-17	022	-76058.84	-26124.067	16.275
196	21Aa	0512O	083SK	須恵器	無台杯	11.0	7.6	3.0	猿投窯, 8C前半, C-2	040	-76055.018	-26120.131	16.192
197	21Aa	0510U	079SK	山茶碗	碗	15.2	-	(4.8)	尾張型5型式				

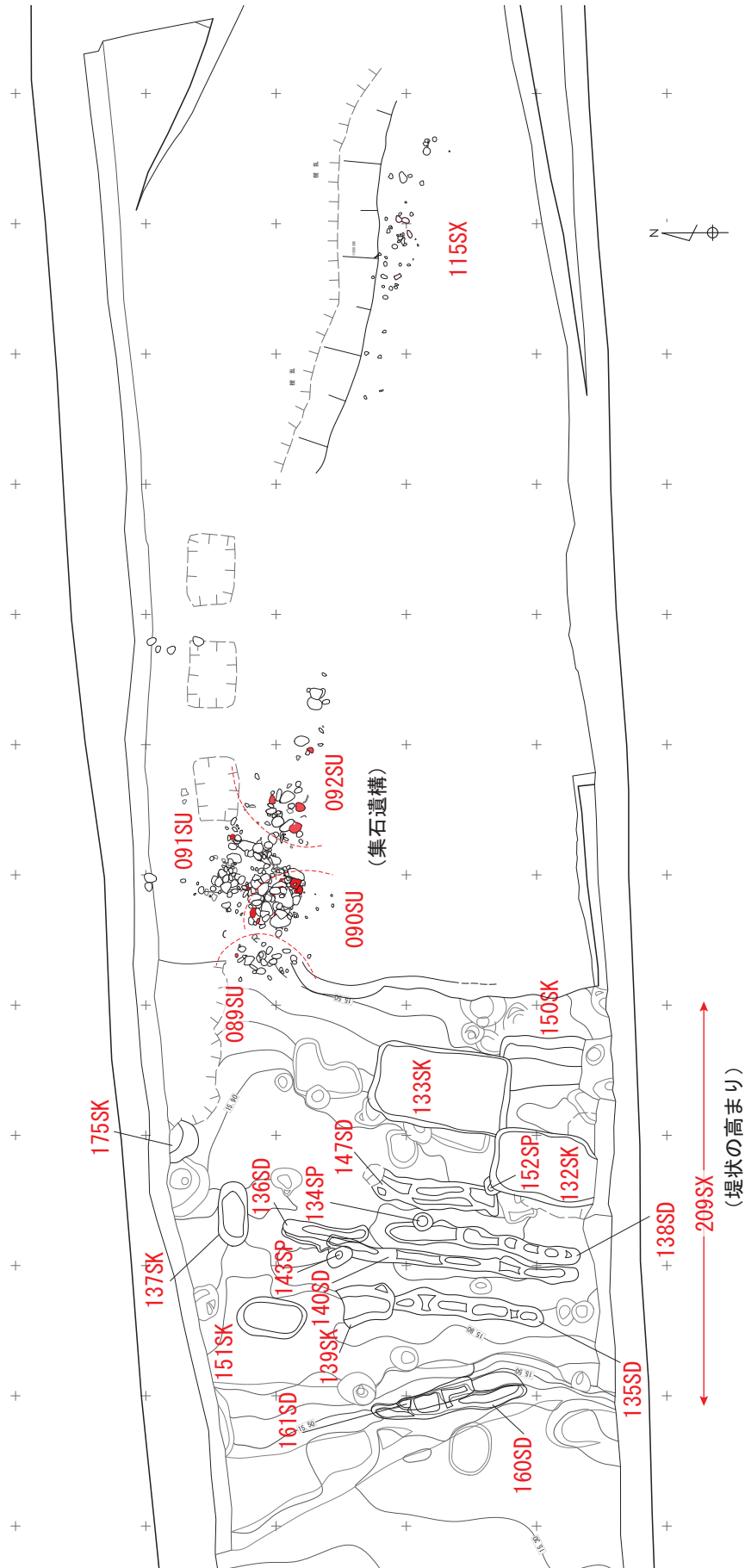
表 16 遺物一覧表 (5)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
198	21Ab	0508P	101SD	山茶碗	碗	14.8	-	3.1	尾張型7型式				
199	21Ab	0508P	101SD	山茶碗	碗	-	7.4	(2.1)	尾張型6型式				
200	21Ab	0508P	101SD	灰釉陶器	椀	-	-	(3.0)					
201	21Ab	0509MR	099SK	施釉陶器	灰釉盤類	-	-	(2.5)	古瀬戸				
202	21Ab	-	159SK	山茶碗	小皿	8.0	4.8	3.0	尾張型5型式	115	-76053.634	-26094.597	16.452
203	21Ab	0509L	167SK	土師器	高坏	11.1	-	(2.9)	古墳時代前期				
204	21Ab	-	167SK	青磁	碗	-	5.3	(3.9)	中国	127	-76055.017	-26095.728	16.514
205	21Aa	0511Y	南壁トレン チ	須恵器	無台杯	12.2	-	(3.7)	猿投窯, 7C				
206	21Aa	-	包含層	土師器	皿	8.4	-	1.7	(非ロクロ)				
207	21Aa	-	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.7	(3.7)	猿投窯, 0-53				
208	21Aa	-	包含層	山茶碗	碗	-	6.0	(4.0)	東濃型5型式				
209	21Aa	-	表採	施釉陶器	鉄釉播鉢	26.8	-	(6.0)	江戸後期				
210	21Ab	0508Q	-	土師器	壺	-	-	厚み0.8	パレススタイル壺, 赤彩	050	-76057.603	-26087.067	16.213
211	21Aa	-	表土掘削	山茶碗	小皿	-	4.2	(1.0)					
212	21Aa	0512N	020SD	山茶碗	碗	13.7	5.5	5.7	東濃型5型式	011	-76055.817	-26122.278	16.34
213	21Aa	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	6.0	(3.8)	東濃型5型式前半	006	-76055.351	-26120.185	16.447
214	21Aa	0511K	020SD	山茶碗	碗	-	6.9	(3.5)	東濃型5型式前半	031	-76055.065	-26119.79	16.337
215	21Aa	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	7.2	(3.5)	尾張型5型式	009	-76055.505	-26121.664	16.323
216	21Aa	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	7.4	(3.6)	尾張型6型式				
217	21Aa	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	6.8	(1.6)	尾張型7型式	039	-76055.828	-26121.011	16.325
218	21Aa	0512O	020SD	土師器	皿	11.6	-	2.5	(非ロクロ)	007	-76055.642	-26120.665	16.45
219	21Aa	0512O	020SD	土師器	鍋	-	-	(3.0)	清郷型鍋	010	-76055.234	-26121.733	16.327
220	21Aa	0512O	020SD	山茶碗	片口鉢	-	15.6	(8.7)	内面に厚く降灰	008	-76055.578	-26121.15	16.409
221	21Aa	0512N	020SD	山茶碗	片口鉢	24.6	11.4	11.7		014	-76055.898	-26123.384	16.182
										015	-76055.841	-26123.183	16.196
										016	-76055.662	-26122.845	16.324
										017	-76055.754	-26122.87	16.334
										018	-76055.814	-26122.958	16.296
										019	-76055.676	-26122.941	16.267
										002	-76054.961	-26116.92	16.465
222	21Aa	0511L	026SD	山茶碗	碗	14.8	6.0	5.4	尾張型5型式後半	004	-76054.681	-26116.577	16.459
223	21Aa	0511L	026SD	山茶碗	碗	14.5	-	(4.6)	尾張型5型式前半	003	-76054.614	-26116.753	16.45
224	21Aa	0511L	026SD	山茶碗	小皿	8.4	5.6	2.4	尾張型5型式後半	005	-76054.118	-26113.703	16.445
225	21Aa	0511N	026SD	山茶碗	小皿	7.7	-	1.8	尾張型5型式後半				
226	21Aa	0510F	029SD	須恵器	蓋	-	-	(1.9)	猿投窯, C-2以前	026	-76053.369	-26109.781	16.434
227	21Aa	0510F	029SD	土師器	鍋把手	-	-	3.3					
228	21Aa	0510F	029SD	山茶碗	碗	16.8	3.7	5.8	東濃型5型式前半				
229	21Aa	0511J	029SD	山茶碗	碗	14.9	7.4	4.6	尾張型5型式前半	013	-76053.962	-26111.771	16.411
230	21Aa	0511J	029SD	山茶碗	小皿	7.6	4.7	1.9	尾張型6型式	025	-76053.47	-26111.291	16.38
231	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	碗	16.6	8.4	5.7	4型式	103	-76055.995	-26096.226	16.427
232	21Ab	0509K	130SD	山茶碗	碗	16.3	-	(4.8)	4型式	079	-76054.788	-26098.411	16.431
233	21Aa	0509K	130SD	山茶碗	碗	14.7	-	(4.2)	4型式	076	-76054.19	-26098.902	16.406
234	21Ab	0509K	130SD・ 165SK	山茶碗	碗	14.8	6.8	5.6	東濃型5型式後半	078	-76054.615	-26098.511	16.311
										126	-76054.564	-26097.775	16.396
235	21Ab	0510J	130SD・ 156SK	山茶碗	碗	14.3	5.6	5.8	東濃型, 明和1	072	-76053.474	-26101.108	16.418
236	21Ab	0509L, M	130SD	山茶碗	碗	-	6.0	(4.2)	高台内墨書, 東濃型5型式後半	104	-76055.444	-26096.558	16.523
237	21Aa	0509L	130SD	山茶碗	碗	-	7.4	(1.6)	尾張型6型式	051	-76055.389	-26097.273	16.591
238	21Aa	0510J	130SD	山茶碗	碗	-	7.7	(1.9)	東濃型6型式	054	-76052.788	-26101.535	16.551
239	21Aa	0510J	130SD	山茶碗	碗	-	5.4	(3.0)	東濃型6型式	053	-76053.602	-26101.484	16.548
240	21Ab	0509F	130SD	山茶碗	碗	12.0	-	(5.3)	東濃型6型式	067	-76053.842	-26099.56	16.563
241	21Ab	0509F	130SD	山茶碗	小皿	8.0	4.9	2.4	尾張型5型式	065	-76053.903	-26099.283	16.568
242	21Ab	0509K, L	130SD	山茶碗	小皿	8.4	5.5	1.9	尾張型6型式	081	-76054.432	-26098.145	16.442
243	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	小皿	7.7	4.8	1.5	尾張型6型式	060	-76055.06	-26097.973	16.567
244	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	小皿	8.0	5.1	1.5	尾張型6型式	055	-76055.776	-26096.183	16.54
245	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	小皿	8.4	-	2.0	尾張型7型式				
246	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	小皿	9.0	5.1	2.1	東濃型5型式後半	059	-76054.813	-26097.787	16.462
247	21Ab	0509K	130SD	山茶碗	小皿	9.2	4.9	2.6	東濃型6型式	077	-76054.45	-26098.841	16.391
248	21Ab	0509L	130SD	土師器	鍋	26.0	-	(3.7)	炭化物付着, 伊勢型鍋	058	-76055.323	-26097.624	16.415
249	21Ab	0509M	130SD	青磁	碗	-	4.9	(2.5)	中国, 龍泉窯				
250	21Ab	0509M	130SD	須恵器	臙	-	-	2.15	猿投窯, I-41~C-2				
251	21Ab	0509L	130SD	山茶碗	碗	長さ2.2	幅2.2	厚み0.7	(加工円盤)				
252	21Ab	0510X	1474SI	土師器	甕	-	-	-	付着炭化物分析試料	083	-76058.203	-26102.549	16.452

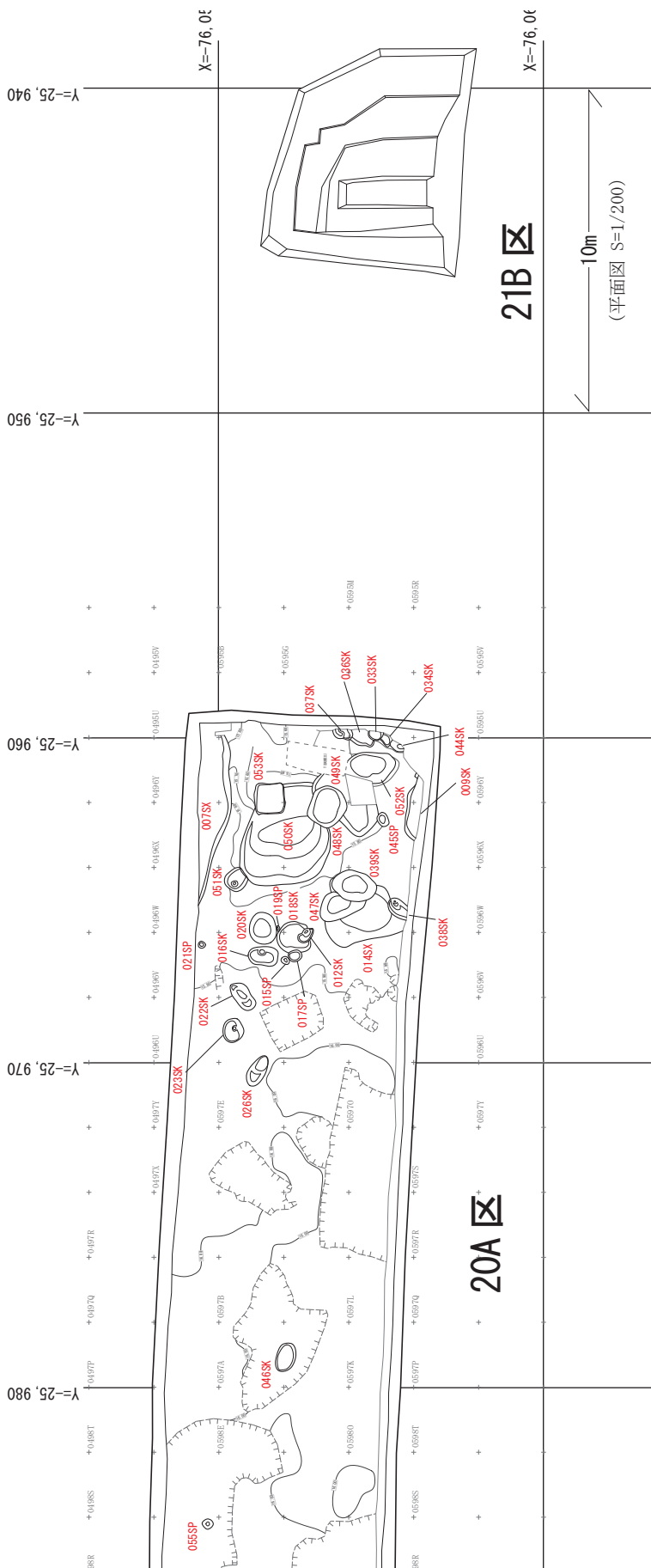
表 17 遺物一覧表 (6)

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)	
M-1	20B	0504J	115SX(SD)	鍛冶関連遺物	椀型滓	長径9.2	短径7.0	厚み3.4		043	-76059.119	-26109.513	16.443	
M-2	21Ab	(水道管西)	表土掘削	鍛冶関連遺物	椀型滓	長径7.2	短径5.9	厚み3.3						
M-3	20A	0599F	054SD下層	金属製品										
M-4	20A	0400Y	054SD上層	金属製品										
M-5	20A		007SX	金属製品	銭貨									
番号	区	グリッド	遺構		石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
S-1	20B	0506L	069SK	石器	安山岩	18.0	6.8	5.5	995.0	赤色付着物				
S-2	20B	0503FGK L	115SX(SD)	石器	下呂石	5.8	7.0	4.5	391.0					
S-3	20B	0505I	136-1SD	石器	濃飛流紋岩	8.2	7.0	4.5	413.2	被熱痕跡				
S-4	20B	0505I	136-1SD	石器	濃飛流紋岩	12.4	11.3	9.5	1848.9	被熱痕跡				
S-5	20B	0504ABF G	091SU	石器	チャート	9.8	7.6	7.5	835.2					
S-6	20B	0504CH	集石遺構トレンチ東	石器	ホルンフェルス	13.4	6.3	2.6	316.2					
S-7	20B	0505D	137SK	石器	安山岩	12.2	10.6	5.5	1137.2					
S-8	20B	0505D	137SK	石器	濃飛流紋岩	10.3	7.8	4.3	445.2					
S-9	20B	0505D	137SK	石器	濃飛流紋岩	8.5	6.1	4.8	348.2					
S-10	21Ab	0509K	130SD	砥石	砂質凝灰岩	5.2	6.2	4.8	137.9		074			

基本平面図 1 (20B区上面遺構)



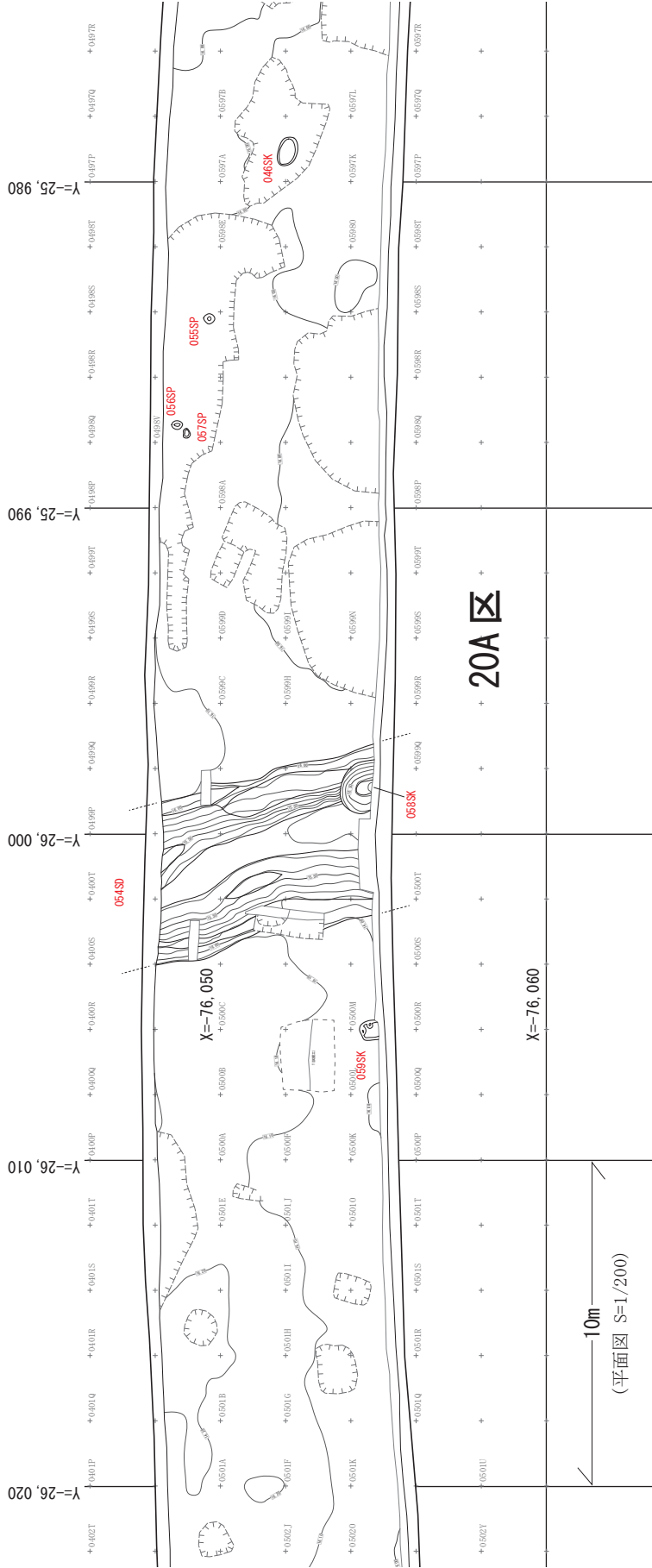
基本平面図 1 2



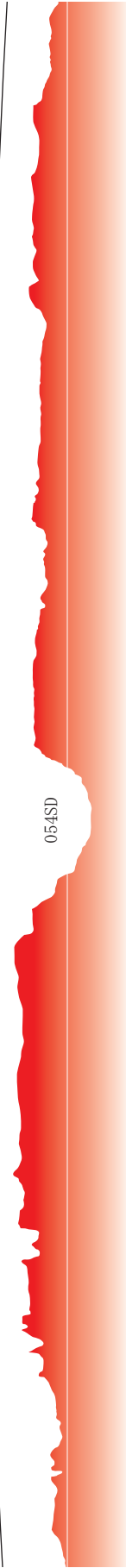
削平された自然堤防の範囲



基本平面図 1-3



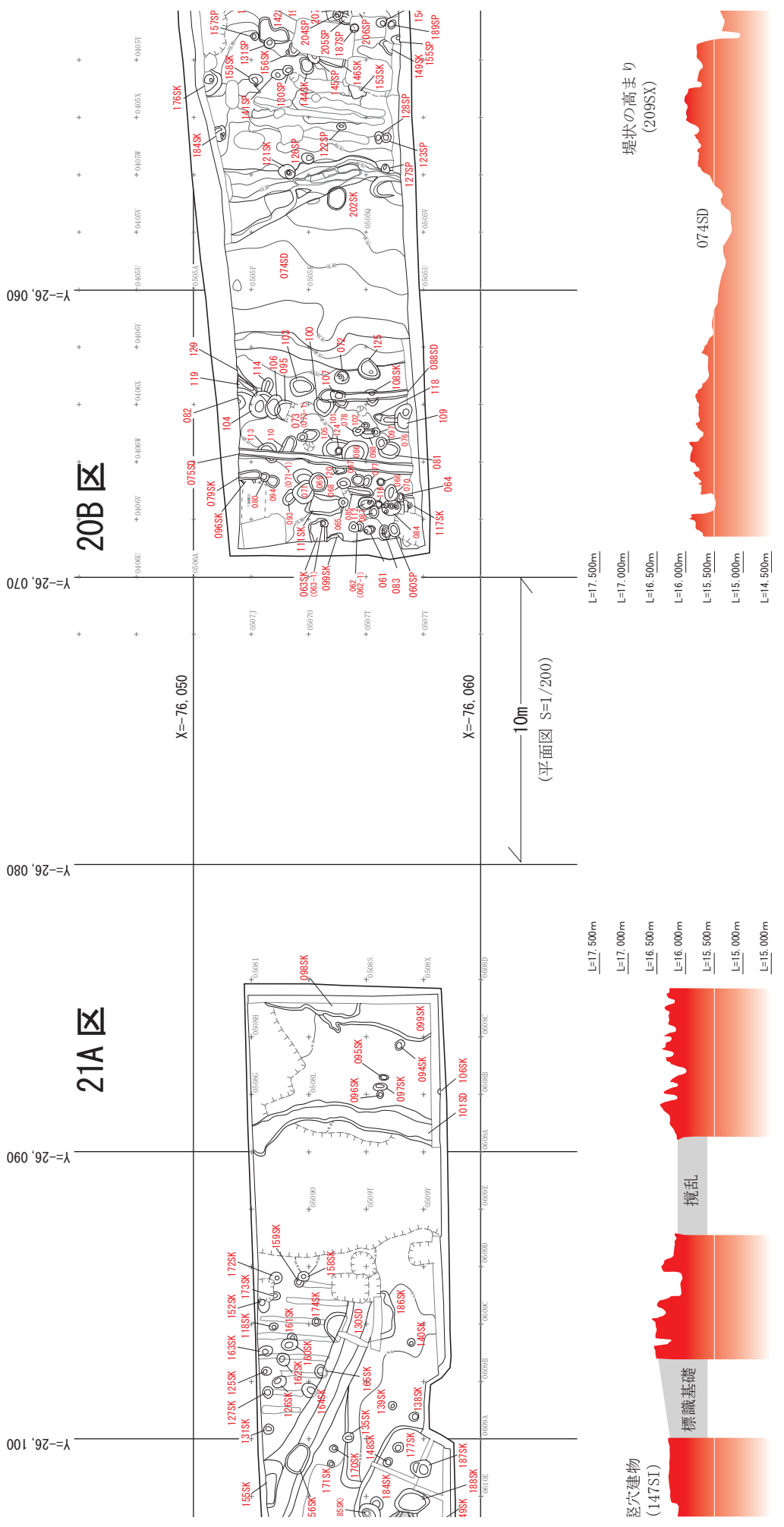
削平された自然堤防の範囲



基本平面図 - 4



基本平面図 1-5



20B区

21A区

堤状の高まり
(209SX)

竪穴建物
(147SI)

標識基礎

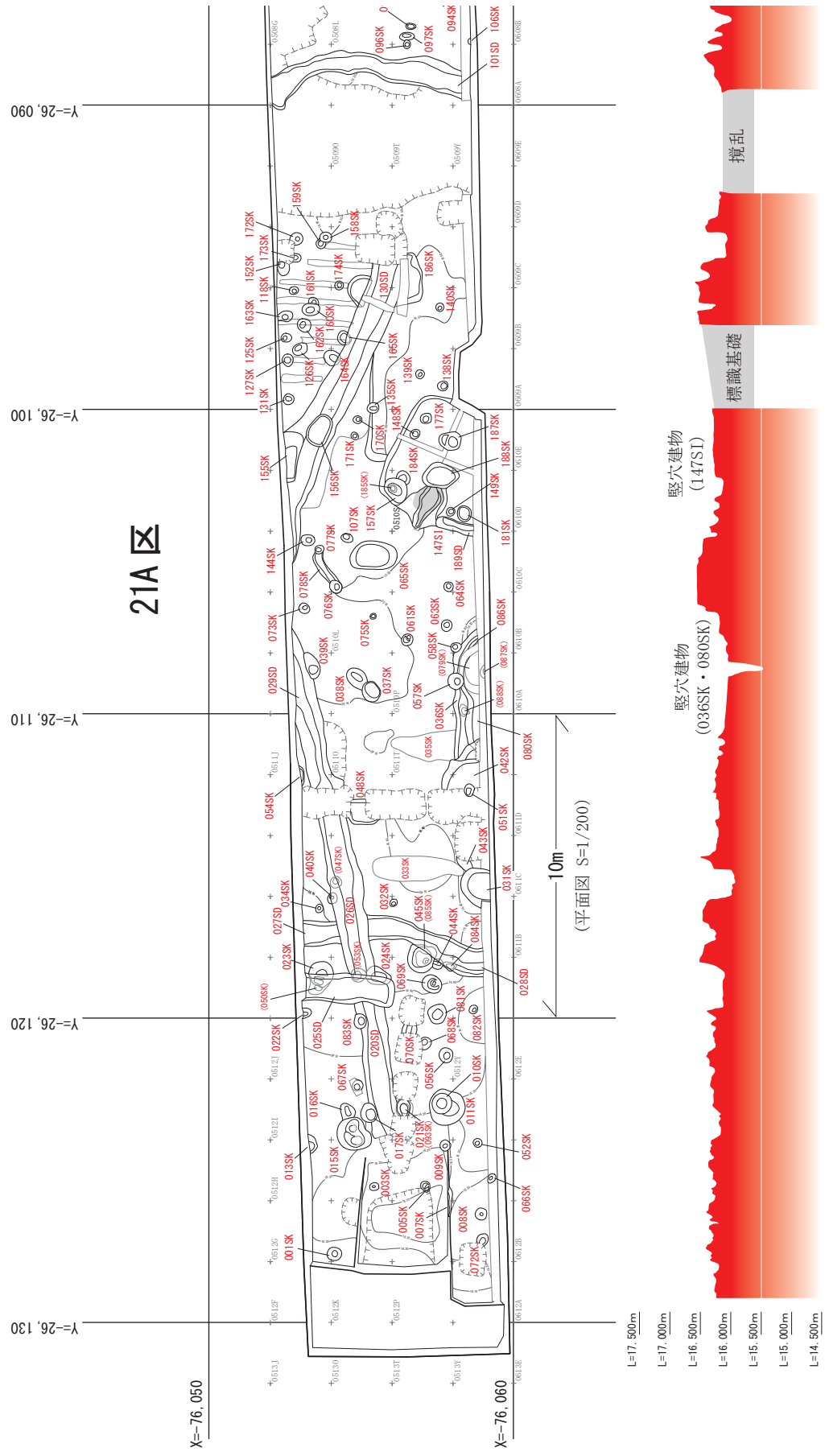
攪乱

10m
(平面図 S=1/200)

L=17,500m
 L=17,000m
 L=16,500m
 L=16,000m
 L=15,500m
 L=15,000m
 L=14,500m

L=17,500m
 L=17,000m
 L=16,500m
 L=16,000m
 L=15,500m
 L=15,000m
 L=14,500m

基本平面図 1-6





遺跡遠景空撮写真

- 1- 北西から小牧山方面を望む /2- 北東から小折集落を望む /3- 東から一宮市方面を望む
- 4- 南東から布袋駅方面を望む /5- 南西から柳街道・犬山方面を望む



20A 区全景 (西から撮影 調査区よりさらに前方に五条川、その対岸が白木遺跡)



20B 区全景 (西から撮影 写真奥が 20A 区)



20A 区

1-20A 区 054SD 完掘状況 (北西から) / 2-20A 区 054SD (南東から 写真奥の木々が富士塚古墳) / 3-20A 区 055SP 遺物出土状況 (E-31) / 4-20A 区 046SK 遺物出土状況 (E-35,36) / 5-20A 区 東端付近完掘状況



20B 区集石遺構

6-090 ~ 091SU (西から) / 7-093SU 検出状況とトレンチ (北から) / 8-090SU とベルト断面 (北西から)





20B 区

1- 完掘状況全景 (北西から) / 2- 西端部南壁断面 (北から) / 3- 西端部土坑群検出状況 (北西から) / 4- 土手状高まり付近 (北から) / 5- 土手状高まり付近検出状況 (北から)



20B区

1- 完掘状況全景(東から) /2-194SP(南東から) /3-187SP(西から) /4-158SK(南西から) /5-136SDSP(北から) /6-148SD付近(北から) /7- 南壁旧流路部分(北から) /8- 全景(きたから)





21Aa 区全景 空撮写真（西から撮影 写真奥盛土範囲が 21Ab 区, その先が五条川）



21Ab 区全景 空撮写真（東から撮影 写真奥盛土範囲が 21Aa 区）



21Ab 区竪穴建物 (147SI)

1- 完掘状況 /2- カマド跡断面 /3- 検出状況
/4- 床面遺物出土状況 /5- 柱穴完掘状況 /6-
ベルトと 187SK 断面



21A 区全景 空撮写真合成 (写真上が北)



21A区

1-21Aa区検出状況(西から) / 2-21Ab区古墳時代土師器壺(E-182)検出状況 / 3-同遺構下部、遺物出土状況 / 4-21Aa区015SK断面(南から) / 5-21Aa区023SK断面(西から) / 6-21Aa区050SK断面(東から) / 7-21Aa区010SK・011SK断面(東から) / 8-21Aa区045SK・085SK断面(南東から) / 9-21Ab区152SK(中世)断面(南東から) / 10-21Aa区020SD遺物出土状況(西から) / 11-21Aa区020SD断面



2



3



4



5



6



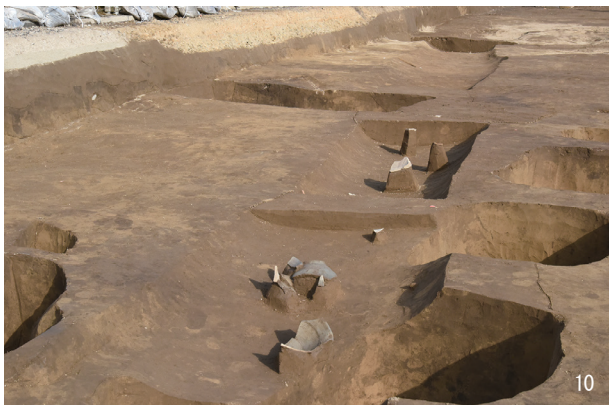
7



8



9



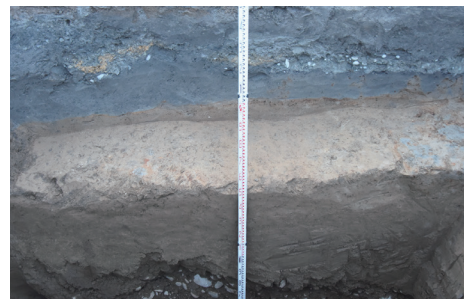
10



11



1-21Aa 区 036SK・080SK 断面（南壁） / 2- 同南北ベルト断面
/ 3-036SK 出土須恵器（E-192） /
4-21Ab 区 130SD 遺物出土状況（南東から） / 5-21Ab 区北東部
ピット集中範囲 / 6-21Ab 区 158SK・159SK 断面（南から）



21B 区断面（西壁）
砂礫層の上に黄褐色砂質土層が堆積
調査区としては最も五条川に近い



182



10



35



185



36



8



27



加工円盤ほか加工陶片類



157



20B 区上層 集石遺構 (089 ~ 092SU) 範囲の出土遺物





21B区 溝(020SD) 出土遺物

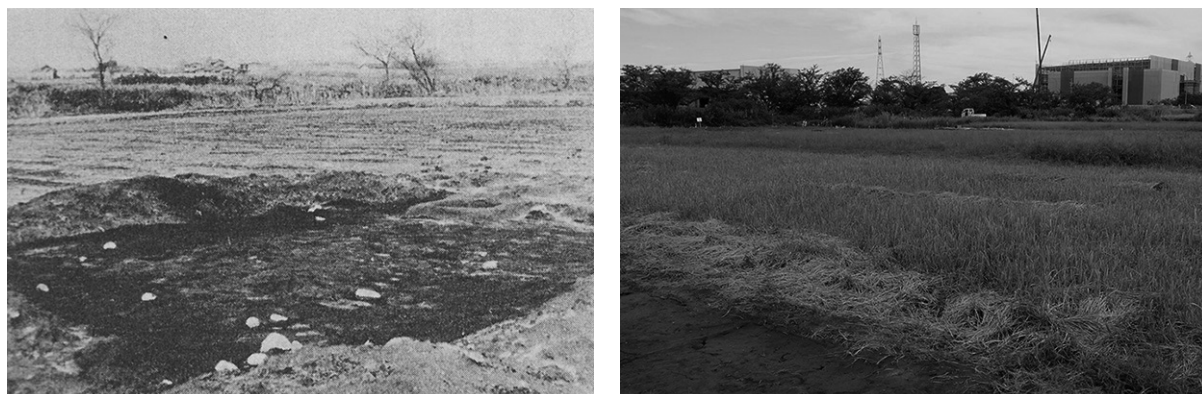
第3章 白木遺跡

1 既往の調査

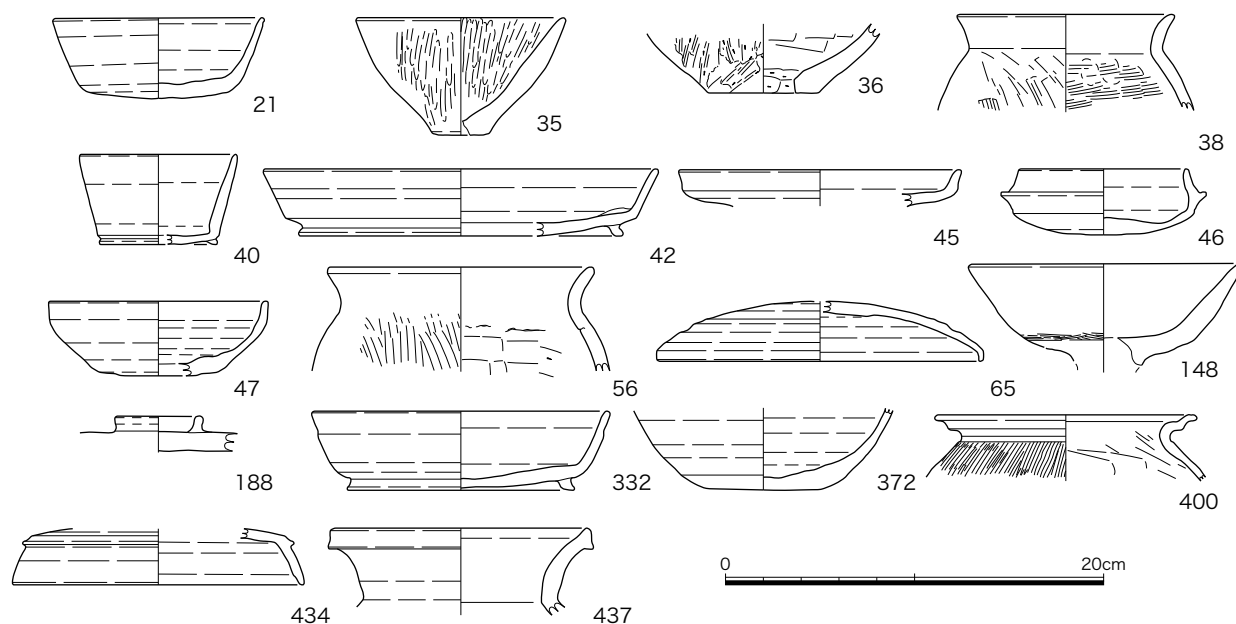
圃場整備 白木遺跡は昭和47年2月、圃場整備に伴う緊急発掘調査が実施され、古墳時代から奈良時代の竪穴建物2棟、溝等が検出された。特筆される遺物として、「人」を刻書した須恵器がある。ただ、調査の写真や図面等の記録類はほとんど残されていないので、詳細は不明である。

現在、白木遺跡から出土した遺物として、弥生時代中期後葉の弥生土器、古墳時代前期初頭の土師器、古墳時代後期から奈良時代の土師器と須恵器、平安時代の灰釉陶器、中世から戦国時代の陶器等が報告されているが、他遺跡の出土遺物も混在しているとのことである（同時に収蔵されている遺物を第37図、表18に示す）。

一般国道 令和2年度には同事業に伴い、愛知県一宮建設事務所道路整備課より委託を受けた株式会社パスコが令和2年7月から令和3年2月に1,024㎡の発掘調査を実施した。発掘調査においては、竪穴建物、大型の柱穴列等、飛鳥時代から奈良時代を中心とする遺構・遺物、古墳時代前期初頭の遺物が確認されている。



白木遺跡昭和47年調査の状況（左）と現況（右）



第37図 白木遺跡?出土遺物（大口町歴史民俗資料館所蔵）

表 18 白木遺跡?出土遺物(大口町歴史民俗資料館所蔵) 一覧表

番号	出土地	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	注記等
21	白木遺跡?	須恵器	無台杯	11.0	7.4	4.3		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
35	白木遺跡?	土師器	小型鉢	(10.8)	(3.0)	5.3		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
36	白木遺跡?	土師器	底部穿孔壺	-	(5.8)	(3.7)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
38	白木遺跡?	土師器	甕	(11.4)	-	(5.1)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
40	白木遺跡?	須恵器	有台杯	(8.2)	(6.2)	4.8		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
42	白木遺跡?	須恵器	有台杯	(40.8)	(17.2)	3.5		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
45	白木遺跡?	須恵器	盤	(14.8)	-	(1.9)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
46	白木遺跡?	須恵器	蓋杯 杯	(8.8)	4.3	3.5		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
47	白木遺跡?	須恵器	碗	11.6	4.0	(3.8)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
56	白木遺跡?	土師器	甕	(14.0)	-	(5.5)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
65	白木遺跡?	須恵器	蓋	(16.4)	-	(2.7)		74, S1113 S46、S516 「S」の注記と調査年月から白木遺跡出土品と推定 複数の遺跡の出土品が混在か
148	白木遺跡?	土師器	高杯	14.4	-	(5.4)		複数の遺跡の出土品が混在か
188	白木遺跡?	須恵器	蓋?	-	-	(1.9)	環状摘み 「SK」か(実習時に注記)	
332	白木遺跡?	須恵器	有台杯	(15.4)	(12.0)	4.2		S+通し番号
372	白木遺跡?	須恵器	鉢	-	(6.2)	(4.3)		S+通し番号
400	白木遺跡?	土師器	S字甕	(13.8)	-	(3.5)	C類	S+通し番号 同一個体(3片)
434	白木遺跡?	須恵器	蓋杯 杯	(15.4)	-	(3.0)		伝白木遺跡 豊田1-17 村田氏畑 豊田1-17
437	白木遺跡?	須恵器	甕	(13.2)	-	(4.6)		伝白木遺跡 豊田1-17 村田氏畑 豊田1-17

2 調査の概要

遺跡の西端 調査区は現五条川に向かって傾斜する地形に相当し、今回の発掘調査で遺跡の西端を確認した。調査区西半は褐色を基調とする包含層状の堆積が確認された。層中の土器は下層が古墳時代前期、上層が古墳時代後期から平安時代の土器を主体とする。

包含層・遺構 調査区東端は褐色を基調とする古墳時代前期の包含層が良好に残存する。包含層の上面においては、竈を敷設する奈良時代の竪穴建物等、古代の遺構が検出されている。出土遺物には土師器、須恵器、土錘、鉄製品等がある。

3 調査の経過

(1) 発掘調査

試掘調査 今回の発掘調査は道路改良工事(一般国道155号)に伴う事前調査である。事業予定範囲は周知の包蔵地には含まれていなかったが、令和元年6月に愛知県埋蔵文化財調査センターが事業予定範囲を対象とした試掘調査を実施した結果(調査担当者:小坂延仁)、古墳時代前期の遺構・遺物が確認され、国道155号沿いに遺跡が広がることが明らかとなった。

本発掘調査 試掘調査の結果を受け、その同年度には本発掘調査を実施した。発掘調査は令和2年1月に事業者による客土と表土の除去後の2月に着手し、人力による包含層の掘削、遺構検出、遺構掘削を随時進捗させた。遺構掘削の進捗に応じて、平面図、土層断面図等の作成、遺構の写真撮影、調査区の全景撮影、ドローンを使用しての遺跡の遠景撮影を実施した。各種の記録完了後の3月には調査区を埋め戻し、発掘調査が完了した。

(2) 整理作業と報告書作成

整理作業 出土遺物の洗浄は発掘調査と併行して実施し、乾燥後、愛知県埋蔵文化財調査センターに仮収納した。その後の遺物整理と報告書作成は愛知県埋蔵文化財センターで令和4年8月から10

報告書作成 月にかけて実施した。土器の接合・復元後、実測図作成と写真撮影を実施し、それと併行して

登録・収納 報告書の原稿執筆、図版作成を進めた。出土遺物は登録後、愛知県埋蔵文化財調査センターに収納し、令和6年3月に南山町遺跡と併せて報告書を印刷・刊行した。

4 基本層序

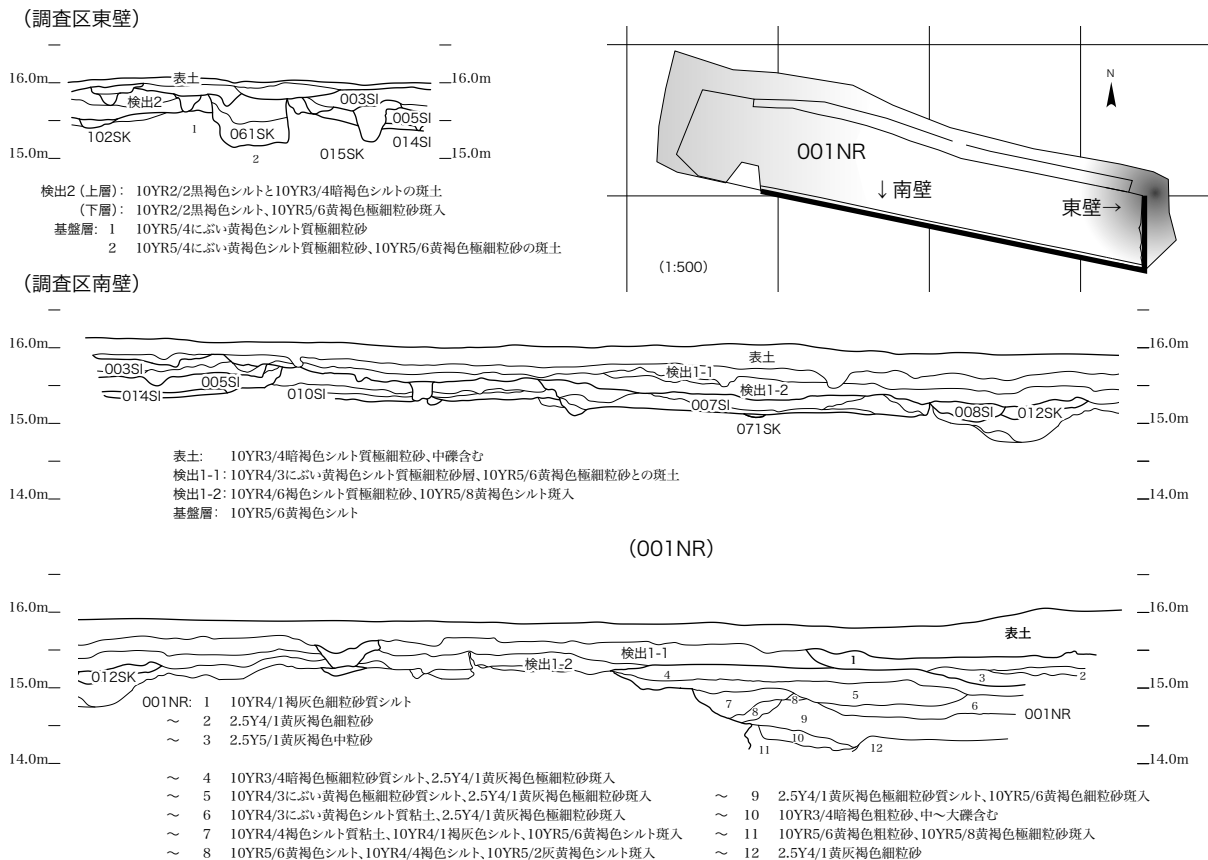
微地形 調査区は現五条川に面した自然堤防（遺跡）の西端に相当し、遺跡を形成する基盤も北東方向から南西方向に向かって傾斜する。その関係で表土直下は調査区の西端が細粒砂から中粒砂層、中央付近が黄褐色から褐色を基調とするシルト・極細粒砂層、東端が黒褐色を基調とするシルト層が堆積する。これらの堆積層は中世から近世、弥生・古墳時代から古代、弥生時代後期から古墳時代前期を主体とする遺物をそれぞれ包含する。遺物は細片化したものが多い。黒褐色シルト層は調査区北東付近から南西に向かって大きく落ち込むことが確認された。その下位は黄褐色を基調とする極細粒砂、さらにその下位は粗粒砂が堆積し、場所によっては礫層の上面が露出する（第38図）。

遺物の包含 発掘調査においては、西端の砂層は表土と同時に重機によって除去し、中央付近の褐色シルト層を人力によって掘削した。古代以前の遺物を包含する同層はやや厚く（層厚40cm前後）、出土遺物については、便宜的に上位（検出1-1）と下位（検出1-2）に分けて取り上げた。掘削後、古代の遺構検出面である黄褐色シルト層を露出させ、すでに黄褐色シルト層下位の黒褐色シルト層が露出していた東端と合わせて古代の遺構面として調査した。

包含層 古代の遺構の調査完了後、黒褐色シルトを掘削したが（検出2）、下位の黄褐色シルト層上面と大きく落ち込む状況が確認されるのみで、その下位に確実な遺構、遺物は認められなかった。

下層 古代の遺構の調査完了後、黒褐色シルトを掘削したが（検出2）、下位の黄褐色シルト層上面と大きく落ち込む状況が確認されるのみで、その下位に確実な遺構、遺物は認められなかった。

河川の東岸 古代の遺構検出面とした黄褐色シルト層は調査区西半から現五条川に向かって大きく落ち込み、河川堆積物で埋積される（001NR）。堆積層中には古代の遺物が散在する。



第38図 基本土層断面図

5 検出遺構

検出遺構 今回の発掘調査において、主に古代の竪穴建物群と掘立柱建物群を検出した。竪穴建物群は北西から南東方向の自然堤防の縁辺、掘立柱建物群は竪穴建物群と河川 001NR の中間に同様の方位を志向して分布する。竪穴建物は不確定な遺構を含めて7棟を検出した。掘立柱建物は3棟を復元した。調査区の制約から全形、規模は不明で、復元にもやや難がある。方位はいずれも N-15° -W である。その他、中世の方形土坑等の遺構がある(第 39 図、表 19)。

表 19 検出遺構一覧表

遺構名	検出面	グリッド	長軸	短軸	深さ	埋土	備考
001	NR	1	0879 0978	-13.62	-7.41	-	図
002	SX	1	0876 0976	2.60	1.52	0.20	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂
003	SI	1	0976	-1.31	-1.00	0.17	図
004	SB	1	0878 0977	-1.10	-0.93	-	017/024/025/027/029/030/032/033/053SK
005	SI	1	0976	-2.45	-1.48	0.40	図
006	SB	1	0878 0977	-3.20	-2.95	-	図
007	SI	1	0877 0977	-5.09	-1.05	0.19	018/019/020/021/023SK
008	SI	1	0877 0977	7.93	-4.76	0.24	図
009	SI	1	0877 0878	-1.93	-1.45	0.22	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルト質極細粒砂珪入
010	SI	1	0976	-2.72	-2.32	0.28	図
011	SK	1	0877 0977	-1.89	-1.29	0.19	008SI主柱穴
012	SK	1	0977	-1.25	1.23	0.46	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト
013	SB	1	0878 0977	-3.50	-2.75	-	022/026/028/034SK
014	SI	1	0976	-1.84	-1.13	0.09	10YR4/6褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色細粒砂の珪土、焼土含む
015	SK	1	0976	0.33	-0.18	0.47	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入、焼土・炭化物含む
016	SK	1	0878	0.62	0.48	0.49	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト珪入
017	SK	1	0878	0.85	0.46	0.25	図
018	SK	1	0878	0.57	0.51	0.38	図
019	SK	1	0878 0978	0.54	0.52	0.29	図
020	SK	1	0977 0978	0.44	0.44	0.16	図
021	SK	1	0878	1.14	0.73	0.31	図
022	SK	1	0878 0978	0.66	0.48	0.13	図
023	SK	1	0978	0.48	0.42	0.19	図
024	SK	1	0878	0.39	-0.33	0.41	図
025	SK	1	0878	0.69	-0.48	0.17	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
026	SK	1	0878	0.30	0.26	0.18	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
027	SK	1	0877 0878	0.57	0.51	0.33	図
028	SK	1	0877 0878	-0.88	0.69	0.28	図
029	SK	1	0878	0.53	0.52	0.58	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土、焼土含む
030	SK	1	0877	0.87	-0.73	0.18	図
031	SK	1	0877	1.00	0.59	0.27	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色極細粒砂質シルトの珪土
032	SK	1	0978	0.66	0.44	0.16	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
033	SK	1	0977	0.50	0.44	0.16	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
034	SK	1	0977	0.40	0.40	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト珪入
035	SK	1	0877	0.28	0.27	0.11	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
036	SK	1	0878 0978	0.38	0.37	0.17	10YR5/4にぶい黄褐色シルト、10YR4/6褐色極細粒砂珪入
037	SK	1	0878	1.19	1.16	0.13	図
038	SK	1	0977	0.65	0.42	0.19	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
039	SK	1	0877	0.60	0.46	0.10	図
040	SK	1	0878	0.54	0.40	0.17	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
041	SK	1	0877	0.60	0.46	0.08	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
042	SK	1	0977	0.55	0.43	0.31	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルトの珪土、焼土含む
043	SK	1	0877 0977	0.45	0.42	0.30	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂の珪土
044	SK	1	977	0.43	0.33	0.30	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
045	SK	1	0878	-0.28	0.26	0.30	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂の珪土
046	SK	1	0877	0.58	0.5	0.15	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
047	SK	1	0877 0977	0.53	0.29	0.19	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
048	SK	1	0877	0.36	0.31	0.12	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト珪入
049	SK	1	0877	0.56	0.54	0.20	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルト珪入
050	SK	1	0977	0.67	0.52	0.34	10YR4/6褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト珪入
051	SK	1	0877	0.64	0.53	0.29	図
052	SK	1	0877	0.55	0.53	0.38	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂珪入
053	SK	1	0878 0978	1.00	0.82	0.53	図
054	SK	1	0876	1.00	0.77	0.54	10YR3/4暗褐色極細粒砂、10YR4/6褐色極細粒砂珪入
055	SK	1	0976	1.14	0.85	0.44	10YR3/4暗褐色シルト質粘土、10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂珪入
056	SK	1	0976	0.85	0.71	0.54	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂
057	SK	1	0878	1.20	0.79	0.19	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
058	SK	1	0878	-0.39	0.35	0.13	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
059	SK	1	0878	-1.20	0.60	0.27	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルトの珪土
060	SK	1	0977	0.46	0.31	0.26	図
061	SK	1	0976	-1.35	0.91	0.69	図
062	SK	1	0977	0.46	0.36	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂、10YR5/6黄褐色細粒砂珪入、焼土・炭化物含む
063	SK	1	0877	0.93	-0.41	0.29	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
064	SK	1	0877	0.32	0.29	0.37	10YR3/4暗褐色極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルト質極細粒砂の珪土、焼土・炭化物含む
065	SK	1	0877	0.43	-0.38	0.55	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
066	SK	1	0877	0.41	0.34	0.10	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂珪入
067	SK	1	0876	0.36	0.29	0.08	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入
068	SK	1	0977	-0.32	-0.20	0.30	図
069	SK	1	0977	-0.26	-0.23	0.29	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色極細粒砂珪入
070	SK	1	0977	0.63	0.42	0.39	10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂珪入、焼土含む
071	SK	1	0977	-0.08	-0.28	0.03	10YR4/4褐色シルト質極細粒砂
101	NR	2	0876 0877	-5.47	0.94	0.59	図
102	SK	2	0876 0976	-0.61	-0.52	0.12	10YR2/1黒色シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂の珪土



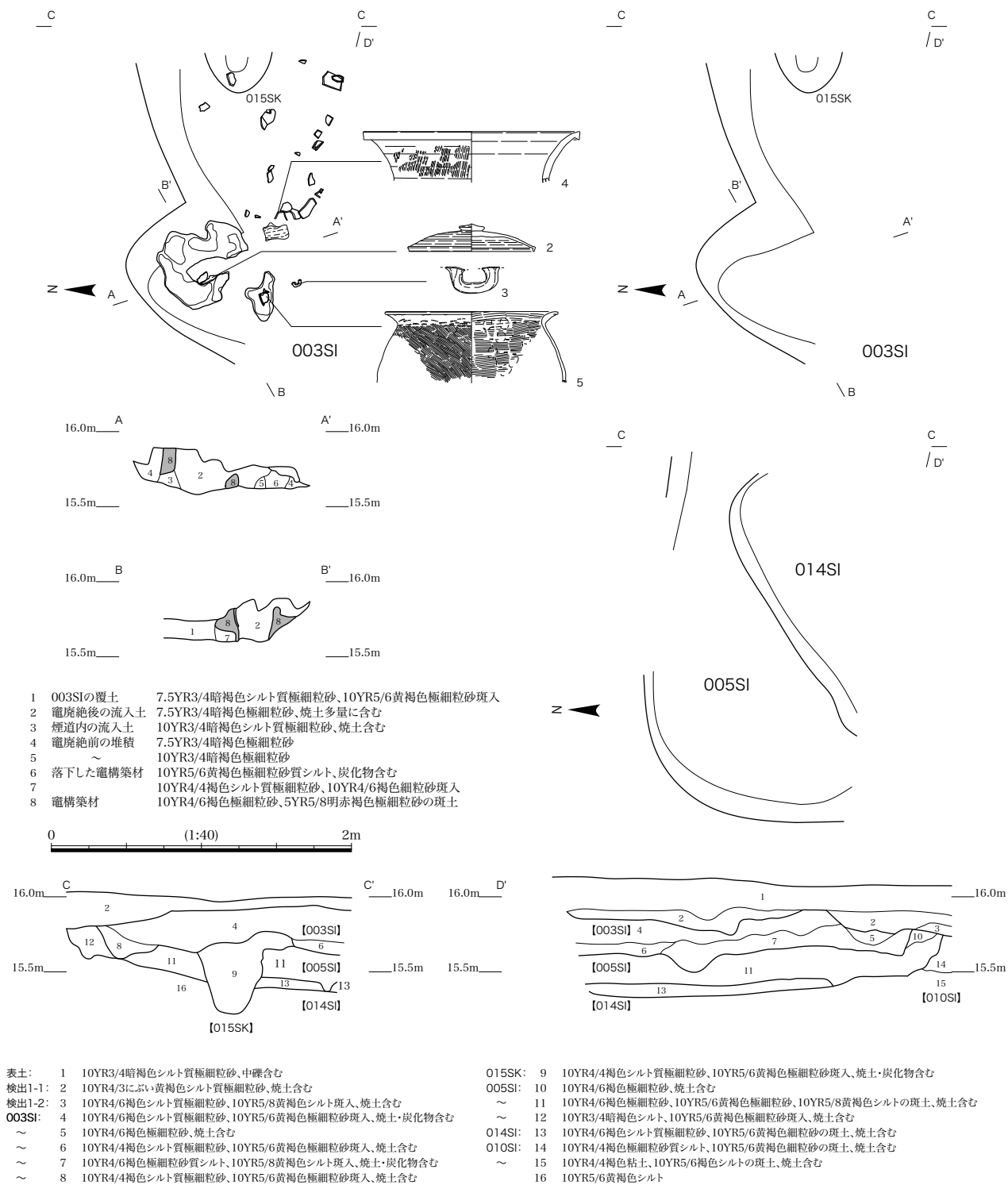
第39図 基本遺構平面図・概略図

6 竪穴建物群

(1) 003SI・005SI・014SI (第40・41図)

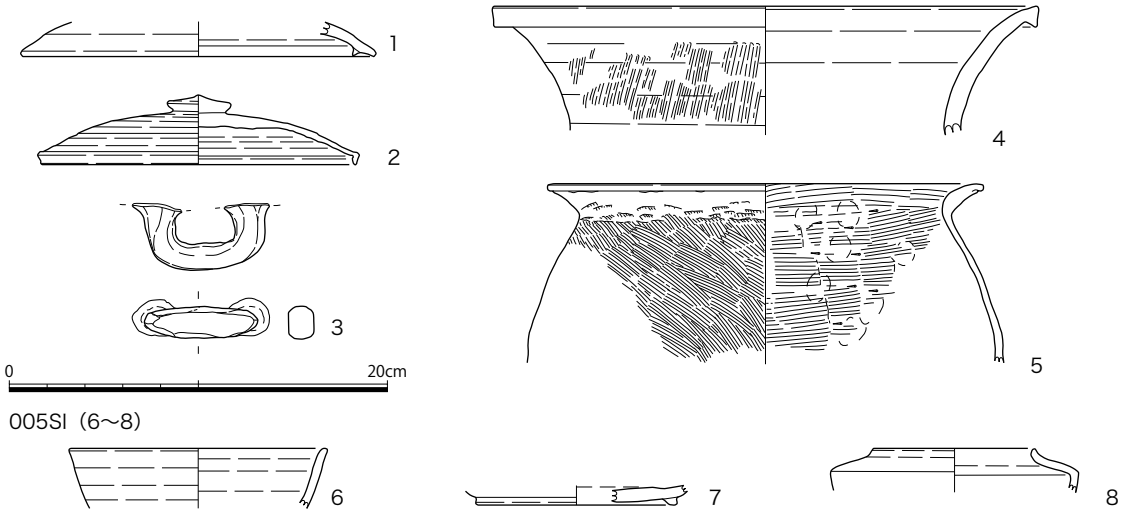
検出状況 調査区南東端で検出した一群である。全形のごく一部を検出したのみであるが、東壁と南壁の層位と対応させながら調査した。

003SI 003SIは北辺に竈を敷設する。015SKが北東の支柱穴の可能性はある。



第40図 003SI・005SI・014SI 遺構図 (S=1/40)

003SI (1~5)



第41図 003SI・005SI 出土遺物実測図

竈 竈の残存状況は良好で、両壁から天井付近、煙道が遺存する。焼土塊が多く混入する部分が両壁の基底部から壁体で、竈壁の内側には須恵器蓋(2)が密着して残されていた。壁体の補強に用いられたと思われる。竈内底面には落下した天井と思われる焼土塊も確認された。

年代測定 床面と竈付近の炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果(第4章参照)、いずれも7世紀後半から8世紀後半を中心とする年代範囲を示した。

出土遺物 竈の周囲からは須恵器把手付鉢(3)、甕(4)、土師器濃尾型甕(5)、炭化材が散在して出土した。蓋(1)は岩崎41号窯式で、下位の005SIから混入した可能性が高い。蓋(2)は鳴海32号窯式に相当する。

005SI 003SIの竈の外側で基盤層の黄褐色シルトを掘り込む遺構を確認した。これを竈(003SI)の構築に先行する遺構と認識して005SIとした。005SIの床面と想定される高さで検出した主軸方向が明確に異なる遺構を014SIとした。いずれも調査区の制約もあって、竈等の付属施設は確認されていない。

年代測定 014SIから採取した炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果(第4章参照)、6世紀後半から7世紀前半を中心とする年代範囲を示した。竪穴建物の先後関係とも整合的である。

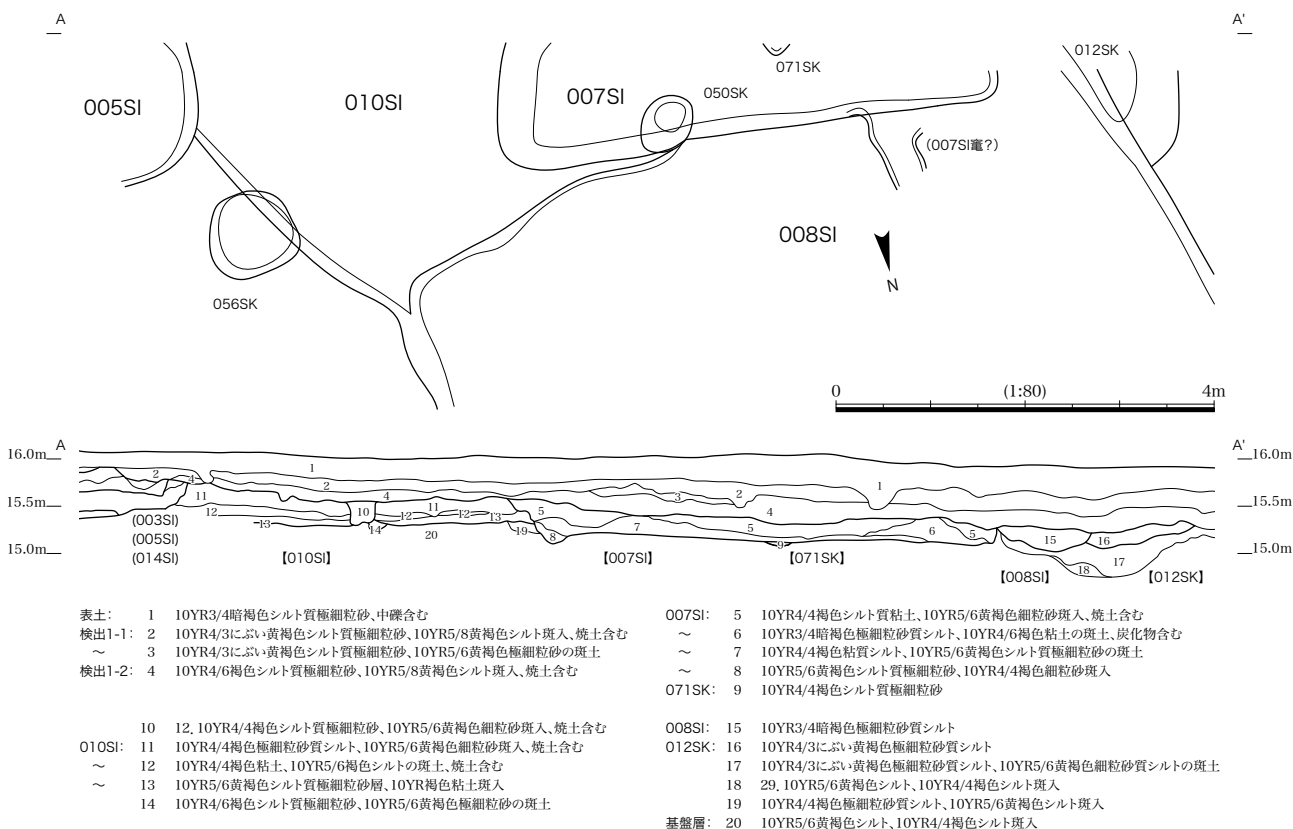
出土遺物 005SIからは須恵器杯(6・7)・短頸壺(8)が出土した。短頸壺(8)は岩崎41号窯式に相当する。有台杯(7)は生焼けである。014SIから遺物は出土していない。

出土遺物と遺構の先後関係から014SIは岩崎41号窯式期以前、005SIは岩崎41号窯式期前後、003SIは鳴海32号窯式期に対応する。

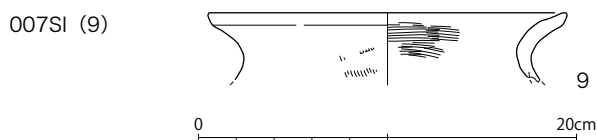
(2) 007SI・010SI(第42・43図)

検出状況 調査区南壁付近で検出した一群である。部分を検出したのみであるが、010SIは周囲の005SI、007SI、008SIとは明らかに異なる方向で基盤層の黄褐色シルト層を掘り込むことから、それらと重複する別個の竪穴建物と認識した。010SIが007SIに先行する。調査時には010SIが005SIに先行すると判断したが、両遺構は縁辺が重複するのみで先行関係は確実ではない。出土遺物からすると、先後関係を誤認している可能性が高い(010SIが005SIに後出する)。

焼土 007SIは北西付近に散在していた焼土と炭化物が竈に関係することも想定したが、構造を把握



第 42 図 007SI・010SI 遺構図 (S=1/80)



第 43 図 007SI 出土遺物実測図

することは困難であった。

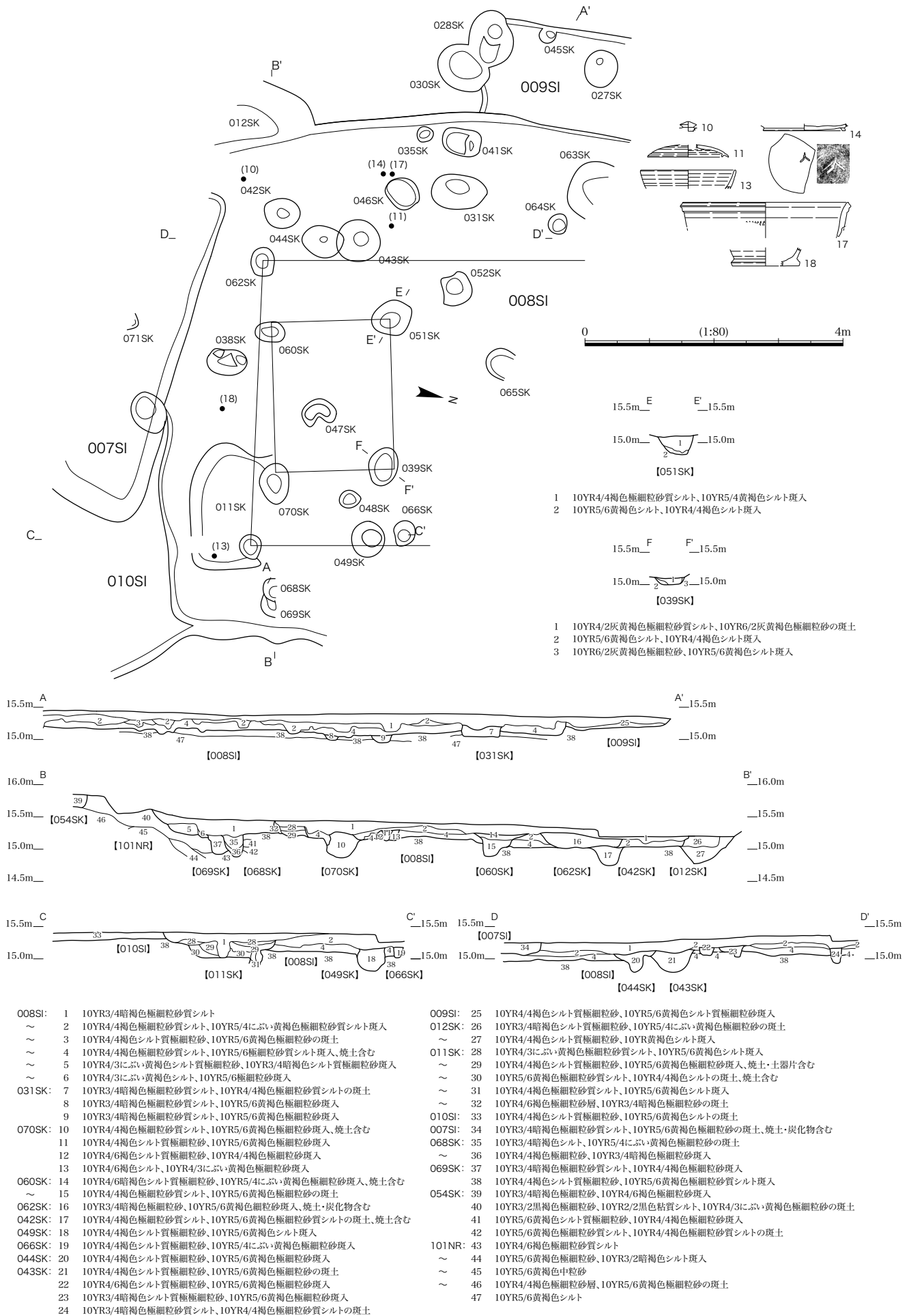
出土遺物 出土遺物は大部分が古墳時代前期初頭前後の遺物で、詳細な時期を検討する個体に恵まれないが、007SI からは土師器伊勢型甕 (9) が出土した。010SI からは土師器濃尾型甕の体部下半が出土した。

(3) 008SI・009SI (第 44・45 図)

検出状況 調査区中央付近で検出した一群である。調査時には 009SI が 008SI に先行すると判断したが、前者の掘方はやや浅いこともあって、先行関係を確定することは難しい。007SI に先行する。

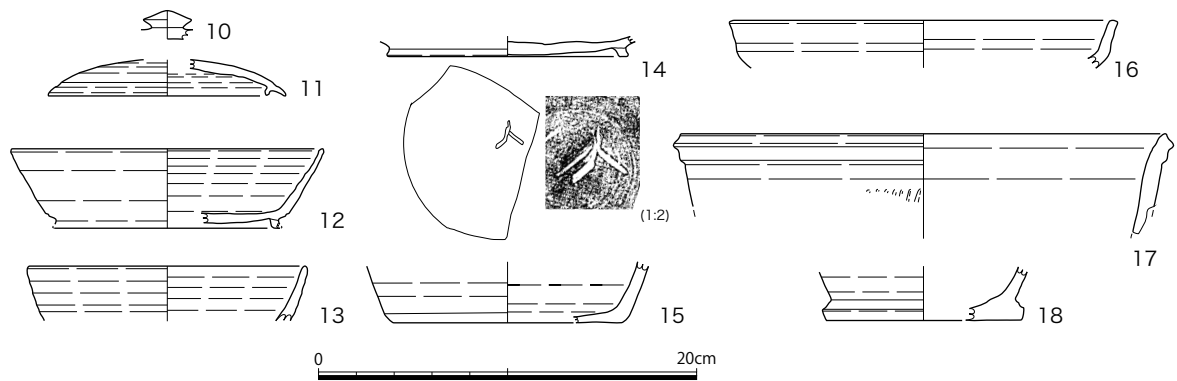
008SI 008SI は一辺 7.93m の大型竪穴建物である。(北辺から東辺の大半が調査区外に続くこともあって、) 竈の有無は明らかではない。011SK、062SK は上位が柱の抜き取り等によって大きく広がることから、支柱穴の可能性はある。039SK、051SK、060SK、070SK は配置から、(重複を見落とした) 未検出の竪穴建物の支柱穴、または桁行 1 間・梁行 1 間の掘立柱建物の柱穴である可能性がある。ただ、柱穴が掘り込まれる層位、床面と堀方の認識は確実ではなく、やや混乱も生じている。

出土遺物 008SI からは須恵器蓋 (10・11)・杯 (12 ~ 15)・盤 (16)・鉢 (17)・陶臼 (18)、凝灰岩製の砥石 (63) が出土した。須恵器蓋 (10・11) は同一個体の可能性がある。岩崎 41 号窯式に相当する。有台



第44図 008SI・009SI遺構図

008SI (10~18)



第 45 図 008SI 出土遺物実測図

杯 (14) は底部外面に「人」の刻書がある。「人」の刻書がある杯は高蔵寺2号窯式に対応する篠岡66号窯から出土していることから、多くは岩崎41号窯式から高蔵寺2号窯式として大過ない。

7 掘立柱建物群

河川の縁辺で掘立柱建物3棟を復元した。調査区の制約から全形、規模は不明で、復元にもやや難がある。方位はいずれも N-15° -W である。

004SB は桁行2間 (4.25m) 以上、梁行2間 (3.1m) に復元した総柱建物である。柱間は桁行が 2.3m、1.95m、梁行が 1.55m である。柱穴 053SK からは須恵器杯 (19・20)、土師器甑 (または鍋) の把手部分 (21) が出土した。

006SB は桁行2間 (3.2m) 以上、梁行1間 (2.95m) に復元した側柱建物である。柱間は桁行が 1.6m、梁行が 2.95m である。柱穴から図化が可能な遺物は出土していない。

013SB は桁行1間 (2.75m) 以上、梁行2間 (3.5m) に復元した側柱建物である。中間の柱穴は小規模であることからすると、幾つかは削剥されたとも推定される。柱穴から図化が可能な遺物は出土していない。

8 その他の遺構・遺物

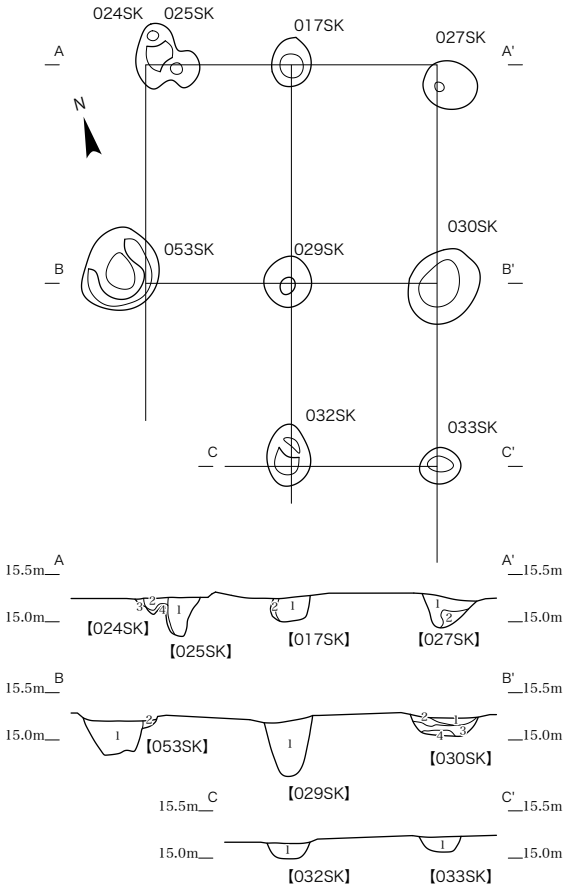
中世の遺構 その他の遺構として、中世の方形土坑 061SK がある。古代の竪穴建物 005SI と重複し、それ
出土遺物 に後出する。掘方は箱形で深い。出土遺物は混入した古代以前の土師器と須恵器が多いが、わずかに灰釉陶器碗 (22)、山茶碗 (23・24) が出土した。山茶碗は東濃型明和窯式から大畑大洞窯式に対応する。

自然流路 その他、調査区西端の自然流路 001NR (25 ~ 29)、下位の堆積層 101NR (30 ~ 32)、包含層、
包含層等 異なる時代の遺構から出土した遺物 (33 ~ 62) がある。

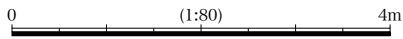
自然流路 自然流路 001NR から出土した遺物として、古墳時代中期前半の土師器 (25)、奈良時代の須恵器 (26 ~ 29) がある。有台杯 (26・27) は高蔵寺2号窯式に対応する。

下位堆積層 下位の堆積層から出土した遺物として、古墳時代前期初頭前後の土師器 (30 ~ 32) がある。口縁部内面を肥厚させ、多条沈線を施す西濃型の高杯 (30)、底部外面にヘラミガキを施した壺 (31)、受口状口縁台付甕 (32) がある。

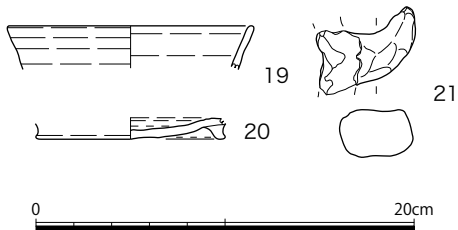
004SB



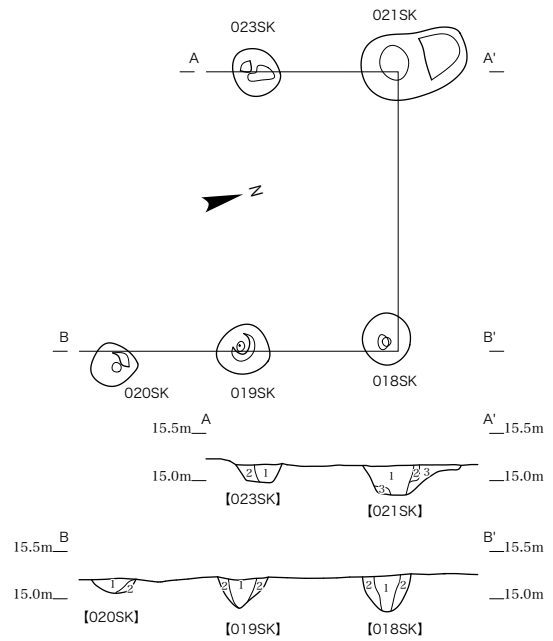
- 025SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- 024SK: 2 10YR4/4褐色シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 3 10YR4/6褐色シルト
- ~ 4 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色極細粒砂斑入
- 017SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入、焼土含む
- ~ 2 10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色シルトの斑土
- 027SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色粘土斑入
- 053SK: 1 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色シルトの斑土
- ~ 2 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- 029SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの斑土、焼土含む
- 030SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂の斑土
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色シルト斑入
- ~ 3 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト斑入
- ~ 4 10YR5/6黄褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入
- 032SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの斑土
- 033SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの斑土



004SB 柱穴 053SK (19~21)

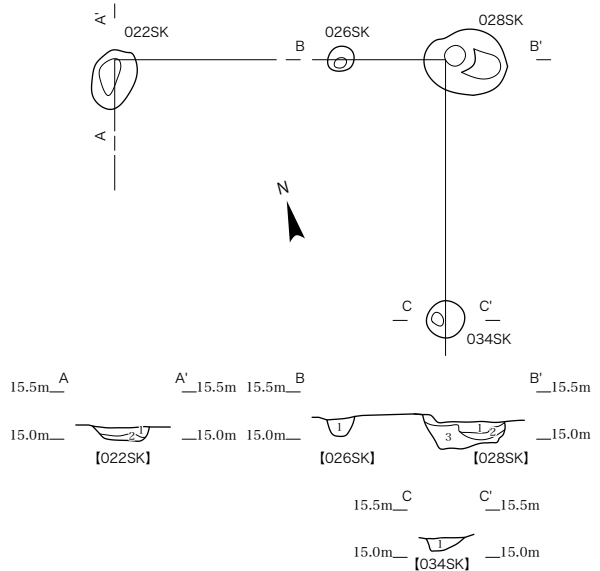


006SB



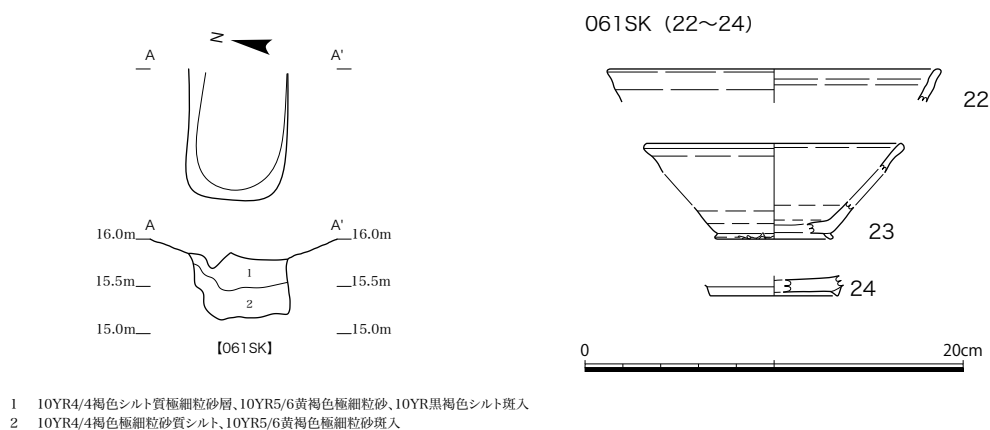
- 023SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色極細粒砂斑入
- 021SK: 1 10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 3 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色極細粒砂斑入
- 020SK: 1 10YR4/4褐色シルト質極細粒砂
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂
- 019SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色粘土斑入
- 018SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト、10YR4/4褐色粘土斑入

013SB

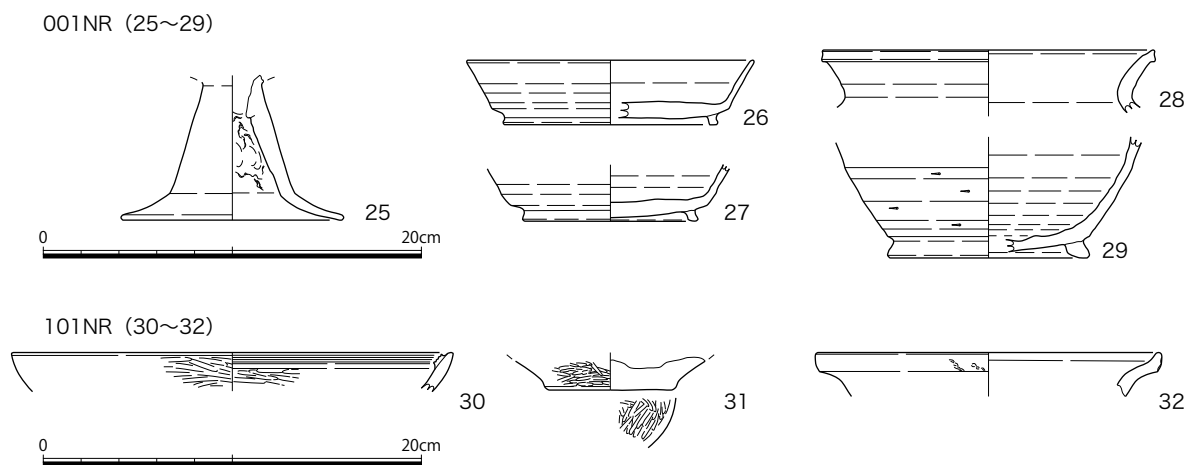


- 022SK: 1 10YR4/4褐色シルト質極細粒砂、10YR5/6黄褐色極細粒砂斑入
- ~ 2 10YR5/6黄褐色シルト、10YR4/4褐色極細粒砂斑入
- 026SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルトの斑土
- 028SK: 1 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト斑入
- ~ 2 10YR4/4褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色極細粒砂の斑土
- ~ 3 10YR5/6黄褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入
- 034SK: 1 10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト、10YR5/6黄褐色シルト斑入

第46図 掘立柱建物遺構図・出土遺物実測図



第47図 中世遺構 061SK 実測図・出土遺物実測図



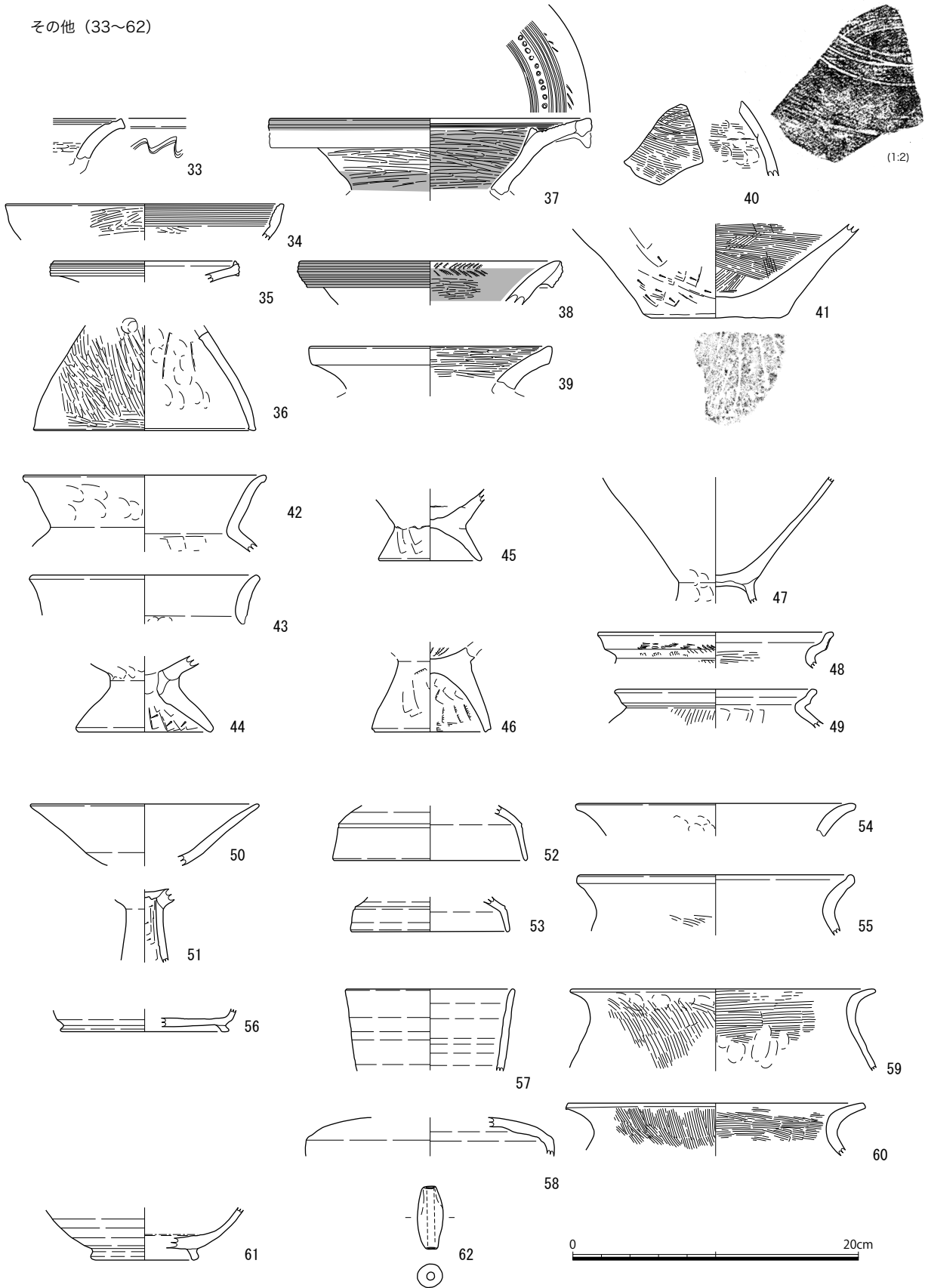
第48図 自然流路 001NR・下位の堆積層 101NR 出土遺物実測図

包含層等 包含層、異なる時期の遺構から出土した遺物として、弥生時代後期の弥生土器 (33・41)、古墳時代前期初頭前後の土師器 (34～48)、古墳時代前期後半前後の土師器 (49～51)、古墳時代後期から終末期の須恵器 (52・53) と土師器 (54・55)、奈良時代の須恵器 (56～58) と土師器 (59・60)、平安時代の灰釉陶器 (61)、紡錘形の管状土錘 (62) がある。古墳時代前期初頭前後の土師器がやや多い。

古墳時代 古墳時代前期初頭の土師器として、口縁部内面を肥圧させ、多条沈線を施す西濃型の高杯(34)、パレス・スタイル壺 (37・38)、S字甕A類新段階 (48) 等がある。壺の体部上半 (40) は外面に弧状の線刻がある。線刻はごく細い線で鋭利に刻まれる。人面文または弧帯文の一部である可能性もある。古墳時代前期後半の土師器として、S字甕D類古段階 (49)、無透孔屈折脚高杯 (50・51)、古墳時代後期から終末期の須恵器として、蓋杯蓋 (52・53)、土師器として、伊勢型甕 (54) 等がある。

古代 奈良時代の須恵器として、有台杯 (56)、平瓶 (57・58)、土師器として、濃尾型甕 (59・60) がある。平安時代の灰釉陶器として椀 (61) がある。

その他 (33~62)



第 49 図 その他出土遺物実測図

表 20 遺物一覽表

番号	区	グリッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	残 (/12)	底径 (cm)	残 (/12)	器高 (cm)	備考	(X)	出土地点 (Y)	(Z)
1	19	0976	003SI	須恵器	蓋	(18.6)	1	-	-	(1.7)	I-41			
2	19	0976	003SI	須恵器	蓋	16.6	3	-	-	3.7	NN-32	-76093.915	-25767.490	15.829
3	19	0976	003SI	須恵器	把手付鉢	-	-	-	-	(1.3)	把手部分	-76094.522	-25767.499	15.791
4	19	0976	003SI	須恵器	甕	(28.6)	3	-	-	(6.8)		-76094.393	-25767.049	15.624
5	19	0976	003SI	土師器	濃尾型甕	(23.0)	3	-	-	(9.5)		-76094.316	-25767.578	15.758
6	19	0976	005SI	須恵器	杯	(13.6)	1	-	-	(3.2)				
7	19	0976	005SI	須恵器	杯	-	-	(10.6)	3	(1.1)	生焼け			
8	19	0976	005SI	須恵器	短頸壺	(8.6)	2	-	-	(2.3)	I-41			
9	19	0977	007SI	土師器	甕	(18.8)	1	-	-	(3.6)				
10	19	0977	008SI	須恵器	蓋	-	-	-	-	(1.5)		-76091.926	-25776.948	15.159
11	19	0877	008SI	須恵器	蓋	(12.6)	5	-	-	(1.9)		-76089.525	-25776.770	15.250
12	19	0877	008SI	須恵器	有台杯	(16.6)	1	-	-	4.2				
13	19	0977	008SI	須恵器	杯	(14.6)	2	-	-	(2.9)		-76091.017	-25771.158	15.213
14	19	0877	008SI	須恵器	有台杯	-	-	(12.8)	1	(1.2)	底部外面「人」線刻	-76089.837	-25777.526	15.257
15	19	0877	008SI	須恵器	無台杯	-	-	(12.0)	2	(3.3)				
16	19	0877	008SI	須恵器	盤	(20.6)	2	-	-	(2.5)				
17	19	0977	008SI	須恵器	鍋	(25.6)	1	-	-	(5.3)		-76089.701	-25777.555	15.128
18	19	0977	008SI	須恵器	陶白	-	-	(5.2)	5	(2.8)		-76091.425	-25773.409	15.294
19	19	0878	053SK	須恵器	杯	(12.8)	1	-	-	(2.3)				
20	19	0878	053SK	須恵器	杯	-	-	(9.8)	1	(1.2)				
21	19	0978	053SK	土師器	甕	-	-	-	-	(4.7)	把手			
22	19	0976	061SK	灰釉陶器	椀	(17.6)	1	-	-	(1.8)				
23	19	0976	061SK	山茶碗	碗	-	-	(6.8)	1	(1.1)	明和			
24	19	0976	061SK	山茶碗	碗	(17.6)	1	(6.4)	1	(3.5)	大畑大洞古			
25	19	0876	001NR	土師器	高杯	-	-	(11.6)	1	(7.6)				
26	19	0876	001NR	須恵器	有台杯	(15.2)	1	(11.2)	5	3.4	C-2	-76088.209	-25789.597	14.498
27	19	0875	001NR	須恵器	有台杯	-	-	9.0	12	(3.0)	C-2	-76085.252	-25792.129	14.271
28	19	0876	001NR	須恵器	甕	(17.4)	2	-	-	(3.4)				
29	19	0875	001NR	須恵器	短頸壺	-	-	(10.4)	5	(6.4)		-76085.309	-25792.026	14.359
30	19	0876	101NR	土師器	高杯	(32.2)	1	-	-	(2.0)	杯部内面沈線			
31	19	0976	101NR	土師器	壺	-	-	(6.4)	3	(1.8)				
32	19	0876	101NR	土師器	受口甕	(18.2)	1	-	-	(2.3)				
33	19	0877 0977	008SI	弥生土器	有稜高杯	-	-	-	-	(2.8)				
34	19	0877	008SI	土師器	有段高杯	(19.6)	1	-	-	(2.6)	杯部内面沈線			
35	19	0877	063SK	土師器	器台	(12.6)	1	-	-	(1.5)				
36	19	0977	010SI	土師器	高杯	-	-	(15.6)	2	(7.8)				
37	19	0976	005SI	土師器	パレス壺	(22.6)	1	-	-	(5.4)	内外面赤彩			
38	19	0877	検出1-2	土師器	パレス壺	(18.4)	2	-	-	(3.0)	内外面赤彩			
39	19	0877 0977	007SI	土師器	広口壺	(17.0)	3	-	-	(3.0)				
40	19	0877	008SI	土師器	不明	-	-	-	-	-	体部外面線刻			
41	19	0976	検出2	弥生土器	広口壺	-	-	(9.0)	3	(6.6)	底部外面木葉痕	-76091.410	-25769.406	15.600
42	19	0977	043SK	土師器	甕	(15.6)	2	-	-	(3.4)				
43	19	0976	検出2	土師器	甕	(17.0)	3	-	-	(5.5)		-76091.714	-25769.294	15.527
44	19	0976	検出2	土師器	台付甕	-	-	(9.2)	3	(5.4)	脚台部			
45	19	0977	トレンチ	土師器	台付甕	-	-	(7.0)	1	(5.0)	脚台部			
46	19	0977 0976	010SI	土師器	台付甕	-	-	7.8	12	(5.9)	脚台部	-76094.178	-25768.680	15.428
47	19	0977	010SI	土師器	台付甕	-	-	-	-	(8.9)		-76091.789	-25770.926	15.374
48	19	0878	検出1-2	土師器	S字甕	(16.4)	2	-	-	(2.5)	A類新			
49	19	0878	検出1	土師器	S字甕	(14.0)	2	-	-	(2.7)	D類古			
50	19	0976	検出1	土師器	高杯	(15.8)	3	-	-	(4.3)		-76090.633	-25767.980	15.780
51	19	0877	検出1-2	土師器	高杯	-	-	-	-	(5.2)				
52	19	0876	検出1	須恵器	蓋杯 杯	(13.4)	2	-	-	(3.9)	蝮ヶ池	-76090.091	-25768.024	15.881
53	19	0878	検出1-2	須恵器	蓋杯 杯	(11.0)	2	-	-	(2.5)	I-17	-76085.044	-25784.664	15.123
54	19	0977	011SK	土師器	甕	(19.6)	1	-	-	(2.3)				
55	19	0877	検出1	土師器	伊勢型甕	(19.0)	2	-	-	(4.3)				
56	19	0878	検出1	須恵器	有台杯	-	-	(11.6)	4	(1.6)		-76084.012	-25786.873	16.406
57	19	0876	検出1	須恵器	平瓶	(11.6)	3	-	-	(5.8)	O-10			
58	19	0878	検出1	須恵器	平瓶	-	-	-	-	(2.7)		-76084.488	-25784.719	16.520
59	19	0876	検出1	土師器	濃尾型甕	(20.4)	3	-	-	(5.7)		-76088.800	-25768.556	15.758
60	19	0877	検出1-2	土師器	濃尾型甕	(21.0)	1	-	-	(3.7)				
61	19	0878	検出1-1	灰釉陶器	椀	-	-	(6.8)	3	(2.7)	D類古			
62	19	0876	検出1	土製品	土錘	長4.4	-	幅1.8	-	厚0.5	重11.2g	-76082.989	-25795.009	15.371
63	19	0877	008SI	石製品	砥石	長5.6	-	幅4.5	-	厚2.8	重86.4g			

【参考文献】

大口町 1982『大口町史』

大口町教育委員会 2010「白木遺跡」『大口町内遺跡発掘調査報告書』大口町埋蔵文化財調査報告書第7集

愛知県一宮建設事務所・株式会社パスコ・大口町歴史民俗博物館 2022『白木遺跡』

城ヶ谷和広 2015「編年論」『愛知県史』別編 窯業1 古代 猿投系 愛知県

早野浩二 2020「白木遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター年報』令和元年度 公益財団法人愛知県教育・スポーツ

振興財団愛知県埋蔵文化財センター



白木遺跡遠景

遺跡北西上空から小牧山、小牧・名古屋市街地方面

遺跡南東上空から木曽川、一宮・江南市街地方面



白木遺跡調査区全景・土層断面

調査区全景

調査区南壁土層断面

自然流路 001NR 南壁土層断面



竪穴建物 003SI

003SI 竈遺物出土状況

003SI 床面検出状況 003SI 竈検出状況



竖穴建物群

竖穴建物群完掘状況

061SK・003SI・005SI・014SI (調査区東壁) 土層断面

005SI 完掘状況・014SI 検出状況・014SI 完掘状況



大型竪穴建物 008SI

008SI 完掘状況

008SI 土層断面



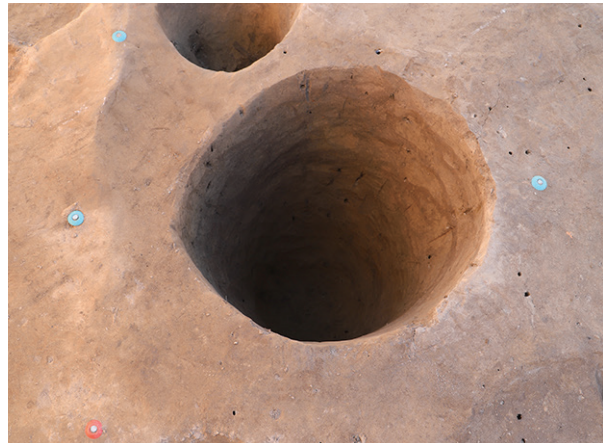
竪穴建物 003SI・大型竪穴建物 008SI

003SI 主柱穴 015SK 土層断面 008SI 遺物(「人」刻書須恵器) 出土状況

008SI 主柱穴 011SK 完掘状況 008SI 主柱穴 062SK 完掘状況

柱穴 051SK 土層断面 柱穴 039SK 土層断面

柱穴 060SK 完掘状況 柱穴 070SK 完掘状況



掘立柱建物群

遺構検出状況 (柱穴群と自然流路 001NR)

004SB 柱穴 024SK・025SK 完掘状況 004SB 柱穴 027SK 土層断面

004SB 柱穴 053SK 完掘状況 004SB029SK 完掘状況

004SB 柱穴 030SK 土層断面 004SB033SK 土層断面



掘立柱建物群・自然流路 001NR・101NR

- 006SB 柱穴 023SK 土層断面 006SB 柱穴 021SK 完掘状況
- 006SB 柱穴 019SK 土層断面 006SB 柱穴 019SK 完掘状況
- 013SB 柱穴 022SK 土層断面 013SB 柱穴 028SK 完掘状況
- 自然流路 001NR 遺物出土状況 自然流路 101NR 礫層の産状



2



3



4



5



14



14



12



63



27



29



37



40



41



46



61



62

第4章 自然科学分析

1 放射性炭素年代測定 (株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ)

(1) 南山町遺跡の測定結果

南山町遺跡から出土した遺物の付着炭化物および採取された炭化材試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

試料と方法 付着炭化物試料は、20B 区の 137SK から出土した鉄釉皿 (報文掲載図 130) の底部外面付着炭化物 (試料 No.1: PLD-49247)、21Ab 区の 130SD から出土した土師質鍋 (報文掲載図 248) の口縁部外面付着炭化物 (試料 No.2: PLD-49248)、21Ab 区の 147SI で出土した土師質甕 (図未掲載) の胴部外面付着炭化物 (試料 No.3: PLD-49249) の、計 3 点である。測定試料の情報、調製データは表 21 のとおりである。

炭化材試料は、溝跡 020SD から採取された炭化材が 2 点 (試料 No.4、5: PLD-50620、50621)、竪穴住居跡 147SI から採取された炭化材が 2 点 (試料 No.6、7: PLD-50622、50623)、土坑 157SK から採取された炭化材が 1 点 (試料 No.8: PLD-50624)、157SK の南で採取された炭化材が 1 点 (試料 No.9: PLD-50625) の、計 6 点である。試料 No.6 は最終形成年輪が残っていたが、その他の 5 点については最終形成年輪が残っていなかった。測定試料の情報、調製データは表 22 のとおりである。

以上の試料は調製後、ともに加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

結果 表 23, 24 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。 ^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20、暦年較正結果が 1950 年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH2) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を

表 21 南山町遺跡 測定試料および処理（土器付着炭化物）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-49247	試料No. 1 調査区：20B グリッド：0505D 遺構：137SK 遺物No. 130	種類：土器付着炭化物 器種：鉄釉皿 部位：底部外面 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-49248	試料No. 2 調査区：21Ab グリッド：0509L 遺構：130SD 遺物No. 248 備考：d-058	種類：土器付着炭化物 器種：土師質鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-49249	試料No. 3 調査区：21Ab グリッド：0510X 遺構：147SI 備考：d-083	種類：土器付着炭化物 器種：土師質甕 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

表 22 南山町遺跡 測定試料および処理（炭化材）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-50620	試料No. 1 調査区：21Aa 遺構：020SD 遺物No. d-202	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-50621	試料No. 2 調査区：21Aa 遺構：020SD 遺物No. d-021	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-50622	試料No. 3 調査区：21Ab 遺構：147SI 遺物No. d-088	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-50623	試料No. 4 調査区：21Ab 遺構：147SI 遺物No. d-091	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-50624	試料No. 5 調査区：21Ab 遺構：157SK 遺物No. d-116	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-50625	試料No. 6 調査区：21Ab 遺構：157SKの南 遺物No. d-119	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

考察

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。

20B 区の 137SK から出土した鉄釉皿 (報文掲載図 130) の底部外面付着炭化物 (試料 No.1: PLD-49247) は、1528-1540 cal AD (5.54%)、1545-1550 cal AD (1.17%)、1634-1666 cal AD (78.29%)、1784-1795 cal AD (10.45%) で、16 世紀前半～中頃、17 世紀前半～後半、18 世紀後半～末の暦年代を示した。これは、室町時代、江戸時代前期および後期に相当する。

21Ab 区の 130SD から出土した土師質鍋 (報文掲載図 248) の口縁部外面付着炭化物 (試料 No.2: PLD-49248) は、1216-1269 cal AD (95.45%) で、13 世紀前半～後半の暦年代を示した。これは、鎌倉時代に相当する。

21Ab 区の 147SI から出土した土師質甕 (図未掲載) の胴部外面付着炭化物 (試料 No.3: PLD-49249) は、667-709 cal AD (40.88%) および 712-774 cal AD (54.57%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。試料 No.6 は最終形成年輪が残っていたが、それ以外の 5 点、試料 No.4、5、7～9 は最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、試料の木が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりややも新しい年代であると考えられる。

020SD の試料 No.4 (PLD-50620) は 1048-1083 cal AD (32.32%)、1096-1101 cal AD (1.17%)、1126-1140 cal AD (3.15%)、1149-1217 cal AD (58.80%)、試料 No.2 (PLD-50621) は 1048-1083 cal AD (32.32%)、1096-1101 cal AD (1.17%)、1126-1140 cal AD (3.15%)、1149-1217 cal AD (58.80%) で、共に 11 世紀中頃～13 世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～鎌倉時代に相当する。

147SI の試料 No.6 (PLD-50622) は 647-681 cal AD (89.28%)、749-758 cal AD (5.18%)、768-771 cal AD (0.99%)、試料 No.7 (PLD-50623) は 657-691 cal AD (49.80%)、696-703 cal AD (3.52%)、741-773 cal AD (42.13%) で、共に 7 世紀中頃～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

157SK の試料 No.8 (PLD-50624) は、660-704 cal AD (48.16%) および 740-773 cal AD (47.29%) で、7 世紀中頃～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

157SK の南の試料 No.9 (PLD-50625) は、659-705 cal AD (49.01%) および 739-773 cal AD (46.44%) で、7 世紀中頃～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

表 23 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（土器付着炭化物）

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-49247 試料No. 1 鉄釉皿底部外面	-25.85 \pm 0.29	258 \pm 18	260 \pm 20	Post-bomb NH2 curve (Hua et al., 2013, Reimer et al 2020): 1640-1660 cal AD (68.27%)	Post-bomb NH2 curve (Hua et al., 2013, Reimer et al 2020): 1528-1540 cal AD (5.54%) 1545-1550 cal AD (1.17%) 1634-1666 cal AD (78.29%) 1784-1795 cal AD (10.45%)
PLD-49248 試料No. 2 土師質鍋口縁部外面	-21.35 \pm 0.28	815 \pm 18	815 \pm 20	1221-1232 cal AD (25.05%) 1240-1260 cal AD (43.22%)	1216-1269 cal AD (95.45%)
PLD-49249 試料No. 3 土師質甕胴部外面	-22.85 \pm 0.33	1290 \pm 22	1290 \pm 20	675-704 cal AD (32.67%) 739-753 cal AD (15.97%) 756-773 cal AD (19.64%)	667-709 cal AD (40.88%) 712-774 cal AD (54.57%)

表 24 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（炭化材）

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-50620 試料No. 1 020SD	-27.13 \pm 0.15	900 \pm 18	900 \pm 20	1052-1078 cal AD (27.93%) 1155-1178 cal AD (29.78%) 1192-1202 cal AD (10.55%)	1048-1083 cal AD (32.32%) 1096-1101 cal AD (1.17%) 1126-1140 cal AD (3.15%) 1149-1217 cal AD (58.80%)
PLD-50621 試料No. 2 020SD	-26.95 \pm 0.15	900 \pm 18	900 \pm 20	1052-1078 cal AD (27.93%) 1155-1178 cal AD (29.78%) 1192-1202 cal AD (10.55%)	1048-1083 cal AD (32.32%) 1096-1101 cal AD (1.17%) 1126-1140 cal AD (3.15%) 1149-1217 cal AD (58.80%)
PLD-50622 試料No. 3 147SI	-25.69 \pm 0.18	1351 \pm 18	1350 \pm 20	654-668 cal AD (68.27%)	647-681 cal AD (89.28%) 749-758 cal AD (5.18%) 768-771 cal AD (0.99%)
PLD-50623 試料No. 4 147SI	-26.14 \pm 0.16	1321 \pm 18	1320 \pm 20	662-680 cal AD (37.82%) 746-759 cal AD (23.85%) 767-771 cal AD (6.60%)	657-691 cal AD (49.80%) 696-703 cal AD (3.52%) 741-773 cal AD (42.13%)
PLD-50624 試料No. 5 157SK	-26.27 \pm 0.15	1312 \pm 18	1310 \pm 20	665-683 cal AD (29.79%) 744-760 cal AD (28.56%) 766-772 cal AD (9.92%)	660-704 cal AD (48.16%) 740-773 cal AD (47.29%)
PLD-50625 試料No. 6 157SKの南	-25.88 \pm 0.20	1313 \pm 19	1315 \pm 20	664-683 cal AD (30.79%) 744-760 cal AD (27.80%) 766-772 cal AD (9.68%)	659-705 cal AD (49.01%) 739-773 cal AD (46.44%)

【参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. Radiocarbon, 55(4), 1-14.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

(2) 白木遺跡の測定結果

愛知県丹羽郡大口町の白木遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

試料と方法 測定試料の情報、調製データは表 25 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計(パレオラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

結果 表 26 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

考察 試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。

【参考文献】

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」日本第四紀学会, 3-20.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

表 25 白木遺跡 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41164	試料No. 1 遺構：003SI グリッド：0976	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-41165	試料No. 2 遺構：003SI グリッド：0976	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-41166	試料No. 3 遺構：014SI グリッド：0976	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-41167	試料No. 4 遺構：004SI グリッド：0976	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-41168	試料No. 5 位置：西側 深掘 礫層を覆う粘土質砂層の粘土部分	種類：土壌（ヒューミン） 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

表 26 白木遺跡 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年に較正した年代範囲		^{14}C 年代を暦年に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-41164 試料No. 1	-26.83 \pm 0.15	1318 \pm 19	1320 \pm 20	661-690 cal AD (59.5%) 751-760 cal AD (8.7%)	656-714 cal AD (78.6%) 744-765 cal AD (16.8%)	1290-1261 cal BP (59.5%) 1199-1190 cal BP (8.7%)	1294-1237 cal BP (78.6%) 1206-1185 cal BP (16.8%)
PLD-41165 試料No. 2	-29.48 \pm 0.16	1259 \pm 19	1260 \pm 20	694-747 cal AD (62.8%) 763-768 cal AD (5.4%)	680-774 cal AD (95.4%)	1256-1204 cal BP (62.8%) 1187-1183 cal BP (5.4%)	1271-1176 cal BP (95.4%)
PLD-41166 試料No. 3	-27.95 \pm 0.11	1451 \pm 19	1450 \pm 20	599-638 cal AD (68.2%)	575-645 cal AD (95.4%)	1351-1313 cal BP (68.2%)	1375-1305 cal BP (95.4%)
PLD-41167 試料No. 4	-29.28 \pm 0.23	1232 \pm 20	1230 \pm 20	713-744 cal AD (29.0%) 765-778 cal AD (12.3%) 791-805 cal AD (8.4%) 812-826 cal AD (6.6%) 840-863 cal AD (11.9%)	691-749 cal AD (38.6%) 761-781 cal AD (14.7%) 787-878 cal AD (42.1%)	1237-1206 cal BP (29.0%) 1185-1172 cal BP (12.3%) 1159-1145 cal BP (8.4%) 1139-1124 cal BP (6.6%) 1110-1088 cal BP (11.9%)	1260-1202 cal BP (38.6%) 1189-1169 cal BP (14.7%) 1164-1073 cal BP (42.1%)
PLD-41168 試料No. 5	-27.44 \pm 0.16	1420 \pm 19	1420 \pm 20	617-649 cal AD (68.2%)	601-655 cal AD (95.4%)	1333-1301 cal BP (68.2%)	1349-1295 cal BP (95.4%)

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ, 2022, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ, 2023, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ, 2019, 「(愛知県丹羽郡大口町白木遺跡) 放射性炭素年代測定」

2 南山町遺跡・白木遺跡における層序と堆積年代

鬼頭 剛・古澤 明・株式会社パレオラボ AMS 年代測定グループ

はじめに 南山町遺跡・白木遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を報告する。

試料および分析方法 各調査区で地表から、あるいは遺構検出面からバックホウにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。また、調査地点の地下層序を解析するため試錐(ボーリング掘削)調査を実施した。試錐調査は株式会社アーキジオに依頼した。油圧式ロータリー型試錐機を使用し、コアパックスリーブ内蔵型サンプラー(φ 66mm)によりオールコアで実施した。また、コア資料および各調査区の層序断面からは火山灰分析、放射性炭素年代測定の試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤(2003)の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製#255メッシュシート(糸径43 μ m、オープニングワイド57 μ m)を用い、流水中で洗浄した。残渣を#125メッシュシート(糸径70 μ m、オープニングワイド133 μ m)を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ(1/8~1/16)に粒度調整した試料について超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉍物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が1.545程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を1.545とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレバート封入した粒子に対して偏光顕微鏡(100倍)を用いて観察し、火山灰純層の場合300粒子(1000粒子の平均値)を古澤(2003)の区別手法にしたがって区分した。火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため3000粒子(10000粒子の平均値)の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置”MAIOT“を使用した。測定精度は火



第50図 南山町遺跡・白木遺跡における分析試料採取地点

山ガラスで± 0.0001、斜方輝石および角閃石で± 0.0002 程度である(古澤, 1995)。火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SU1510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー (EDX) は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。火山灰分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析 (AMS) 法により測定を行なった。加速器質量分析法は 125 μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨(グラファイト)に調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH)にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正には 0xCal4.4(較正曲線データ:INTCAL20)を使用した。なお、2 σ 暦年代範囲は、0xCal の確率法を使用して算出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.45% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。放射性炭素年代測定は株式会社パレオラボ AMS 年代測定グループが行なった。

分析結果 南山町遺跡では調査区全体の西から、21A 区の西端で地点 1、20B 区の中央部で地点 2、20A 区の南壁セクションで検出された考古遺構 054SD の横断面西側で地点 3、および同調査区の東端で地点 4 の 2 地点、21B 区の西端で地点 5 の計 5 地点でバックホウによる深掘を行なった(第 50 図)。白木遺跡では 20 区の調査区西端で地点 6、同調査区の中央部で地点 7 の計 2 地点でバックホウにより深掘を実施した(第 50 図)。各地点では層序の観察・記載と分析試料を採取した。詳細を地点番号順に記す。

南山町遺跡 南山町遺跡について地点 1 は 21A 区の西端、北壁寄りバックホウにより遺構検出面より約 2.5m 掘削した(第 51 図)。下位層より、14.47m ~ 14.98m は大礫~巨礫層からなる。基質は褐色を呈する中粒砂~極粗粒砂よりなる基質支持礫層である。礫は円礫が優占する。礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の砂の淘汰は良好である。本層の礫と礫との間を埋める基質である砂層の火山灰分析より御岳瀉町火山灰を含む御岳奈川火山灰を起源とする火山ガラスが混在していることがわかった(表 27)。標高 14.98m ~ 15.80m は明褐色の中粒砂~粗粒砂層である。基質にシルト成分を含む。地層内には白色を呈する中粒砂が斑状に認められる部分もある。砂粒子の淘汰は良好であるが堆積構造はみられない。下位層との層理面は明瞭である。標高 15.80m ~ 16.20m は赤褐色~明褐色を呈する中粒砂である。基質にシルト成分を含み、下位層に比べて含まれるシルトの量が多くなる。砂粒子の淘汰は良好であるが、堆積構造はみられない。下位層および上位層との層理面は不明瞭である。標高 16.20m ~ 16.67m は黒褐色の部分と褐色の部分とが斑状に混じる砂質シルト層である。堆積構造は認められない。下位層との層理面は不明瞭である。本層中部、標高 16.37m が遺構検出面となる。標高 16.67m ~ 16.74m も黒褐色の部分と褐色の部分とが斑状に混じる砂質シルト層である。下位層に比べて若干黒褐色を呈する部分が優占する。堆積構造はみられない。下位層との層理面は不明瞭である。標高 16.74m ~ 16.92m は褐色のシルト層からなる。塊状で堆積構造は認められない。下位層との層理面は不明瞭である。標高 16.92m ~ 17.04m は現代の盛り土であり、本層の頂部(標高 17.04m)が地表面である。

地点 2 は 20B 区の調査区中央部分においてバックホウにて約 0.6m 掘削した(第 54 図)。深度が 0.6m と浅いのは湧水がみられたためである。地層断面中央にみられる径 25 cm 四方の黒褐色を呈する粘土ブロックを挟んで、粘土ブロックの西側(第 54 図では左側)では標高 14.16m ~

14.36mには大礫～巨礫層がみられる。基質は灰色を呈する中粒砂～極粗粒砂が充填する。礫は円礫を主体とし、濃飛流紋岩からなる礫が多い。基質である砂の火山灰分析を行ない屈折率が1.498-1.507を示す低発泡の火山ガラスを検出した(表28)。また、斜方輝石と緑色の普通角閃石がやや多く含まれ、斜方輝石の屈折率(γ)は1.702-1.716とブロードな特徴をもつ。火山ガラスを検出したものの該当する対比候補はなく、給源を決定するには至っていない(表28)。標高14.36m～14.69mには灰色を呈する中粒砂～粗粒砂層がみられる。基質に若干のシルト成分を含む。地層全体に塊状で堆積構造はみられない。砂粒子の淘汰は良好である。黒褐色の粘土ブロックを挟んだ東側(第54図では右側)には標高14.16m～14.69mまで粘土ブロックの西側でみられる中粒砂～粗粒砂層が覆う。地層断面中央でみられる黒褐色粘土ブロックの放射性炭素年代測定では3085-2995 cal yr BP (1136-1046 BC : PLD-43722)の数値年代が得られた(表29)。

地点3は20A区の調査区の南壁で考古遺構054SDの横断面が確認される地点において、遺構の西端が認められる地点で試料を採取した(第52図)。標高15.13m～15.63mは黄褐色～褐色を呈する細粒砂である。塊状で堆積構造はみられない。基質にシルトを含む。砂粒子とシルト成分との量比は地層の下部では砂粒子が卓越し、上部にいくに従って砂粒子の含有量が減少しシルト成分の量が増えていく。標高15.63m～16.05mは黄褐色～褐色を呈する細粒砂層の中に、層厚数mm～1cm程度の黒褐色シルト層が側方へのびる脈状の堆積構造がみられる。黒褐色シルト層の側方への連続性は悪い。これは本層が水で飽和していた地層が地震動などのくり返し応力を受けた際に形成されたじょう乱(皿状)構造をみているものである。標高15.60m～16.00mの考古遺構054SDを埋めるのは黒褐色を呈するシルト層である。本層内にも地層全体にじょう乱構造が認められる。本層の標高15.76mの層準より土壌を採取し放射性炭素年代素を行なったところ1882-1741cal yr BP (68-209 AD : PLD-50652)の数値年代が得られた(表30)。

地点4は20A区の調査区南壁の東端でバックホウにより約1.5m掘削した(第55図)。標高14.76m～15.18mは大礫～巨礫層からなる。灰色～褐色を呈する基質は中粒砂～極粗粒砂よりなる基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、濃飛流紋岩から礫が大半を占める。基質の砂の淘汰は良好である。基質の砂の火山灰分析を行なったが火山ガラス等は検出されなかった(表27)。標高15.18m～15.76mは明褐色の中粒砂～粗粒砂層である。基質にシルト成分を含む。地層は塊状で堆積構造はみられない。砂粒子の淘汰は良い。本砂層の上部、標高15.60m～15.76mの層準には層厚数mm～1cm程度の黒褐色シルト層が側方への連続性悪く脈状のじょう乱構造が特徴的にみられる。この構造は水で飽和した地層が地震動などのくり返し応力を受けてできた皿状構造である。標高15.76m～15.98mは黒褐色を呈する粘土質シルト層ないしシルト質粘土層からなる。標高15.76m～15.98mには3層が確認でき、これらの地層が考古遺物包含層となる。3層の最下部、標高15.78mから採取した黒褐色粘土からなる土壌の放射性炭素年代測定により1671-1619 cal yr BP (279-331 AD : PLD-50653)の数値年代が得られた(表30)。標高15.98m～16.14mは黒褐色を呈する粘土質シルト層ないしシルト質粘土層からなる。塊状で堆積構造はみられない。本層の上を現代の盛り土が覆う。

地点5は21B区の西端で遺構検出面よりバックホウで約1.5m掘り下げた(第53図)。下位層より、標高13.57m～14.27mは大礫～巨礫層からなる。基質は灰色を呈する中粒砂～極粗粒砂よ

りなる基質支持礫層である。基質の砂の淘汰は良好である。礫は円礫が卓越する。礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質である砂層を用いて火山灰分析を行なったが火山灰は検出されなかった(表 27)。標高 14.27m ~ 15.08m は明灰色ないし灰色を呈する。砂質シルト層よりなる。塊状で堆積構造は認められない。下位層との層理面は明瞭である。本層の頂部、標高 15.08m が遺構検出面となる。本層の火山灰分析を行なったが火山灰は検出されなかった(表 27)。

白木遺跡

白木遺跡では 19 区の 2 地点でバックホウによる掘削を行っている。地点 6 は 19 区の西端でバックホウにより地表面から約 2.0m 掘削した(第 56 図)。下位層より、標高 13.01m ~ 13.25m は大礫~巨礫層である。灰色の中粒砂~極粗粒砂を基質とする基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、礫種として濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の淘汰は良い。基質である砂の火山灰分析を行なったが噴出年代のわかる火山灰は検出されなかった(表 31)。標高 13.25m ~ 13.36m は青灰色を呈する粘土層である。塊状で堆積構造はみられない。本層と下位層との層理面は明瞭である。本層の最下部、標高 13.20m 付近で採取した粘土層の土壌試料の放射性炭素年代測定では 1347-1297 cal yr BP (603-653 AD : PLD-41168) の数値年代が得られた(表 32)。標高 13.36m ~ 14.70m は灰色~灰褐色のシルト質砂層からなる。塊状で堆積構造はみられない。本層と下位層との層理面はその色調の差から明瞭である。標高 14.70m ~ 15.04m は灰色の砂質シルト層である。本層は現代の盛り土であり、本層の頂部、標高 15.04m が地表面である。

地点 7 は 19 区の中央部でバックホウにより遺構検出面より約 1.5m 掘り下げた(第 57 図)。下位層より標高 13.59m ~ 14.33m は大礫~巨礫層からなる。礫と礫との間を充填する基質は褐色を呈する中粒砂~極粗粒砂からなる基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の淘汰は良い。基質である砂の火山灰分析を行なったが火山ガラス等の給源を特定できる火山灰は検出されなかった(表 31)。標高 14.33m ~ 14.96m は赤褐色~褐色を呈するシルト質粘土層である。地層は全体に塊状で堆積構造はみられない。下位層との層理面は明瞭である。本層および下位層の礫層との層理面は数度の傾斜で西へ傾いており、本層と礫層の間にはくさび状に細粒砂層が挟まれるのを観察した。挟まれる砂層の淘汰は良好である。

謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの伊藤 茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林紘一氏・Zaur Lomtadze 氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.

古澤 明, 2003, 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別, 地質雑, 109, 1-19.

町田 洋・新井房夫, 2003, 新篇 火山灰アトラス[日本列島とその周辺], 東京大学出版会, 336.

表 27 地点1 (21A区)、地点4 (20A区)、地点5 (21B区) の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	テフラ名
				Bw	Pm	O	Opx	Gho	Cum		
4	20A	14.76	大礫~巨礫層	0	0	0.1	12	16	0	0	
1	21A	14.47	大礫~巨礫層	0.3	0.1	0.1	10	11	0	0	御岳湯町テフラ含む
5	21B	14.28	灰色砂質シルト層	0	0	0	13	29	0	0	
5	21B	13.57	大礫~巨礫層	0	0.1	0.1	7	28	0	0	

glass EDX

Bw: バブルウォールタイプ Opx: 斜方輝石
 Pm: パミスタイプ Gho: 緑色普通角閃石
 O: 低発泡タイプ Cum: カミングトン閃石

表 28 地点2 (20B区) の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	火山ガラスの屈折率	テフラ名
				Bw	Pm	O	Opx	Gho	Cum			
2	20B	14.16	大礫~巨礫層	0.1	0.2	0	31	34	0	0	1.498-1.507	

Bw: バブルウォールタイプ Opx: 斜方輝石
 Pm: パミスタイプ Gho: 緑色普通角閃石
 O: 低発泡タイプ Cum: カミングトン閃石

表 29 地点2 (20B区) における放射性炭素年代測定結果

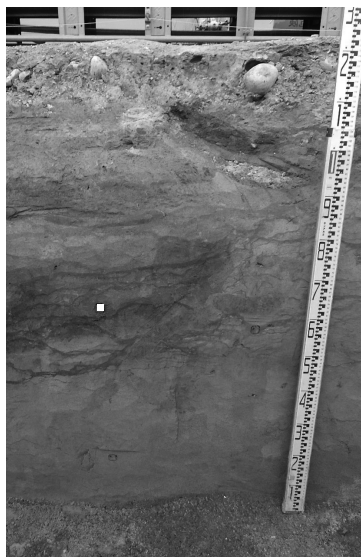
地点	調査区	標高	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
2	20B	14.19	黒褐色粘土層	土壌	2920 ± 20	-25.20 ± 0.12	1136 - 1046 BC (58.40 %) 1210 - 1138 BC (34.37 %) 1030 - 1019 BC (2.68 %)	3085 - 2995 (58.40 %) 3159 - 3087 (34.37 %) 2979 - 2968 (2.68 %)	PLD - 43722 (AMS)

表 30 地点3 (20A区)、地点4 (20A区) の放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	標高	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
3	20A	15.76	黒褐色シルト層	土壌	1910 ± 20	-22.42 ± 0.15	68 - 209 AD (95.45 %)	1882 - 1741 (95.45 %)	PLD - 50652 (AMS)
4	20A	15.78	黒褐色シルト質粘土層	土壌	1795 ± 20	-22.01 ± 0.17	279 - 331 AD (55.58 %) 215 - 259 AD (39.87 %)	1671 - 1619 (55.58 %) 1735 - 1691 (39.87 %)	PLD - 50653 (AMS)



第51図 地点1 (南山町遺跡21A区) における深掘の地層断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。スタッフの長さは3m。南から撮影



第52図 地点3 (南山町遺跡20A区)南壁中央部の地層断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影



第53図 地点5 (南山町遺跡21B区)西壁における深掘の地層断面
東から撮影



第54図 地点2（南山町遺跡20B区）における深掘の地層断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。南から撮影



第55図 地点4（南山町遺跡20A区）南壁北端における深掘の地層断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影

表 31 地点 6（19区）、地点 7（19区）の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	テフラ名
				Bw	Pm	O	Opx	Gho	Cum		
7	19区	14.33	大礫～巨礫層(上部)	0	0	0	13	17	0	0	
7	19区	13.59	大礫～巨礫層(最下部)	0.1	0	0	25	24	0	0	
6	19区	13.01	大礫～巨礫層	0	0	0	20	19	0	0	

Bw: バブルウォールタイプ
Pm: ノミスタタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石
Gho: 緑色普通角閃石
Cum: カミングトン閃石

表 32 地点 6（19区）における放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	標高	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code
6	19区	13.20	青灰色粘土層	土壌	1420 ± 20	-27.44 ± 0.16	603 - 653 AD (95.45 %)	1347 - 1297 (95.45 %)	PLD - 41168 (AMS)



第56図 地点6（白木遺跡19区）西端における深掘の地層断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。北東から撮影



第57図 地点7（白木遺跡19区）調査区中央部における深掘断面
白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影

第5章 総括

1 南山町遺跡の調査成果

江南市域では遺跡の発掘調査事例が少ないこともあり、周辺の開発が進行するなかでの南山町遺跡の調査は、地域の財産としても貴重な埋蔵文化財資料を新たに加えることになった。

調査範囲は大口町との境界となる五条川の右岸から東西方向約190mとなる細長い区画であり、起伏の大きい扇状地地形に展開した複合遺跡を確認した。調査地点周辺は、昭和50年代に行われた国道155号の建設にともなう大規模な改変の影響を受けている。現況はほぼ平坦であるが、現在の五条川堤防より距離にして約120mまでの範囲では上部が削平された自然堤防の痕跡が、さらにその西側では大きく窪む旧流路の痕跡などの地形が確認された。断片的とはなるが、調査成果をもとに土地利用の変遷をまとめておきたい。

古墳時代 古墳時代は、4世紀初頭を中心とした時期の土師器の小片が溝(20A区054SD, 20B区148SD)を中心に出土している。明確な遺構はほとんど検出されておらず、21A区東端付近で壺(182)が出土した106SKのみである。この時期に周辺では居住が始まっていたとみられる。北側に位置する富士塚古墳の築造時期に関わる資料は得られなかった。

古代 遺構に伴う出土遺物では、7世紀から8世紀が今回の調査地点で最も活発な活動がみられた時期である。五条川に近い東側では、古墳時代前期の土師器から8世紀前半の須恵器までが含まれる大型の溝(054SD)のみが削平を免れて遺存していた。流路に沿う自然堤防上が活発に

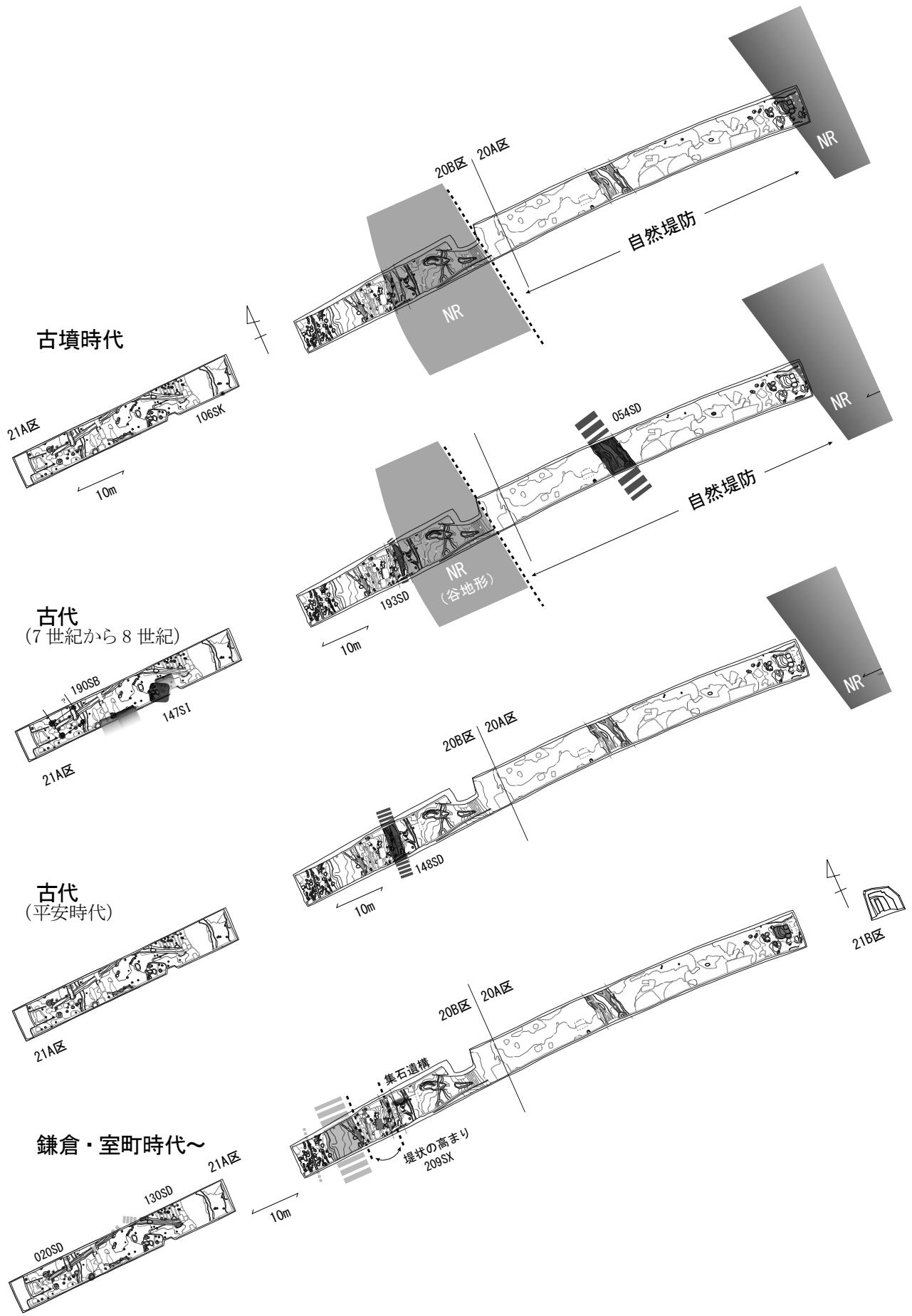
竪穴建物 利用されていたとみられる。流路からやや離れた西側で居住域が確認できた。竪穴建物21A区147SIは、出土遺物小片と炭化材の年代測定結果から7世紀後半から8世紀後半の時期と比定され、不明瞭ながらも周囲に複数の竪穴建物が推定できる。出土遺物は7世紀後葉から8世紀前葉の須恵器があり、このうち2点には刻書が認められる。これらは調査区外南側にかけても

掘立柱建物 集落域が広がる可能性を示している。さらに、中世の溝に先行する掘立柱建物跡(21A区190SB)も推定でき、建替えにより重複する柱穴の一つからは8世紀後半の須恵器が出土している。

平安時代 平安時代は遺構に伴うものが少ないが、20B区を中心に灰釉陶器と清郷型鍋が出土している。調査範囲中央付近で確認された谷地形(旧流路跡)の埋積が進むとともに溝148SDが機能していたと考えられる。建物などの遺構が明確に確認できないが、表土直下の集石遺構(089～

瓦塔 092SU)をはじめ包含層には灰釉陶器が多数含まれており、注目される資料として小片ながら瓦塔(157)が出土している。10世紀頃には周辺での活動は活発化していたと想像される。

中世 鎌倉・室町時代の遺構または遺物は、調査区のほぼ全体で確認されたが、五条川に近い東側(20A区)では遺構が極端に疎らとなる。削平された自然堤防上が利用されていたかもしれない。一方、西側は近世には整備されていたという街道(岩倉街道)が想定されており、査地点の南西600mほどの内に織田・豊臣・徳川家に仕えた生駒氏の屋敷跡(小折城・生駒屋敷)、菩提寺の久昌寺、生駒氏墓地などが分布している。調査範囲の西寄りにかけての遺構・遺物が濃密に分布することは、街道整備以前の交通路との関連や集落の中心域がさらに西側に展開する様相として捉えることができよう。調査では12世紀後半から13世紀代を中心とした区画溝(020, 130SD)や柱穴などが検出された。軸線方向が異なり複数時期の変更があるためと考えられる。



第 58 図 南山町遺跡 主要遺構変遷図

2 白木遺跡の調査成果

(1) 遺構・遺物と遺跡の変遷

遺跡の内容 白木遺跡は過去の発掘調査、同事業に伴う大口町、そして今回の発掘調査により、遺跡の内容が一定程度に明らかになった。遺跡は東西約 100m、南北約 300m の南北に細長い自然堤防上に展開する複合遺跡で、遺構・遺物が示す時期は古代の7世紀後葉から8世紀前葉が主体である。

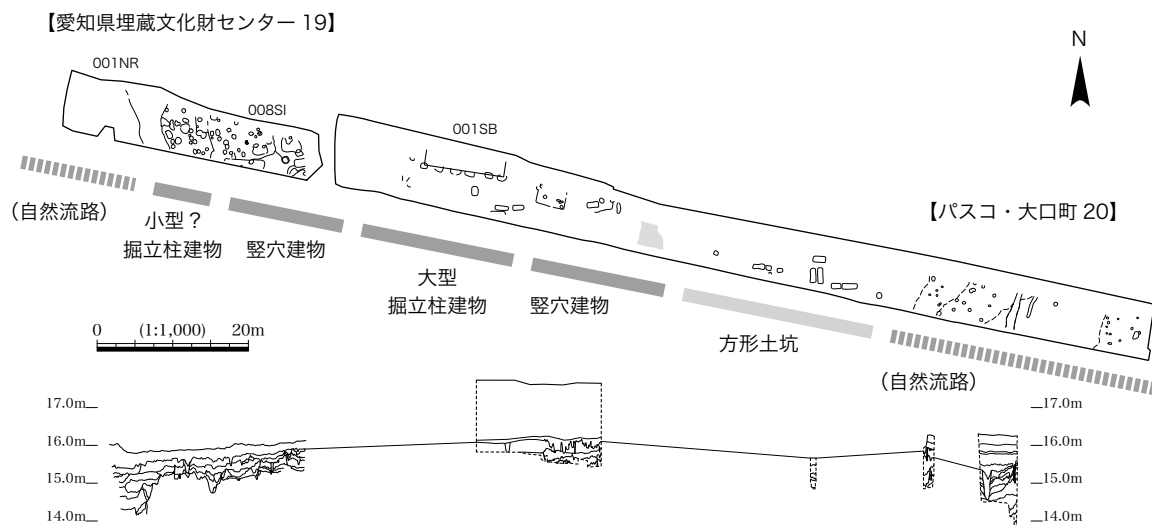
弥生時代 弥生時代後期から古墳時代中期は遺物が断続的に出土する。遺物は古墳時代前期初頭が相対として多い。同時期については、遺物が明確に伴う遺構を認識することは困難で、不安定な環境下にあったと推測される。大口町調査の下面では弥生時代終末期（古墳時代初頭）とされる竪穴建物、柱穴等の遺構が確認されているが、「明確な遺構の判別は困難を極めた」と述べられてもいるように、実際には上層で検出が困難であった遺構を結果として下層で検出した可能性もある。

昭和 47 年の緊急調査で出土したとされる遺物には弥生時代中期の遺物が多く含まれるが、令和2年度の大口町調査においても同時期の遺構・遺物はほとんど認められないことから、ごく限られた範囲に展開していたのであろう（あるいは、緊急調査出土とされる遺物中に他の遺跡の遺物が含まれている可能性もある）。

古代 古代は7世紀から8世紀にかけて竪穴建物、掘立柱建物から構成される遺構群が展開する。

遺構の分布 遺構は高燥な自然堤防の頂部付近に大口町調査の大型掘立柱建物（以下、大型柱穴列を大型掘立柱建物として扱う）001SB、その東西の緩斜面に竪穴建物が分布する。さらにその東西は後背地、自然流路に連続する（第 59 図）。001SB は調査区の制約から、桁行が判明するのみであるが、桁行 11.4m で、後述する下田南遺跡でも最大、桁行 11.0m の SB0008 とほぼ同規模である（柱間は前者が5間、後者が6間）。時期は明確ではないが、遺跡の盛期である7世紀後葉から8世紀前葉が想定される。

9世紀以降の遺構、遺物は極端に減少し、中世には方形土坑が散在する程度になる。その後は、耕作地としての土地利用に変移し、集落は五条川右岸に集約されたと考えられる。



第 59 図 白木遺跡の遺構分布

(2) 古代の遺構と時期変遷

時期区分 センター調査区の古代の遺構については、遺構の先行関係と出土遺物から、3期に区分して理解する(第60図)。

1期 2期に先行する竪穴建物 009SI・014SI が構築される時期を1期とした。竪穴建物に伴う遺物は明確ではないが、遺跡から出土する遺物から7世紀前葉から中葉(東山44号窯式から岩崎101号窯式)が想定される(出土遺物からは6世紀が含まれる可能性もある)。遺構の重複による影響が大きく、詳細は明らかではない。

2期 竪穴建物 008SI・005SI が構築される時期を2期とした。大型竪穴建物 008SI、出土遺物の内容から、遺跡の中核的な時期と理解され、7世紀後葉から8世紀前葉(岩崎17号窯式から高蔵寺2号窯式)が想定される。010SIは明確ではないが、2期から3期に対応すると考えられる。「人」刻書須恵器が出土した昭和47年の緊急調査の遺構、大口町調査 001SI も同時期に対応する。この時期には西端の自然流路の埋没が進行し、遺跡周辺は平坦化する。

3期 竪穴建物 003SI・007SI が構築される時期を3期とした。8世紀中葉から後葉(岩崎25号窯式から折戸10号窯式)が想定される。掘立柱建物の時期は明確ではないが、3期を前後して、竪穴建物は 010SI を含めて調査区東端付近に構築されることから、位置関係を考慮して仮に 006SB を2期、004SB と 013SB を3期と想定した。8世紀後葉には建物群が廃絶に向かい、遺物も減少する。

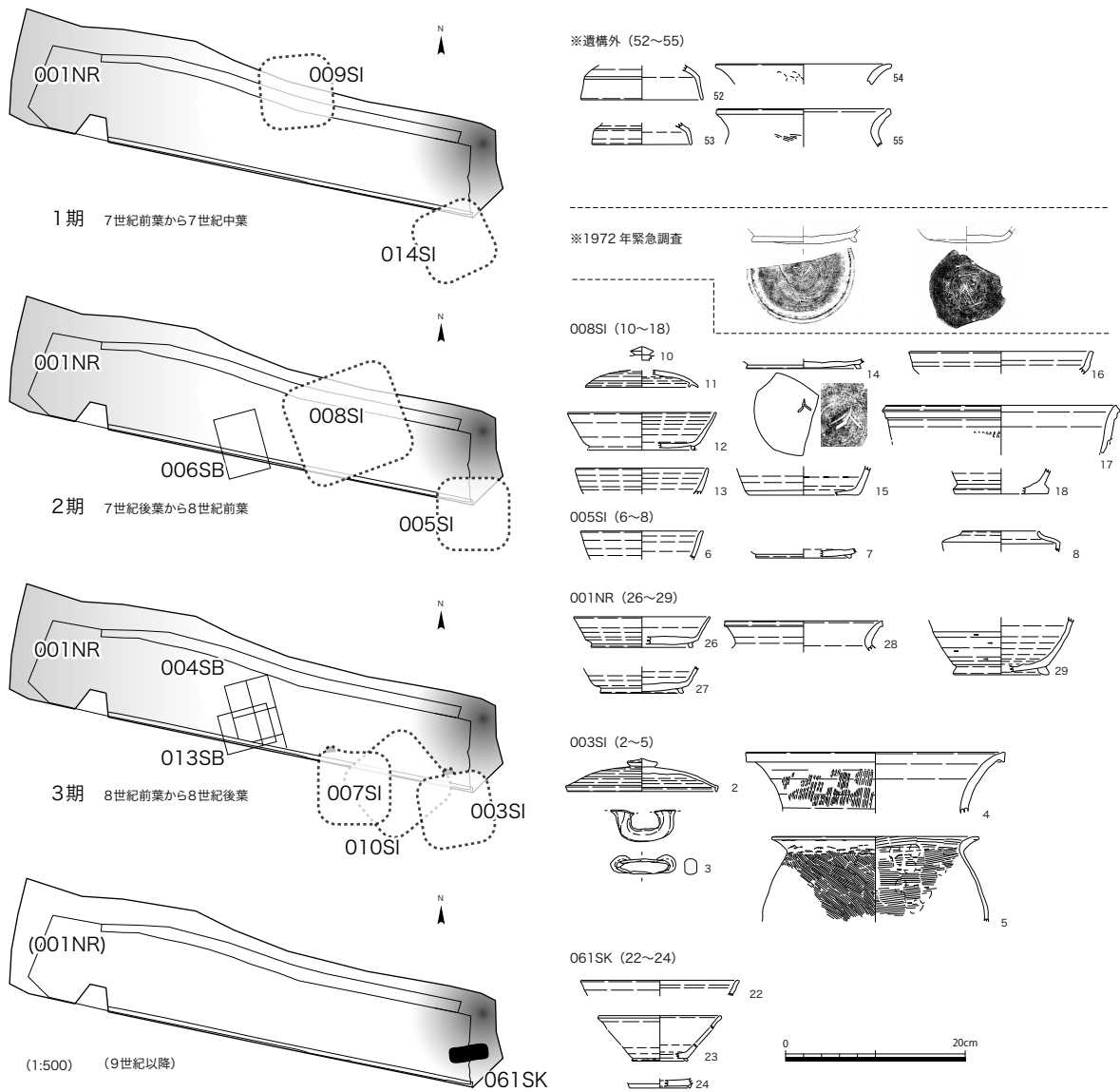
(3) 古代の遺構と遺跡の評価

遺構と遺物 遺構の面からは、大口町調査で検出された大型掘立柱建物 001SB と今回の発掘調査で検出された大型竪穴式建物 008SI、遺物の面からは緊急調査で2点、今回の発掘調査でも1点が出土した「人」刻書須恵器が注目される。前者は下流側の下田南遺跡で検出された総柱構造を含めた掘立柱建物(倉庫群)と大型竪穴建物、後者は尾北窯に含まれる篠岡66号窯との関連が想起される。

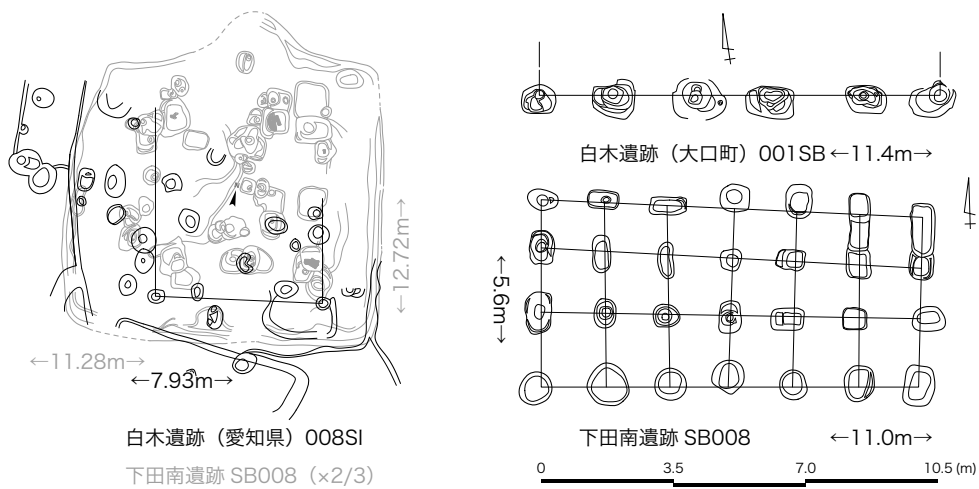
下田南遺跡 7世紀後半から8世紀前葉(下田南IV期)の下田南遺跡の遺構群は、周辺を含めて郡庁を想定することは難しいとされるが、掘立柱建物は丹羽郡家(評家)の出先機関の正倉と推定されている。丹羽郡家(評家)そのものは「小折」の地名、天王山遺跡の古墳、曾本二子山古墳、いわき塚古墳等の有力な古墳で構成される小折古墳群(早野2023)から、江南市の小折地区に存在したことが有力とされる(赤塚2001)。

白木遺跡と下田南遺跡の大型掘立柱建物の規模の類似は先述の通りで、高燥な自然堤防状微高地に立地する点も共通する。大型竪穴建物については、白木遺跡の大型竪穴建物 008SI は、長辺 12.72m、短辺 11.28m の下田南遺跡最大の 1d 区 SI609 には大きく及ばないが(2:3の比率で対応する)、それを除く大型竪穴建物の一群の規模に匹敵する。つまり、同地区に接し、下田南遺跡とも類似する白木遺跡の遺構は郡家(評家)との関連が推測される。同時に、下田南遺跡の至近にある薬師堂廃寺、白木遺跡と下田南遺跡の中間に所在する長福寺廃寺は郡家(評家)周辺寺院として捉えられることになる。

篠岡66号窯 篠岡66号窯は、「五十長」、「多楽里(尾)張戸連」(〈尾〉が脱落)、「多楽里尾口」、「鹿田里積口」、「雀(ア)足」、「口(ア)足」、「山田安」、「多楽里」、「多楽」、「長」を記した豊富な文字瓦が出土している高蔵寺2号窯式期の瓦陶兼業窯である。同窯が含まれる尾北窯には顕著な中央志向が指摘されることから(城ヶ谷1996)、同窯から製品が供給された可能性が示唆される白木遺跡の性格の一端が看取される。

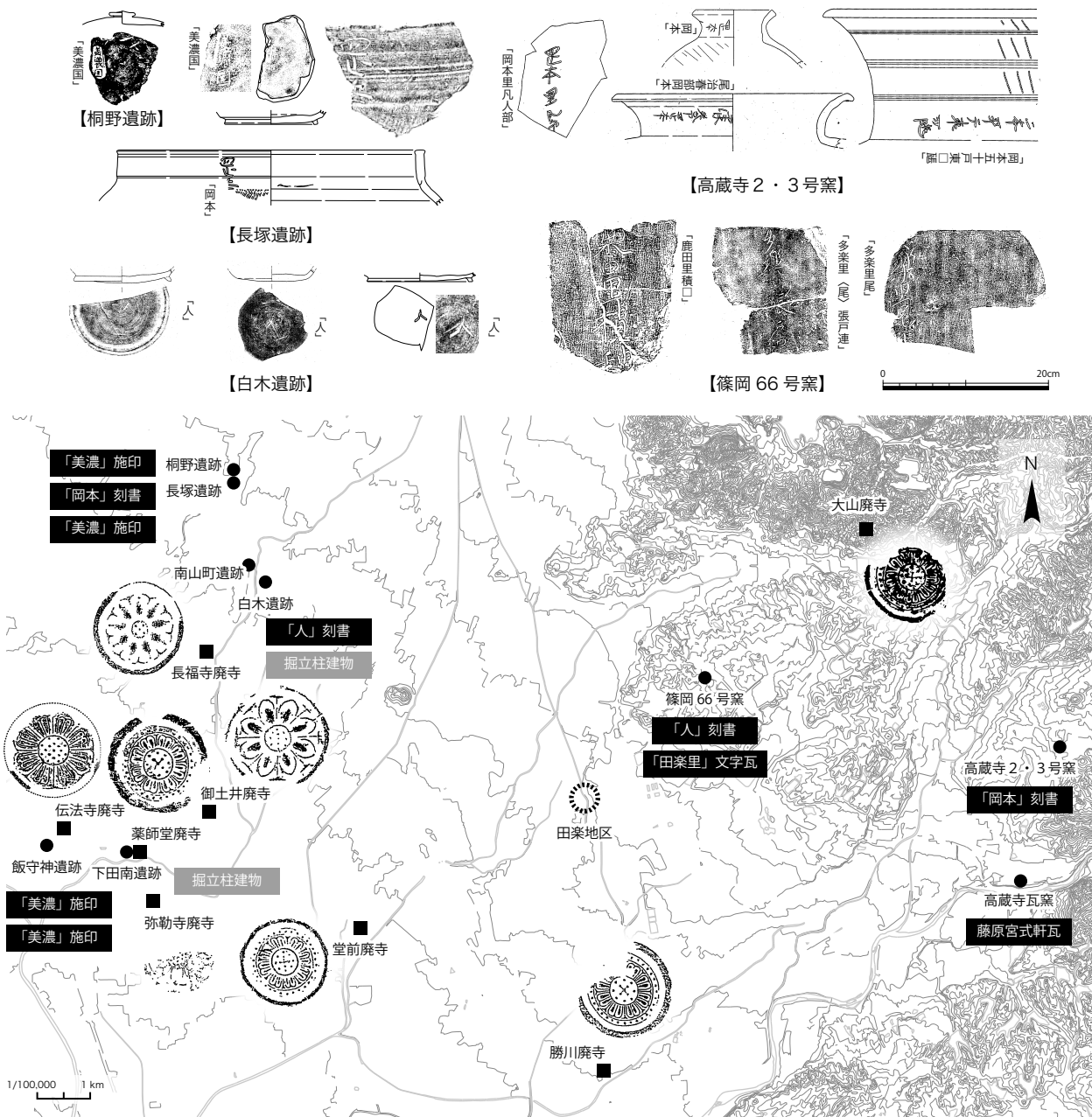


第60図 古代の遺構と時期変遷



第61図 白木遺跡と下田南遺跡の大型建物の比較

長塚遺跡 同じく小折地区に接する長塚遺跡には「岡本」刻書須恵器が知られている(岩野 1998)。「岡本」刻書須恵器は高蔵寺2・3号窯の製品に認められることから、同窯を含めた尾北窯から供給されたことは確実である。さらに、長塚遺跡とその至近の桐野遺跡の「美濃」施印須恵器は美濃須衛窯からも製品が供給されていたことを示す。つまり、小折地区周辺は、尾北窯・美濃須衛窯を管掌していた中央と(その出先機関である)尾張・美濃の官衙機構と密接な関係にあったことが推測される。それは尾北窯の「岡本」刻書須恵器と美濃須衛窯の「三野國加々ム(牟) 評口」、「秦可児・御嵩地域 人マ佐口 三野國加口」刻書須恵器が出土している石神遺跡からも類推される。「岡本」刻書須恵器は他に可児・御嵩地域の雨田遺跡においても出土している(渡辺 1998)。同地域の宮之脇遺跡A地点から1点、柿田遺跡から6点の「美濃」施印須恵器が出土していることも、尾北窯と美濃須衛窯の関係の深さを示す。



第 62 図 古代の白木遺跡とその周辺

藤原宮式軒瓦 一方、下田南遺跡に隣接する薬師堂廃寺には高蔵寺瓦窯から供給された(勝川廃寺とも同范の)藤原宮式軒瓦が出土している。大山廃寺、堂前廃寺の文様がやや退化した同文瓦を含めた分布が尾北窯の東部に限られることも、この地域の特性を反映している(梶原 2010)。近隣の伝法寺地区の飯守神遺跡から出土した「美濃」施印須恵器2点もその一端である。

丹羽郡家 五条川左岸の上流側と下流側に分布する白木遺跡と下田南遺跡の周辺における遺構・遺物の存在形態は、7世紀から8世紀における地方の官衙機構を解明するための重要な手掛かりとして評価される(第62図)。ひいては、これまで不明であった丹羽郡家(評家)にかかる議論に一石を投じることになるであろう。小折古墳群と遺跡、丹羽郡家(評家)の接続を考究する端緒が得られたことも意義深い。

【参考文献】

- 赤塚次郎 2001「原始」『江南市史』本文編 江南市
岩野見司 1998「岡本」 篋書き須恵器の新例『榑崎彰一先生古稀記念論文集』真陽社
梶原義実 2010「軒瓦」『愛知県史』資料篇4 考古4 飛鳥～平安
城ヶ谷和広 1996「律令体制の形成と須恵器-7世紀における瓦陶兼業窯の展開-」『日本考古学』第3号 日本考古学協会
早野浩二 2023「小折古墳群の研究-江南市天王山遺跡の家形埴輪-」『研究紀要』第24号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
渡辺博人 1998「岐阜県御嵩町雨田遺跡出土の「岡本」 銘須恵器とその背景」『岐阜史学』第94号 岐阜史学会
愛知県 2007『愛知県史』別編窯業2 中世・近世 瀬戸系

【遺跡文献】

- 愛知県 2010『愛知県史』資料篇4 考古4 飛鳥～平安
愛知県 2015『愛知県史』別編 窯業1 古代 猿投系
愛知県一宮建設事務所・株式会社パスコ・大口町歴史民俗博物館 2022『白木遺跡』
岩倉市教育委員会・株式会社アーキジオ 2023『下田南遺跡発掘調査報告書』
大口町 1982『大口町史』
大口町教育委員会 2010『大口町内遺跡発掘調査報告書』大口町埋蔵文化財調査報告書第7集
江南市 1983『江南市史』資料四 文化編
小牧市教育委員会 1976『桃花台ニュータウン遺跡調査報告』
奈良国立文化財研究所 1993『奈良国立文化財研究所年報』1993

報告書抄録

ふりがな	みなみやまちょういせき・しらきいせき							
書名	南山町遺跡・白木遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第224集							
編著者名	武部真木(編集) 早野浩二 鬼頭 剛 (株)パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2024年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみやまちょういせき 南山町遺跡	あいちけん こうなんし 愛知県江南市 みなみやまちょう 南山町	23217	060063	35度 18分 51秒	136度 52分 50秒	2020.07.06～ 10.16 2022.01.06～ 03.07	1,040 700	道路改良 工事
しらき いせき 白木遺跡	あいちけん にわくぐん 愛知県丹羽郡 おおぐちちょうとよだ 大口町豊田	23361	230024	35度 18分 50秒	136度 52分 59秒	2020.02.07～ 03.17	370	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南山町遺跡	集落	古墳時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、溝、 集石遺構、土坑等	古墳時代土師器、 瀬戸美濃窯産陶器、 石製品、金属製品等		瓦塔(小片)		
白木遺跡	集落	古墳時代 ～ 奈良時代	竪穴建物、土坑、 掘立柱建物等	土師器・須恵器等		大型竪穴建物 刻書須恵器		
文書番号	南山町遺跡 発掘届出(2埋セ第30号 2020.6.9) 発掘届出(3埋セ第83号 2021.8.20) 通知(2文芸第783号 2020.6.9) 通知(3文芸第1433号 2021.9.6) 終了届・保管証・発見届(2埋セ第112号 2020.10.21) 終了届・保管証・発見届(3埋セ第149号 2022.3.14) 鑑定結果通知(2文芸第2512号 2020.11.18) 鑑定結果通知(3文芸第2636号 2022.3.24) 白木遺跡 発掘届出(31埋セ第101号 2019.12.24) 通知(31教生第3141号 2020.1.14) 終了届・保管証・発見届(31埋セ第154号 2020.3.19) 鑑定結果通知(2文芸第55号 2020.4.7)							
要約	<p>犬山扇状地扇央部に立地する遺跡であり、五条川の自然堤防上に両遺跡は立地する。</p> <p>南山町遺跡(江南市)では古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代まで断続的に遺物が認められた。主な遺構の分布から、調査地点は7世紀後葉から8世紀には竪穴建物からなる集落が展開し、12,13世紀には集落の縁辺部となっていたと考えられる。</p> <p>白木遺跡(大口町)では竪穴建物、大型の柱穴をもつ掘立柱建物で構成される遺構群が検出され、刻書された須恵器が出土するなど、7世紀後葉から8世紀前葉を盛期とする集落が確認された。この周辺ではこれまで空白期であった時期の資料である。</p>							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第224集

南山町遺跡 白木遺跡

2024年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社